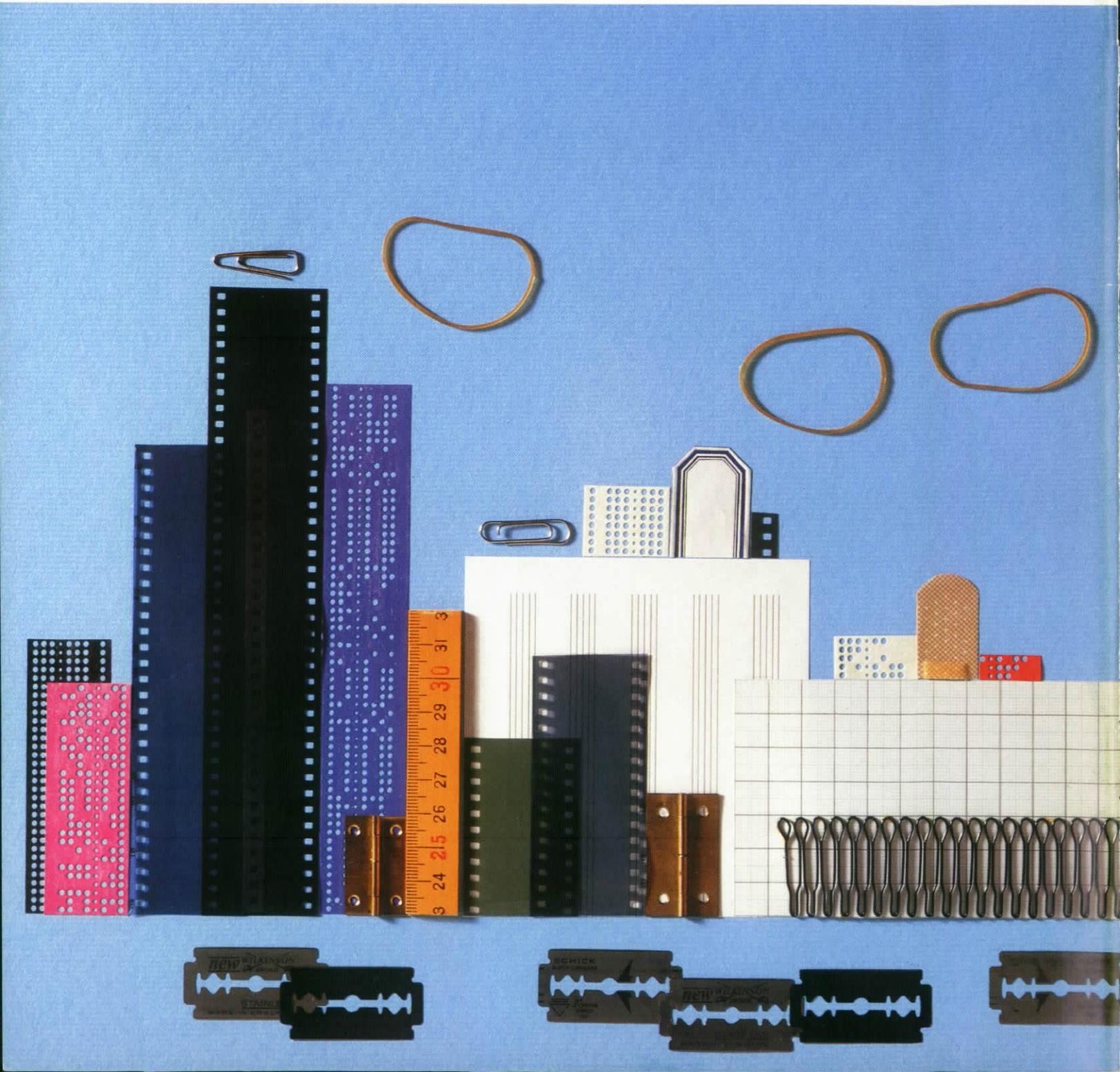
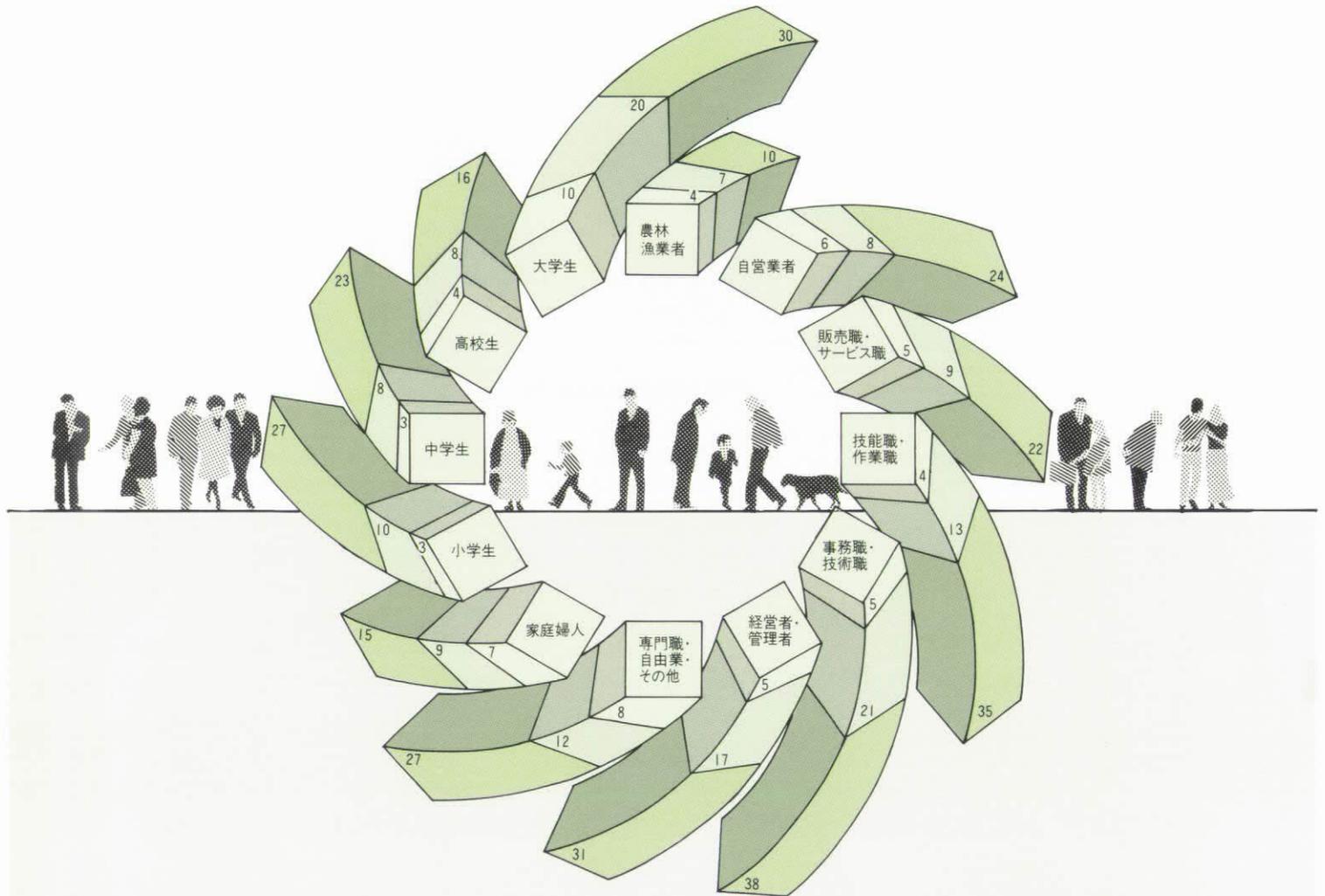


21世紀フォーラム

10

特集|遊歩





凡 例：単位は分。棒は内側より平日・土曜・日曜の順。
 参考資料：NHK放送世論調査所
 昭和55年度国民生活時間調査結果の概要
 職業別行楽・散策時間より
 制 作：村野京一

遊歩の時間

資源確保に長期的な視野で対応

資源政策Ⅱ二十一世紀をめざした資源政策への提言として、科学技術庁長官の諮問機関である資源調査会が、総合調査報告をまとめた。世界

の約一〇パーセントのエネルギー・工業資源を使いながら、エネルギー資源の自給率が十三パーセントにすぎない現状をふまえ、長期的な視野

傾く太陽をついに呼び戻せたか

太陽熱発電Ⅱ八月六日、香川県仁尾町にある電源開発会社の太陽熱発電プラントが、世界で初めて、出力一千キロワットの本格発電を開始した。このプラントは、多数の鏡を使った集熱器で太陽光線を集め、水を沸騰させて、蒸気の力により発電タービンを回す仕組みになっている。問題はコスト。最初のプラントが割

高であるとはいっても、一キロワット当たり約五百万円の建設費は水力の十倍、原子力の二十倍、石油火力の四十倍にもなる。ただ、燃料費や廃棄物処理の費用がかからないので、大量生産が可能になれば、十分の程度にコストダウンする見込みはある。また、「お天気まかせ」の日照時間による夏の発電能力の差も大きい。今後二年間のテストを通じて効率的な熱の回収、装置の軽量化などの研究を進め、九〇年以降の実用化を目指している。

七百八十万戸が自前の太陽を持つ

家庭用ソーラーシステムⅡ石油ショック以後、太陽熱温水器の普及はめざましく、全国でその数三百万台に及んでいる。ソーラーシステムは、これを本格化し、家庭全体の構造に組み込むもので、集熱、蓄熱、放熱の装置を備え、給湯、暖房、冷房までまかなう。ただ、温水器なら十五万円程度ですむ費用が、ソーラーシステムとなると百万円以上にもなっており、元をとるのに十年間以上もかか

る。また、性能についての客観的基準、評価の方法がないため、消費者の不満やためらいを招き、普及にいまひとつはずみがかからない。この

にたつての対応策の展開を望んでいる。このため同報告は、①資源保有国の相互依存関係の強化②自給力の維持・強化と有効利用への努力③資源保有の多様化や供給ルートの分散化④エネルギー・工業資源、食料

しゃべる言葉を聞いて文章を書く機械

日本語ワードプロセッサⅡ和文タイプの機能に、修正、編集、印刷や記憶保管の動きを加えたワードプロセッサが、オフィス・オートメ

ーションの中心的な機器として普及している。しかし、日本語の特殊性を反映して、入力が多い。この問題に明るい見通しを与えるのが、電



自ら学ぶ第五世代コンピュータ

ため、通産省は、来年度から認定制度を充足させ、商品としての信頼度を高めるのに一役かうことにしている。これによって現在の三万戸を、六十五年度までに七百八十万戸に増やしたいと考えている。

第五世代コンピュータⅡ通産省は、一九九〇年代に実用化を目指す第五世代コンピュータ開発のための国際シンポジウムを東京で開く。コンピュータは真空管の第一世代、トランジスタの第二世代、集積回路の第三世代を経て、超大規模集積回路による第四世代の時代にいま入ろうとしている。第四世代までは、ノ

電公社の開発した「イソップ」と東芝の音声ワードプロセッサ。「イソップ」は、特殊な筆記板に手書きした文字を機械に読み取らせ、標準活字体に変換出力する。東芝の音声ワードプロセッサは、口述される文章を漢字まじりの文書に仕立て上げる。複雑なキーボードの操作が不要になるこの種の入力装置が実用化されれば、ワードプロセッサの有効性が一挙に高まり、オフィスの外にまで、オフィス・オートメーション革命が広がりそう。

次世代技術に十年間で一千億円を投入

次世代産業技術開発Ⅱ将来の技術立国を目指して、自主技術の確立を

図るため、通産省では、今年度から次世代産業基盤技術開発制度を充足させる。これまで、欧米から積極的に導入した技術を洗練させることによって、各分野の技術水準を向上させ、世界一流の域にまで達したわが

国は、研究開発投資の面では先進国中最低といわれ、独創的な技術開発力を持たねば、二十一世紀にかけての国際競争を戦い抜けないと懸念されている。この新制度は、十年間に一千億円を予算を当て、生命工学、

新材料、半導体の三領域で十二の研究課題を決め、官民共同して技術開発に取り組み。一つの課題について二―三社の企業に委託、三―五年の期限をつけて競争させ、研究の効率をあげる方針が決まっている。

「遺伝子組み替え」に十四社で研究組合

生命工学共同開発Ⅱ三菱化成、住友化学、三井東圧など十四の企業が参加する、「バイオテクノロジー開発技術研究組合」が設立され、欧米に

比べて数年は立ち遅れているといわれる生命工学の分野に、本格的に挑戦する。生命工学は、生物の遺伝子を組み替え、異なった細胞を融合させ

四枚の嚴重なドアをぐり抜けて……

高度安全実験施設（P4）は危険な病原体や微生物を扱う実験施設には、安全度の必要に応じて、P1からP4までの四段階の設備基準が決められている。P4はもっとも嚴重なもので、アメリカ、イギリス、南アフリカの合計四カ所にしかなかったが、このほど、国立予防衛生研究所村山分室に、世界で五番目のP4

施設が完成した。P4に入るには、四枚のドアを通らなければならない。一枚が完全にしまらないと、次のドアは開かない。マスク、ゴム手袋など完全装備を身につけた研究者は、密閉された箱の中に入れてある病原体を扱う。予防研では、当面、流行性出血熱、ラッサ病などの研究にあたる。一方、理研のライフサイエンス筑波施設にP4を作る計画は、「遺伝子工学の実験を住宅地域で行なうのは危険だ」と反対する住民の運動によって難航している。

全国八地域の地域産業ビジョンまとめ

地域産業ビジョンⅡ北海道、近畿、中国など、全国を八地域に分け、新しい時代の経済社会の開発を目指す「地域産業ビジョン」がこのほどまとまった。石油ショック後の低成長

高付加価値・知識集約産業の誘致をあげている。東北は、自動車道と新幹線開通の条件を生かし、機械工業やエネルギー立地をふやす。東海北

テクノポリスは二十一世紀の理想都市

よって、人口の地方定住志向が高まる一方で、工場の地方分散の停滞などの事態が進んでいるのを踏まえて、従来の長期ビジョンを見直したものの。例えば、北海道が示すビジョンは、国の財政への依存を減らし、

先端技術産業と、工学系大学や民間

せるなど、生物のもつ機能を工学的で利用する技術。インシュリンやインターフェロンといった医薬品の製造、病虫害や早ばつに強く肥料のいらない大型穀物などの食糧の生産、エネルギー源となる植物を開発する

都心の遊休社会資本も活性化しよう

モデル定住圏Ⅱ過密地域の人口や産業を地方に分散させるための受け皿として、三全総の柱であるモデル定住圏計画が進められている。一府

など、応用分野は広い。研究組合は、次世代産業技術開発に参加し、十年間に二百六十億円の資金投入が見込まれている。遺伝子組み替え利用技術、微生物利用反応装置、細胞大量培養技術の三分野で研究を進める。

産業の振興、交通網の整備などを中心に、さらに教育や文化に重点を置くもの、医療や健康を中心にするものなど、地域の特色を生かし、生活環境全般に目をくばった幅広いものになっている。一方、東京の千代田、中央、港、新宿、文京、台東の六区の場合は、昼間人口の流出による社会資本の遊休化、居住環境の悪化、地域社会の崩壊などを防ぐため、計画的な住宅再開発によって、快速な定住環境をつくるのを狙っている。



東京・武蔵野に五十九年からテレビ電話

陸は、名古屋から岐阜・富山・能登に向かう南北を軸に経済発展を図る。九州は日本経済の一角を占めることを目標とする。通産省は、五十七年度以降、具体化できるものから政策に盛り込む。

高度通信システム（TNS）は電公社が、二十一世紀の情報化社会の中心に位置づけているのがTNS（インフォメーション・ネットワーク・システム）である。現在のアナログ方式（信号を符号化しないで、強弱の変化で伝える）の電話を、データ通信と同じデジタル方式（情報を二進法で、大量、正確に伝える）

にし、通信回線を一本のデジタル回線にまとめて効率化を図るもの。デジタル化によって、電子計算機による情報処理が円滑になり、光ファイバーや通信衛星を使って、家庭や企業の間を結ぶテレビ電話、情報検索、ファクシミリ新聞など、高度の通信も実用化される。電公社は、東京の武蔵野と三鷹の加入電話一万台を対象に、五十九年度からモデル事業をはじめると予定である。また、筑波学園都市でも、六十年度をメドに実験に入る。

の研究所にあわせ、環境のよい住居地域を備えた「高度集積都市」を建設し、二十一世紀の理想都市にしようという計画。テクノポリスの適格条件は、三大都市圏と日帰り旅行ができ海外からの情報収集も可能な母

都市が近くにあり、母都市は消費生活や文化面でも魅力を持ち、周辺にある程度の産業の集積があるなど。昨年春に通産省の構想が明らかになると、三十八地域が名乗りを上げ、激しい誘致合戦となった。この

ため、候補地は、当面予定の五、六カ所が十六カ所にふくれ上がり、また一カ所にしぼられるはずの建設地も数カ所に増やされた。本決まりになれば六十一年度に着工、六十五年以降に完成する運びとなる。

自宅のテレビに好みの情報が映し出せる

キャブテン・システムⅡコンピュータに打ち込まれた情報を、電話を利用してテレビの画面に映し出すニューメディア。五十八年度実用化を

めざし、現在第二期実験サービスがはじまっている。第二期実験では、速報性を生かすため、新聞社などの情報提供者が、電話回線を使い、か

災害時にはテレビが自動的に

動的につく

大地震緊急警報放送システムⅡ大規模地震に備えて、災害時に、警報など重要な情報を放送する実験がはじまり、来年中には実用化される見通しである。放送局が特殊な電波を発信すると、この電波を受ける接続器をつけたラジオやテレビに自動的にスイッチが入って緊急放送が聞け

るとも予想される。また放送終了と同時に自動的に

「魔の海域」の謎を解くブイロボット

観測用ブイロボットⅡ大型船舶の相次ぐ海難事故によって「魔の海域」と恐れられている千葉県・野島崎沖に、波浪などの観測用ブイロボットを設置する計画が、運輸省によって進められている。対象になるのは野

島崎の東五百キロから二千キロの東西約千五百キロ、南北約千キロの海域。ここでは、最近の十年間、冬季に八隻の大型船が沈没しており、大きな三角波などの異常波浪が原因と

八〇年代の後半にはYS11の孫が飛ぶ

次々期民間輸送機（YXX）ⅡYS11、日米伊の三者が共同開発中の

なタイプを打つと漢字まじりに変換できる入力装置で情報を入れる。利用者には、好きなときに欲しい情報を引き出せるが、今回から、画面をコピーできる装置が取り付けられた。さらに、切符の予約や商品の注文が

できる注文サービスの機能も加えられている。情報を提供するものは、新聞、出版など百七十一社、モニターは一般家庭が千二百、事業所が五百など約二千で、一部の展示用を除いて、東京二十三区内に限られている。

風力も利用する省エネ時代の輸送船

省エネルギー船Ⅱ一トン二十ドル以下だった船舶用燃料が、石油ショックによって二百三十ドルにも高騰した事情を反映し、省エネルギー船

の開発・建造にはずみがついている。原材料を遠方から運んでくる日本の鉄鋼業界がもつとも熱心で、鉄鉱石、原料炭の専用船は、大幅な省エネ



北極圏を航行する30万トンのタンカー

氷海タンカーⅡ膨大な資源を秘めている北極圏の開発に、各国の熱い目が注がれており、同時に、石油や天然ガスを運ぶ氷海タンカーの開発競争も、一段と激しさをましてきている。零下五〇度、厚い氷におおわれた暗黒の海に資材を運び、資源を積みとるには普通の船は使えない。このために、米、ソ、カナダ、フイ

ンランド、西ドイツなどで、砕氷船の研究が進んでおり、遅ればせながら、日本も一枚加わった。厚さ二、五メートルの水を割って三ノットで走る十万〜三十万トンの船が当面の目標で、企業・官庁・業界による推進連絡会が発足、運輸省船舶技術研究所にできた氷海水槽を使い本格的な実験が始まった。建造費や運航量も割り高になるこの種の船を実用化するには、大きな困難が予想されるものの、九十年代には実現が見込まれている。

YXに次ぐ、日本の民間航空機生産計画の第三弾がYXX。百五十八乗りの国内線用ジェット旅客機で、現在、世界中で運輸中のこの級の旅客機は、一九八五年から一九九五年の間に千二百〜千五百機の代替需要見

込みがある。二十一世紀への「先端産業」を目指すわが国の航空機業界が本腰を入れる大型計画だけに、各国の反応は素早く、共同開発への名乗りが相次いだ。結局、米・ダグラス・オランダのフォッカー連合と、

地下鉄の無人運転はすでに実用段階

無人電車は九州で初めての地下鉄が、七月、福岡で営業をはじめた。この地下鉄の運行は、コンピュータによるCTC方式(列車集中制御)によるCTC方式(列車集中制御)

装置)で、コントロールセンターの電光表示板に全列車の動きがあらわれ、万一異常事態が発生した場合、直ちに駅や電車に指示、コントロール

「中央新幹線」はリニアモーターカーで

リニアモーターカーは磁石の力で車体を浮き上がらせ、通常の回転モーターのかわりに、線状にしたリニアモーターで走らせるといふ、まったく新しい考えに立脚した列車。極低温下で強大な電磁石を使う「超伝導式」と、普通の磁石による「常伝導式」がある。日本では、日本航空の常伝導式が七年前から開発にかか

り、有人実験にも成功した。一方、国鉄は、十年前から超伝導式による実験を続けており、五十四年には、時速五百七十七キロの新記録をつくっている。現在、日航は開発を中止したが、国鉄は西ドイツとの共同開発に踏み切り、常伝導式に切り替えて実用化を急ぐ。高木国鉄総裁は、東京と大阪の「中央新幹線」に導入する構想を明らかにしており、時速三百キロ、線路との摩擦がなく、騒音や振動と無縁の超高速列車の実現も夢ではない。

ビバノ! 甘党、低カロリー甘味料が続々

低カロリー甘味料は虫歯、肥満、糖尿病の原因になる、ときらわれて砂糖の消費量は、最盛期の三分の二に落ちている。「しかし、甘いものは手離せない」という人を狙って、砂糖にかわる低カロリー甘味料の開発が盛ん。新製品のひとつ、明治製菓の「ネオシュガー」は、砂糖の主成分を、微生物が産み出す酵素を使って、体内に吸収されにくいように改良してある。甘さは砂糖の三〇パー

セントだが、吸収されにくいために、カロリーは砂糖の十分の一以下という。一方、味の素が製造する「アスパルテーム」が、安全基準の厳しい

コメの転換作物にはハトムギが最適か

ハトムギ食品は健康食品として人気があり、漢方薬でもあるハトムギ

ルができる。同時に、信号の変化に応じてすぐ電車の速度を自動的に制御するATC(自動列車制御装置)、いつさいの運転操作を自動的にこなすATO(自動列車運転装置)を備えている。つまり、完全に乗務員な

鮮やかなブルーに発色する新表示素子

薄膜表示素子(電卓やデジタル時計に使われている液晶の表示素子より見やすい、新しい薄膜表示素子が、日本光学で開発された。水酸化ニッ

ケル、酸化タンダグステンの各化合物を使う発色層で絶縁体をはさみ、さらにその外側を透明電極で包んだ五層構造。厚さは二・三ミクロンと、

液晶の場合の数分の一にしかならない。二つの電極に一・四ボルトの電圧をかけると酸化と還元反応が同時に起こり、鮮やかな青色が浮かびあがる。発色していないときはほとんど透明で、写真機や顕微鏡などの文字や数字の表示パネルなどに広く利用できる。ただ、液晶に比べて反応時間が十・百倍もかかるという欠点があるため、これを液晶なみに縮めることが実用化への課題になる。寿命は長く、値段も液晶なみにできるといふ。

日本を産業デザインの国際的な中心に

アメリカで販売許可を得た。これは二種のアミノ酸が結合したもので、カロリーは砂糖の百八十分の一しかない。このほか、甘味の強い南米原産のキク科のステビアも日本で栽培されている。

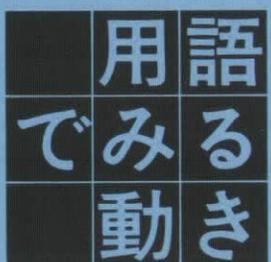
国際産業デザインビエンナーレ展が大阪市で二年に一度開かれることが本決まりとなった。今年度から作品の募集をはじめ、第一回は二年後の五十八年秋に開幕する予定。日本を産業デザインの国際的な中心にするとともに、文化的な産業交流を目指すのが狙い。その年の文化的、公

共的問題意識の強いテーマを決め、数年以内に実現しようとするデザイン内外のデザイナーから募集して競い合う。コンペティション」と、最近数年間に実用化されたもののうち、テーマに沿った優れた作品を表彰する。アワード」の二部門で構成されている。産業デザインの世界的な登竜門とするため、賞金の総額は一回十萬ドルという大きな額が予定されている。展示場は屋内、屋外それぞれ五千平方メートルの広さになると予定している。

が、一般食品として見直され、次々と新製品が出ている。やや割り高なのが難だが、しょうゆ、みそ、酢、しょうちゆう、納豆、せんべい、ビスケット、それに米に混ぜて炊くために白くしたのも出回っている。

アジア熱帯産のイネ科の一種であるハトムギの特色は、高たん白、高脂肪。たん白質は米の一・五倍、脂質は五倍もある。中国やタイから年間約一萬トン輸入されており、日本では畑作物としてわずかながら栽培さ

れていた。農水省は、水田でもよく育つハトムギに、米からの転換作物として目をつけ、昨年、全国で試験栽培した。今年は一挙に四千トンの収穫を見込んでおり、将来は五萬トンを目標にしている。(福井正也)



用語でみる動き

「遊歩」の視界 小松左京 / 上山春平	39	「遊歩」イン・ザ・シティ 岡並木 / 枝川公一	33	カラーグラフィア 東京 / 遊歩 / 夏 / 曇日	29	部会メンバーアンケート回答 「遊歩」と私	24	特集「対談」遊歩		「遊歩」の楽しみ 北原秀雄 / 坪内ミキ子	18	「遊歩」の美学 佐伯彰一 / 外山滋比古	12	…そしていま「遊歩」 加藤秀俊 / 米山俊直	6
------------------------	----	----------------------------	----	------------------------------	----	-------------------------	----	----------	--	--------------------------	----	-------------------------	----	---------------------------	---

21世紀コラム

●村上兵衛	●秋のおもかげ	● 11	38	●お金で買えない栄養	● 木田 宏
●茅 誠司	●原子力発電所の事故	● 23	44	●秋のひびき	● 服部克久

エネルギー・トピックス	最近の石油事情	富舘孝夫	45
-------------	---------	------	----

■特別対談	日本の原子力政策の方向	向坊 隆 笠井章弘	47
-------	-------------	--------------	----

■エネルギーモデル	日本エネルギー経済研究所	53
-----------	--------------	----

■コミュニケーション社会への準備	政策科学研究所	55
------------------	---------	----

フォーラムズフォーラム	私の近況	尾関通允 / 滝田 実 / ロミ山田	57
-------------	------	--------------------	----

新メンバー紹介	宮田 登 / 宮本千晴	59
---------	-------------	----

●部会報告	60
-------	----

21世紀フォーラム部会メンバー	表3
-----------------	----

●それは目的意識に対する一瞬の問いかけか……

……そして

いま「遊歩」

加藤秀俊

学習院大学教授 / 加藤秀俊部会

米山俊直

京都大学教授 / 加藤秀俊部会

日本人は遊歩に憧れる

加藤 「遊歩」と聞いて、まずイメージされるのは「遊歩道」という単語ですね。しかし、物理的に歩くというのも一つだが、同時に、頭の遊歩というのがあるんじゃないだろうか。つまり散漫なる思考というやつ。何か常に原稿書く、講義する、理論を立てるといった、系統的にものを考えるんじゃないか、ただ……。

米山 『徒然草』だな。「……心に移りゆくよしなし事を、そこはかとなく」というやつね。

加藤 そう、それぞれ。また精神の遊

歩というのもある。これらは、現実に足で歩くのと同じぐらい大事なような気がしますね。しかし、米山さんも私も程度の差こそあれ、なんか遊歩して人生を生きてきたんじゃないですか(笑)。

米山 それはすごい。ところで「遊歩」ですが、スワヒリ語に「テンベア」というのがある。これ、ブラブラ歩きということなんです。まさに「遊歩」。アフリカ人は、この遊歩＝テンベアが大好きですね。年中、とにかく目的なしに村から村へとか、ずいぶん広い範囲をウロウロしている。ところが日本でも昔から歩く伝統と

加藤 いや、米山さんはあちこちの山奥に行つて古老の話を聞くとか、ちゃんとかやつてる。日本中ほとんどカバーしてらっしゃる。

米山 新潟とか沖繩とか、まだ穴があるんですよ。あなたは全部歩きましたか。

加藤 抜けているのは北海道の最北端だけじゃないかな。いまでも月に三日は歩きますよ。

米山 それはすごい。ところで「遊歩」ですが、スワヒリ語に「テンベア」というのがある。これ、ブラブラ歩きということなんです。まさに「遊歩」。アフリカ人は、この遊歩＝テンベアが大好きですね。年中、とにかく目的なしに村から村へとか、ずいぶん広い範囲をウロウロしている。ところが日本でも昔から歩く伝統と

加藤 抜けているのは北海道の最北端だけじゃないかな。いまでも月に三日は歩きますよ。

米山 それはすごい。ところで「遊歩」ですが、スワヒリ語に「テンベア」というのがある。これ、ブラブラ歩きということなんです。まさに「遊歩」。アフリカ人は、この遊歩＝テンベアが大好きですね。年中、とにかく目的なしに村から村へとか、ずいぶん広い範囲をウロウロしている。ところが日本でも昔から歩く伝統と

人間だか判らないようなのも歩いている。加藤 空海、行基もそうだ。つまり、伝説上少なくとも遊歩する人は大変評価が高い。また、その対象は宗教人にとどまらず、世俗的になった場合にも、何となくウロウロ動いている人というか、ものに対する憧れの念が日本人一般に強くある。

米山 歩き巫子、白拍子……。阿国歌舞伎とか、いろんな芸能人というのは全部歩きますよ。いまでも興行して歩いてるわけだ。つまり、定着し切つて一生懸命田んぼ作っている人から見れば、歩き回っているのはとんでもない連中なんだけど、同時に、動ける自由人が一番うらやましかったんでしょね。日本だつ

て弥生の稲作以前は、狩猟・採集で常に移動して歩いていったんだし。アフリカのテンペアも基本的にはそっちですね。流れるというよりは、獲物を追って歩くことから始まっている。

ルソーが近代

遊歩者の祖

加藤 移動と定着といえば、日本のヤクザには二系統あるんですよ。一つは非常に農民的な定着型でね。たとえば国定忠次とか清水の次郎長とかいった、縄張りを持つているやつ。もう片方が、いわゆる旅がらす。そして面白いことに、この旅がらすにはほとんど「次郎」が付くんだよね。沓掛時次郎とか……。

米山 ちかくは木枯紋次郎。太郎は駄目なんだ。動けない。

加藤 長子相續でいくから、太郎は立派に構えてなきやいけない。次郎が動くんです。いまでもわが国が一番自由な発想をする、悪くいえばおちよこちよ、良くいえば非常に自由な人々というのは次郎なんだな。だからヤクザ映画でもそうであるように、旅がらすの系統というのは、日本人の心の琴線に触れるところがあるんです。

米山 いや、日本だけじゃなくて、アメリカの西部劇だってそうだ。「シェーン」なんか……。つまり移動しているこ

との魅力かな。

加藤 そう、非日常的なことにしようちゅう遭遇してることでしょうかね。われわれ日本民族は、おしなべて旅行好きだけど、これは日常性からの離脱にはかからない。

米山 もう一つ、好奇心の充足というのがあるんだよ。つまり、山の向こうは何だろうかとか次々にね。なんか僕たち日本人は子供の頃から好奇心を養うように育てられてるみたいなのがあるよ。だから遊歩にも、好奇心の満足という要素がかなりあるんじゃないかな。遊歩道をウロウロ歩きながら、窓があるところでは、あの窓では何をやってるだろう、こっちは何をやってるのかなと……。べつに覗くわけじゃないけど、考えながら歩くとかね。

加藤 それがまさしく遊歩かな。はじめに思考の遊歩というようになるといいましたが、散漫な思考をしながらブラブラ歩いている、何かパツと見えてくることとがよくある。ちよつといやらしいが、京都の「哲学の小道」というのは、思索のための遊歩道なんだろうな。ところで、日本で最初に「散歩」という言葉を使ったのは勝海舟だという。西洋人が横浜の居留地でブラブラ歩きしているわけね。「何だ」とたずねたら、「プロムナードというものだ」と。それを散歩と名付けたそうだけど。その前にもう一説あって、こ

っちは漢方の言葉だという。つまり、葉を飲んでそのままジツとしていると葉が体内の中に散らないわけですよ。葉を体内に散らすために歩く、これを散歩というのだそう。西洋では「孤独な散歩者の夢想」ね。ジャン・ジャック・ルソーだからブラブラ歩きというのは近代の産物なのかもしれない。

現代遊歩者は

粗大ゴミか？

米山 うん、だから、さっきいつてた日本の次郎が、じゃあ、なぜ歩き出したかという、定着的な農耕社会があった。これが非常に厳しい社会なんです。だいたい一つの村で住める人数は決まっているから、長男以外は間引いて殺すか、外へ出ていくしかない。つまり、村という

のは縛りつけられ定着させられる人と、追い出され放浪する人とが選別される場所だ。決している所じゃない。それが近代になると逆なんです。そういう村を捨てて大量流出した連中が、「東京へいっつち」ちというやつで、向都離村現象というか、人口の都市集中が起こる。ま、働き口があるからとかなんとかが、その根本は結局面白いことがたくさんあるからみたいなのところでしょう。しかし、大量の人間が集まって、それぞれに働き口を求めるとなると、動くということか

ら遊歩的なものが脱落してきたんですね。モーペンスになること自身の意味が変わってきた。そこで初めてブラブラ歩き、つまり、何も考えなくて目的なしに、あるいは強制されずに歩く。遊ぶために無目的に歩くことの意味が発見された。その最初のジャン・ジャック・ルソー……。

加藤 遊歩の進化だね。最初に狩猟採集段階のテンペア式遊歩があって、定型になると養い切れない人間が追放される遊歩者になる。近代というのは自発性のある遊歩者ですね。現代は何だろうな。住宅事情が悪いから現代も多少追放されるようなところがないわけでもない。

米山 そうそう。家にいちゃ掃除の邪魔だから出ていけ(笑)。粗大ゴミという。

加藤 都市の追放者が遊歩している。

漂泊者を否定する現代社会

米山 遊歩という言葉、語感からするとあまり遠い所へ行ってって感じじゃないですね。ブラブラ近所まで行って、どこか帰ってくる場所がある。行方定めぬ旅ではない。

加藤 そう帰ってくる場所がある。しかし、帰るところがあることを信じながら、なおかつ帰らなかった人もいますよ

ね。菅江真澄みたいに。

米山 そう、それから宮本常一さんなんかよく例に引いていたけど、それこそポツと外へ飛び出したとき、二年も三年もウロウロしてくる例というのは、近世にも近代にもずいぶんあるんですね。先日忘れた民俗学者の高取正男さんの『民俗のこころ』という本には、万博会場で行方不明になった人の話が出ていた。

静岡県の清水付近に住んでいたおじいさんなんです、団体旅行で大阪万博を見に来て会場で行方不明になった。さんざん探したが行方不明。それが二年間ほど経って、万博会場のそばの千里団地のベランダで寝ていたのをパトカーが見つけた。**加藤** それは別段、記憶喪失でもないわけですね。

米山 そう何でもない。さまよい歩いて東京へ行ったんだそうです。清水を通ったが家には寄らない。そして二年ほど東京などウロウロして、また万博会場に戻ってきた。その間、ずっと泊めてもらったり食べさせてもらっていたという。そういう人を疎外しない社会が、まだ日本にはあると高取さんはいう。だけど二年経って元の所で見付かったというのは面白い。こうした例はずいぶんあるようですよ。

加藤 それを家出人とか蒸発とかいいう言葉で、なんか否定的に扱うようになってしたのは、割合最近のことかもしれない。

「尋ね人の時間」が以前ラジオであったけど、尋ね人の最初は湯島の天神さんだね。あの境内になんとか石とかいう迷い子石がある。これは遊歩でなくて道に迷った子供のことなんだけどね。そこに、「何歳ぐらいの女の子で花模様何とか着てる……」とか書いて張っておくわけ、探してる親も預かっている人も。これが日本における伝言板の始まりです。西洋には伝言板みたいなもの無いでしょう。だから日本じゃフツといなくなっちゃう人間がかなりいて、それが当り前の時代があったんですね。ま、当り前でもないかもしれないが……。近頃じゃ家庭でも規制が厳しくて、子供が決めた時間までに帰らないと叱るとかね。「……今日はどこまで行ったやら」なんていつていた時代もあったわけですよ。そういう点じゃ、現代は遊歩者にとっても管理体制が大変厳しい社会でしょう。電話なんでものが出来たお蔭で管理が厳しくなっている。無けりや連絡のしようがないんだから、二、三日帰らなくてもどうにかなっていたんだけど。さっき米山さんは遊歩という語感には帰るところがあるといっています。僕もその通りだと思ふ。ただ、その範囲は近隣の文字通り歩いていける範囲なのかね。僕はどうも何か全地球的なような気がする。

米山 そう、遊歩の範囲はどんどん広がってますね。外国へ出ることがあまり



珍しくなくなった。それも単に仕事とかで出るだけでなく、ただフラッと出かけたりする。また加藤さんが最初に述べた精神的遊歩……、体を動かさないが、なんか歩き回るような感じのゆとり。これの範囲も広がっている。マリワナ、LSDも入ってくるんじゃないですか。

「遊」のもの 意味の深さ

加藤 それからね。遊歩という言葉の中の「遊び」という字が持っている意味は大変面白いと思うんですよ。たとえば自動車のブレーキでも、足を掛けた途端にかかるわけではない。二、三センチ踏み込んでから初めてブレーキが掛かる。この二、三センチを遊びといいますよね。ハンドルにしてもそう。つまり、物事というのは、そういうちよつとしたすき間、余裕がないと動かないわけですよ。

ブレーキにさわった途端にきいてしまつたら、こんな危険なことはないですからね。遊歩というものも、要するに実用的には意味がないんだ。だから、ここで遊歩とはなにかと定義すれば、余裕ということに関係してくるんじゃないですか。見知らぬ土地に行つて、そこで会社の支店にすぐ直行して、用談をすませて、また新幹線で帰ってくるというのは、自分の初めて行った町の裏通りをちよつと歩いてみる。これが遊歩だ。これを余裕という言葉に置き換えてしまえば、「なぜいま「遊歩」か」といわれれば、つまり、ゆとりを持ちましょうということに帰着するんじゃないかと思ふ。

米山 なぜいま……というか、現代人にとって遊歩が大事だというのは逆を考へればいいわけです。つまり、特に日本人の場合がそうだと思うが、遊びがないというか、非常に忙しい。特に管理社会

の中で歯車として動いている人たちはね。ま、それなりの多少の、一、二日の休みはあるが、海外出張なんていったって、本当に裏通りを一巡してくる余裕も与えられないような状態でしょう。政治家にしても外国へ行く人をみたら全然余裕なし。向こうの大統領と一日ゴルフが出来るぐらいが精一杯のことだね。

加藤 それも公式スケジュールの中に入っているやつだ。

米山 そうそう、だからどうにもしようがない。ちよつと暇をみつめて自分の好きなことをするということが出来ないようになってしまった。上は一国の首相から、一介の会社の外国出張員まで全部つまり遊歩のチャンスがどんどん小さくなっていくというのには否定出来ない。だからそれを取り戻せ、と。でも、これもなんか大変公式的な……。

単独行

そして無目的

加藤 もう一つ、遊歩で連想されるのは個人が単位じゃないかな。バック旅行で三十人ぐらい、ゾロゾロとシヤンゼリゼーを歩いても、これは遊歩にはならないんであって、やっぱり一人歩きということでしょう。

米山 そうね。一人歩きで行って、飛び込んだ所にきれいなお嬢さんでもいて、

意気投合して一晩飲み明かすとか。そういうことが出来れば、それが一番遊歩の遊歩たることになる。

加藤 そういうことないな、あんまり(笑い)。

米山 ないだろう(笑い)。だから困るんだよ。でもそうになると、遊歩の中でフライベートの占める比重が高いたんだ。だから必ずしも歩かなくても、逆に『方丈記』じゃないけど、一カ所に座って何か考えていることでもいいわけだ。僕はけっこう『イマジネーション旅行』やるんですよ。薬を飲むわけにはいかないから、せいぜいウイスキーでも飲んで地図を眺める。ここを曲ればどうだとか、この山はどう登ればいいのかとか、物理的には歩かないが一種の徒歩旅行だ。楽しいよ。

加藤 ああ、楽しい、楽しい。頭の中の遊歩だよ。

米山 これももう自由自在でして、エイトと飛んじやったり出来るわけ。羽化登仙の気持になるときもある。

加藤 僕も酒を飲んで、ときどき地球儀をなで回して見ているわけ。そうすると俺はひよつとしてファシズムに走っているのではないかという気がしないでもない(笑い)。時刻表と地図を照らし合わせているときも楽しいですよ。

米山 でも、やっぱり一人で歩くのが一番だろうな。ぜんぜん知らない町を一

人でウロウロ歩くのは、何が起こるか分からないという、一種の恐怖感があるでしょう。

加藤 国内ではそれ感じないな。海外なら多少は危いところあるけどね。

米山 多少の恐怖感があるほうが楽しいですよ。僕はアフリカの山の中でも平気で一人で歩いた。野獣は怖いけど、その心配がないときは結構歩ける。ふらつと出てきた人としやべつたり、面倒くさくなれば「さよなら」。どこへ行くんだといえ「テンペア・トウ」(ちよつとそこら)を。一人で遊くことが自分の好奇心を満足させる部分も多分にあるんだな。それこそ「孤独の散歩者」です。

加藤 そう、だからルソーの『孤独な散歩者の夢想』は近代精神をすべていい表わしている。大変公式主義的になるが、一人で、しかも目的無しに歩くというのが近代の遊歩なんだから。

反逆精神が遊歩させる

米山 近代なり現代というのは、生きていく方向というか、目的があんまりはつきりしないわけでしょう。

加藤 そう、目的と想っていたものは常に錯覚であつてね。

米山 だいぶ錯覚が多いんじゃないかな。大学へ入るなんていうのも錯覚だし、それを出て就職するのも錯覚、女の人と結婚して、結婚したらすてきなことが起こるかと思つたらぜんぜん錯覚だつたり死ぬまで錯覚だね。

加藤 それは、ま、人間というのは錯覚によって生きているんだからしかたがないけどさ。いまもう一つ思い付いたことをいうとね。遊歩というのは目的意識に対する反逆であるかもしれない。つまり、われわれが生きている世界は目的論



●加藤秀俊

の社会でしよう。朝九時から五時まで働くというのには、給料をもらうという目的があるわけですよ。行動はすべて目的に対する手段なんだ。そのように目的論でやっていると、人生面白くないわけね。

人間のやることには、目的の無いことがたくさんあるんだと少し判ってきたときに「いま、なぜ「遊歩」か」というのは、まさに目的意識に対する反逆じゃないかな。目的意識を否定はしないが、目的のない行動も認めてほしいということがあるんだな。銀座のウインドーショップینگなんか遊歩そのものだとね。今日の夕食はすき焼きにするから、肉とネギと豆腐と……といって買い物に出かけるのは目的の行動であって、これは事務であり仕事なわけだ。だけど、自分の手の届きそうもないミンクのコートやグッチのバッグを見てることが楽しくて、ただウロウロしている。これは目的のじやないもんね。その意味では遊歩空間というのはかなりある。沿道もそうだし、盛り場、デパートがそうですね。何を買いに行くのといったら、要するにこれはテンペアだ。金も無いのに何となくデパートを上から下までグルグル歩いて、地下の食料品売り場に行ってワインをタダで飲んで、上のほうの画廊で絵を見たり、衣料品を手でさわったり、何も買わないで一日結構楽しんでる。

米山 遊歩空間といえば、遊歩道はも

ちろんだが、遊園地もそうだし、それから博物館とか美術館なんかも本来はそうですよ。あそこに勉強しに行くとか何とか考えるのが間違っている。ブラブラ歩いてると面白いものにぶつかつたということなんです。危険もないし、まさに安全な遊び場所というか、その空間は増えてきてると思うんです。ただ、そうする人間がいなくなつた。逆にいえば、そうする時間が少なくなつたんでしょうね。

加藤 そうなんだ。僕はこの特集のアンケートに「月に三日ぐらい、どこかの村に行つて」と回答した。行つてるのは事実なんだが、これまでの定義から反省してみると、それが遊歩といえるかちよつと判らん。村へ行つて何か調べてこようとか。それを素材にして何かを書くうとか思つてる限り、これは邪道ですね。遊歩じゃない。何歩と呼んだらいいんだらう。事務歩と呼ぶか（笑）。

米山 僕もそれが多いんだ。この間から「おお関西」という連載をサンケイ新聞の大阪版に七十七回書いた。僕は奈良盆地の東側の山中で生まれたんだが、そこから始めて平野へ降りて西へ行く、生駒谷の辺をウロチョロして、生駒山から信貴山、葛城、金剛、さらに河内に降りてウロチョロして、最後に八尾空港かなんか見て終わり。二十回ぐらいのつもりで、行き当たりばったりにつまずいたものを書こうと思つて始めたんだが、つ

まずくのは岩盤の露頭みたいなもので、やり出すとそれぞれがものすごく面白い。一種のテンペアのつもりでやってみたらね……。だから遊歩というのも結構収穫ありますな。ぼつくり寺つてあるでしょう。あの寺は恵心僧都のゆかりなんですよ。そうすると、恵心僧都というのは一体何だったかというんで『往生要集』を買つてきて、一晩がかりで全部読む。それをやり出すと面白いんだよ。いろんな面白い地獄の話があつたりして地獄を一巡する。本当に切りがない。

自由と好奇心と青春と

加藤 なるほど、そうやると切りないんだな。

米山 加藤さんと大昔に旅行しましたね。もう二十五年ぐらいになるかな。あの時は、とにかく汽車の窓から見えるものを順番に話題にしましたね。あれも切りがなかったね。

加藤 あれは面白かつたね。

米山 面白かつた。あれは大正時代の建築だとかぐらいつつ始まつた、仁丹の看板はいつから始まつたかなとか……。それで加藤さんは『車窓の民族学』という立派な本をあとでお書きになつた。でも、車窓から見るのと歩いて見るとどうも、写真撮るとスケッチしてるとぐら

米山 気まぐれだね。

加藤 あの時は通し切符を持っていて真冬に下北半島をうろつき回った。何だか知らないが途中下車ばかりして。もう、ああしたことは出来ませんね。管理体制下に入っていると同時に、自らを管理していないといけない立場になってるでしょう。

米山 そうね。今じゃ、せっかちというよりも絶えずせき立てられているような感じがあってね。

加藤 第一、電話すらなかったよ。いま、「米山先生、どこにいらっしやいますか」といつてきて、研究室でも自宅でも判らなかつたらやはり工合悪いでしょう。

米山 逐電したかと捜査願が出たりしてて(笑い)。

加藤 でも、推理小説読んでると、常にアリバイがなきゃいけないでしょう。大体、アリバイはあると思うんだけどね(笑い)。だけど、無い時間というものがやはりあるし、ある意味では必要なんじゃないかな。

米山 そりやそうだ。しかし、今の若い人は、やはり僕らの二十五年前と同じじゃないんですか。完全に自由で好きなことが出来るというのうらやましい。加藤 いや、だけど、われわれ自身の内部にも、自由に動かすに型にはまったコースを取り始めている部分もあると思

う。たとえば京都であなたに会うでしょう。落ち合う場所はもう決まっていますね。

若いころはもうちよっと元気がよくて、あちこち行ったりしたけど。だから遊歩と思っているものが案外、これまた決められたルーチンの中に入っているかもしれない。

米山 そうそう。なんかお釈迦さまの手の中でウロウロしているところがあるようにもある。

加藤 米山さんが、さっき好奇心といわれて、自ら反省したんだが、若い頃は宿にしたってあちこち全部試してみるのが決まっている。やっぱりこれは退化し

たのかもしれない。だから遊歩は若さとも関係している。

米山 ああ、好奇心というのは若さだな。加藤 うん、やっぱり若さを取り戻さんならん。

米山 なんか情ない話になってきたね(笑い)。

秋のおもかげ

村上兵衛

松本重治部会 / 財団法人文化研究所専務理事

昔のほうが、季節が確実に巡ってきたように思うのは、幼いころへの郷愁に過ぎないだろうか。それでも、私の子どものころは、九月一日には、二百十日の台風が確実にやってきて、一夜を心配とともに過し——この点が鉄筋の家に住んでいる現在とは、いちばん違っているのかも知れない——そして眩いばかりの秋空を眺めた記憶は、鮮かである。

そしてたぶん、昔の夏は、夏らしく充分に暑かった。今日のようにクーラーが発達すると、夏の不快は大幅に避けられるようになったが、同時にながい夏を我慢することもなくなった。もう夏のあいだから、われわれは秋を呼び込んで生活しているので、したがって

爽かな風とともに秋が来たという実感も、いちじるしく失ってしまった。

子どものころから、そして人間が季節とともに過していた、つい先頃まで、私は本当に秋が好きであった。寒さは嫌いだっし、春先はなんとなく落着きがなかった。そして梅雨のじめじめした季節と、蒸し暑い夏をやつと我慢して過したのちにやってくる秋の明るい陽差、ほどほどの木の梢のきらめきは、私が自然にもっとも親和を感じ、生きていくことの欣びを改めて感ずるときだった、と改めて回想される。

ある夏の終り、友人と二人で、北軽井沢から下駄ばきで山を越え、むこうの温泉へある

てみたことがあった。炭焼のひとから熊が出るとおどかされたり、時雨に会って濡れたりしながら、ようやく峠に出ると、そこだけすでに染まり、そこから秋が始まっていることに、私たちはひどく感動した。

もう、あたりがすっかり暮れてから温泉に着き、宿の女中さんから自殺したご亭主の話聞いたことなども思い出すが、あれはやはり秋の夜長にふさわしかった。このごろは、私はどうも秋らしい旅をしていない。忙しいこともあるが、やはり季節を失ったせいにかがいない。

「遊歩」の美学

●その二面の反逆精神が——
“ゆとり”を“美学”に昇華させる

佐伯彰一 外山滋比古

東京大学教授

お茶の水女子大学教授

夜の街を徘徊する

佐伯 外山さんが、以前なにかに「私は散歩は夜するんだ」とお書きになっていたのが印象に残っているんですが、いまでもそうなんですか……。泥棒とかなんとか特別な職業の人は別として、普通だったら夜歩くというのは、あまりしないだけ……。

外山 ええ、いまでも散歩は夜です。それもあまり早い夜じゃなくて、午後十時ごろからです。余計なものが目に入らずにすむんです。町は暗いし、人も車も少ない。それは、あえて言えば、歩くというのは運動とかの実用的目的を別にす

れば、一種の出家的心境というものを、なんとなく求めている気持があると思います。そうすると、日常的な要素に満ちた日中よりも、夜のほうが現実からの距離が大きいというか、都会の中で都会から離脱したに近い状況が形作られます。

佐伯 そうとう厳しい純粹派の遊歩なんだな。僕なんかは、やはりいろいろ見えたり、また見たことで触発されてウロウロする。つまり外界に向かって自分を開くというか、外とのつながりが自然な形で回復するのが遊歩だ。あまり見えな

いと寂しくて歩く気がしない。
外山 遊歩には二つあるわけですね。開かれているものと、内側へ閉じるものと。僕はもっぱら閉じるほうです。たいて

い日常性からの離脱を狙っているようです。僕にとっては宵の口ですが、一般にいう夜更けてから、三、四十分も歩きますと、昨日今日のことだんだんと蒸発して、なんとなく大きくものを考えるようになって。その裏には「人間嫌い」というところがあるのかもしれないと反省しますけど。

佐伯 このあいだアメリカから帰って来たばかりなんです。最近のアメリカじゃ、よほど田舎にでも行かないと外山さん流の散歩は出来ない。あぶなくて。

外山 それは、東京のたいへんな利点というか、ありがたい点ですね。もう二十年ぐらいやってますが、一度も危険なことはない。ただパトロールカーにとき

どき注目されて……。
佐伯 夜な夜な徘徊しているとね（笑い）。

外山 徘徊しているのは、どこか普通の目的を持った人の歩き方と違うらしくて、さすが彼等は職業的にピンと感じる前からパトカーが来るでしょう。うるさいから露路に入りますよ。すると、露路を出ると、またパトカーがいてパッとライトを照らす。同じやつなんだ。この辺から入れればこの辺に出るだろうと待ち伏せているらしい（笑い）。

佐伯 そういうタイプで捕まった人もいましたね。劇作家で。あれは遊歩が行き過ぎたのか、立ち止まり過ぎたのか（笑い）。ところで夜歩き回る話といえば、い

まはどうか知らないがロンドンの町に多
いような気がするんです。たしかデイケ
ンズの『オールド・キユーリオシティ・
シヨップ』でしたか、冒頭に夜歩き回る
話が出てくる。それにアメリカの作家エ
ドガー・アラン・ポーもロンドンを舞台
にして『群集の人』という、面白い作品
を書いていて、これは病み上がり男が
本当に夜も歩き回るんだけど、その
動機が外山さんとは逆なんです。つま
り孤独に耐えられない。群集を離れては
自分は生きて行けないというんで夜も歩
き回る。十九世紀の感覚としては珍し
いですね。

遊歩は島国流？

佐伯 ところで、文学ジャンルで考え
ると、エッセイは言わば遊歩ですね。英
文学にはハズリットの有名な散歩のエッ
セイなんかある。外山さんが非常にお得
意の分野なんですけど、なにか目的や主張
を押し出すんでなく、ある意味では書く
本人も、何を書くかはつきり判らないま
ま書き出して行く。この点から英米文学
を比較すると、アメリカは目的指して
車で何十マイルを突っ走るんだが、英文
学というのは、そのプロセスを楽しんで
眺めていく姿勢が、わりに昔から身につ
いてるんじゃないかと思う。

外山 アメリカのような広い空間では、

一つの目的を持ってある点からある点
行くんだという移動的な感覚が強くなる
んでしようね。イギリスや日本のような
狭い空間では、動いても結局は元に戻る
という沈滞的なのところがある。だから、
その沈滞を打ち破って、新しい活力を充
電しようとする無意識の働きみたいなも
のがあって、散歩の感覚が発達したのか
もしれない。地理的な条件もそうだが、
社会的な条件もあるのでしょうね。

佐伯 アメリカ型の遊歩というのは、
例のジョギングだな。まさに目的があっ
て、本当に汗流しながらせせと走って
いる。あちらの町ではジョギングしてい
る人にはよくぶつかると、ただブラブ
ラ歩いている奴には田舎町でもめったに
会いませんよ。外山さんは以前、アイラ
ンド・フォーム——島国流のやり方

という、うまい言葉をお使いになった。
たしかに限られた空間にずっと定住して
いると周囲が馴染んでくる。それも一つ
の面白味なんですが、やはり馴染んだ土地
の中では、いろいろ変わった味を出して
いかなないと、文学や芸術というのはい
かない。イギリス人や日本人は、そ
の工夫をわりに重ねてますね。『奥の細
道』なんかいい例だ。何度も行った歌枕
を訪ねて故人の歌を思い起こしたり、ち
よっと一句ひねる。とくに日本人が昔か
らよくやっている。

外山 道行きというやつですね。目的

はなくてプロセスを楽しむ。そういうこ
とでは明治以降の日本では、遊歩に目を
向けるちよっと時間の余裕のある人達と、
生業に忙しくて、ボヤボヤしていらな
いという人達がいます。学校の教師とい
うのは意外に昼間暇なんです。だから昼
散歩する。僕の友人にもそれがいるん
ですが、先年、引越しましてね。引越
し先で奥さんが近所の奥さんに「大変で
すね」と同情されたそう。つまり皆が
働いてる時間に下駄はいてブラブラして
るんで、失職していると思われる。ど
うも散歩というのは、おそらく昼であ
っても受け入れられない常識のよう
なのが、日常的にはあるようですね。それ
だけに、散歩をするというには、現在に
おいてもなにかプレステージがある。

ひそむ反社会性

佐伯 僕なんか元来田舎者で、それが学
校出たりして都会化した。だからそれをい
う資格はないんだけど、帰郷して散歩など
すると目立つんですよ。それこそ、よっ
ぽど変わり者が閑人が来てノコノコやっ
てる……。

外山 そう、田舎で歩いていると、畑で
働いている人が立ち上がりて見送る。珍し
いからじゃない。なにをいまだきあんな格
好で歩いているかというんですね。つまり
散歩には反社会性がひそんでいる。それが

ここという「遊歩の美学」に結びつくこ
ころなんです。実用性のあるジョギング
ならば、あの人は健康のために走っている
んだ、ああ苦勞さまと、田舎の人にも判
る。ところが大の男が真っ昼間着流してブ
ラブラ歩いていると、これは働いている自
分たちの価値を否定するのであるというよ
うな反発を感じる。なんとなく批判の目
で見ると、こちらもそれを感じるから、どうも
人目に立つからと、歩きたいけど歩かない
ということもあります。

ゆとりを昇華させる

佐伯 最近はお膝元のイギリスでもエ
ッセイ形式は衰退してますね。有名なエ
ッセイストもないし、本もあまり出な
い。ということは、現代のようなテクノ
ロジーが支配する気忙しい時代になると、
エッセイ的な呑気な遊びが片隅に押しや
られつつあるといえる。しかし、テクノ
ロジーはその一方で、生活の余裕を広範
囲に生み出しているし、その合理的目的
性一辺倒に反発して、生きがいというか
遊びの意味を強調する動きも一部出て
きていますね。だから、かつてのエッセ
イ的なのんびりした遊歩に替わって、そ
れこそ、ロックを踊るといった、現代の
若者好みの遊び形態が形成されつつある
んじゃないか。

外山 十九世紀から二十世紀の初めに



● 外山滋比古

かけてあった散歩的、エッセイ的な感覚が近代のテクノロジによって崩れたことは事実だと思う。それから数十年経って、物質的な裏付けができて時間的ゆとりが徐々に出てきている。ただ現在は、まだそのゆとりが文化にまで昇華していない段階といえますね。一部の人が生活の中で、時間をどうしたら使えるかに関心をつけている。だからレジャーとか体力をつけるとかというのが、商売や産業に結びつくところだけは発達している。スイミングクラブがどうか、アスレチッククラブがどうか、テニスがどうか、これらはみな商売をする人たちが刺激を与えるから、みんながそちらを向いて走り出すにすぎない。本当に遊ぶというこ

とからいえば、もっと純粹に自分だけの気ままなこと、たとえば歩くとか、ごろ寝をするとかのいろんな形があると思う。これが昇華するまでは、新しい散歩の感覚に基づいた、新しい表現の様式、新エッセイみたいなものは現われないうちやないですか。たしかに一時期のエッセイは終わりました。それが新しいサイクルとしてもう一回現われるとすると、昔のような、たとえばゆるやかにゆったりゆったり散歩していくような、なんらとりとめない、しかしなんとなく面白いというエッセイではなく、足早に歩く、しかし小説でもなければ評論でもないといったものが生まれるかもしれない。しかし、この新エッセイを背景で支える行動様式

の一つは、やはり散歩とか散歩というものがだと思いますよ。

カナダ旅行での経験

佐伯 僕はついこの間、アメリカの大学で教えたあと、カナダに行ったんです。カナディアン・ロッキーに入って一週間ばかりのんびりしようと思ったわけですが、そこで二つの経験をした。カナディアン・ロッキーにはバンクーバーから車で行くんです。経営不振の私鉄から国家が買い上げて、赤字承知でがんばって維持している。古風な汽車を生かして、夜の八時にバンクーバーを出て、山に着くのが翌日の午後三時です。ずいぶんのんびりした夜行列車ですわ。しかも単線だからしょっちゅう止まっている。いったい動いているのかなと思うくらいのもので、古いイギリス風の汽車で、もちろんコンパクトメント。朝食なんかいわゆるコンチネンタル・ブレックファーストで二ドルぐらいの簡単なものですが、頼んでおくとボーイさんが室まで持って来てくれる。それで紅茶など飲みながらなんとなく悠揚たる気持ちで窓の外を眺めるわけだが、沿線の風景はスイスをさらにひなびて呑気にしたような素晴らしいものです。大変豊かな散歩気分を味わいました。着いて泊ったのがバンフという、カナダ一番の格式を誇る

ホテルです。昔、イギリス貴族とかアメリカの大金持や大統領が、一夏を優雅にお暮らしになったという。場所といい外観といい家具といい古風な意味での見事な大ホテル。しかし、そこがいまやツーリズムの対象になっているんです。日本人の旅行団も大挙して訪れるんですよ。僕は予約していたのに変な部屋しかなく、しかも高くボラれて大喧嘩した。団体旅行というものは、なかなかいいところもあるんだが、いわゆる散歩精神とはまったく反対のものだ。かつての有閑階級が持っていたレジャーが、民主化という大衆化したのは結構だけれども、たしかにそれは、また新しい散歩には至らない段階です。そこからもう一度、いいかたちで伸びやかなものが出てくるかどうか。僕はこの二つの経験から、現代の矛盾したというか、難しい状況を象徴的に味わされたような気がしたんです。

プロセスを楽しむ

外山 外国はともかく、日本では物質的にある程度の生活のゆとりが出来てきた。しかしそれを活用する段になると、たちまち殺到現象ですね。バックでワッツと殺到する。どんなに混んでいても、とにかく新幹線か飛行機で行く。カナダのそういう列車に相当するものは、いまでも日本に少数あるでしょうけど。各駅停



車の列車はのんびりして……。

佐伯 乗り手が減りじやないかな。
外山 ガラガラなんです。だから赤字で国鉄はどんどんやめちゃう。本当に急がないのなら、遊びに行くのに三時間短縮したってなんにもならない。向こうへ行つてひっくり返っているだけ。

佐伯 乗ってるプロセスも遊びですかね。

外山 本当に旅行を楽しむには、急ぐ必要はありませんね。限られた時間で遠くまで行くこうとすれば、早い方がいいが、そんなに遠くへ旅行する必要が、はたしてあるのか、自分の近くにもっと見るべき所があるんじゃないかというんです。しかし、いまの新しいレジャードクラス

はいわば成り金ですから、それほど高尚なところには達してない。ハワイがいいとなればワーツとハワイ。しかも複数で行くから、つねに一種の団体だ。佐伯さんのように一人で旅を楽しむには、そうとう高度の知性が必要であつて、やはり多くの人はよろず不案内だからパックで旅行する。しかし、それじゃあ本当の旅行にはならない。そういったところからは、なかなか遊歩の精神は生まれにくいと思いますよ。

生きた体験をつかむ

佐伯 そう優雅な旅行ばかりしているわけじゃないんですが、僕の旅行の楽し

みというのは、自分の身をエクスポーズしただけ、エクスペリエンスにつながることです。団体旅行は、ほとんどエクスポーズされないから、エクスペリエンスになってくれないわけですよ。生きた体験をつかむには、やはりある程度自分を投入するというか、自分自身を投資していかねければならない。だから外側にあるものと思わぬところでぶつかつて、時にはハッとしたり、いくらか傷ついたりもする。傷つくなんて、遊歩とおおよそ縁が無いようだけど、つきつめていけば、そういった面もなければ、生きた遊歩にはならない気がするんですね。

禁欲的な姿勢も必要

外山 遊歩の語感で一つ不満なのは、緊張感がありませんことですね。歩くときの本当の面白さには、ある程度の速さが必要だと思つてます。ダラダラと一時間歩いても、歩いたために起こる爽やかさが無い。夏ならば汗を流し、冬でも体が火照ってくる程度に、少しは無理して体力を使う必要がある。そぞろ歩きもたしかにいいが、長続きする散歩には、緊張の姿勢が必要ですよ。足早やにサツサツと歩くと、歩くことの効果がいろんなこと出てくるんじゃないですか。その意味では最近の散歩は、足早やが常識になりつつあるんで、非常に結構だと思つ

ている。昔の人が、よく下駄ばきで二、三十分歩いて散歩をしたと言つてましたが、あんなもの無駄ですね。僕は日常性からの離脱を図つて歩くのですが、足早に三十分も歩けば、つまらぬことは忘れられる。ところが、ダラダラ歩きでは、なかなか消えていかない。ですから遊歩には、ちよつと自分を責めるといふか、やや禁欲的なところも必要です。頭はカラにするが、心身はある程度緊張させて、精神的肉体的な刺激に素早く反応する機敏さを保つわけです。本当にカラっぽになつて歩いているだけなら単なる運動にしかならない。スポーツの一種としての遊歩もあるだろうが、あまり意味を考えないでいて、何かが生れるところに遊歩の美学というものがあられるかもしれません。

失われた遊歩の心

佐伯 美学とはちよつと離れるんですが、以前、イギリスの歴史家トレヴェリアンの自伝を読んだんです。ずいぶん歩くことが好きですね。大学の周囲を歩きつくし、別荘を作つたら、その周囲も歩きつくす。イタリー旅行をしても、ほとんど徒歩で歩き回っている。彼が最初に評価を得たのはガルバリジョを書いたものです。そこで言つては、その本の舞台になつているのは、結局自分が歩き回つた場所だと。書くために歩いた

んではないが、知っている場所なんて、ガルバジーがどう攻め上って、どうやったか実感として判り書きよかったという。それで評判の名著になったんだから、これは遊歩の思わざる収穫なわけだ。外国にはわりと、そういう遊歩精神を持った学者が多いですね。日本の源氏やお能を訳したアーサー・ウェレーというイギリス人も、本場のアルプスでスキー教師が出来るくらいスキー好きでしたし。

これはチエコから来た井伏鱒二の研究者なんです、日本の作家に会って回って、「佐伯さん、日本の作家って、どうしてそんなに運動をしないんですか」だって(笑い)。三島由紀夫みたいな非常に珍しい例外もあるが、僕は日本の作家といえば、ボツボツとして徹夜していたり、せいぜい歩き回っても銀座のバーといったイメージもっているから、虚を突かれて、びっくりしましたよ。たしかに西洋の作家には、たくましく動き回る人が多い。昔は日本の文人趣味のなかにも、いい意味での旅とか遊歩精神が生きていただろうけど、日本的な無精さともいえるのか、ちょっと近代になってそれは消えたのかなと思っただけ。

探鳥樂しむ前大統領

外山 日露戦争時代の話なんです、グレイ伯爵というイギリスの駐米大使が、

帰国にあたって、時の米国大統領セオドール・ルーズベルトに、イギリスにバードウォッチングにいらっしやいと勧めるんです。大統領は「素晴らしい話だが、いまはこの激務で無理だ。退職してからなら」と答える。それで大統領が退職したとき、外務大臣になっていたグレイ卿が手紙を出した。ルーズベルトは「よく覚えてる。すぐ行く」とくるわけです。

イギリスに上陸して初めは記者会見などするんですが、しばらくして「記者諸君、ここから先はわれわれのプライベートを大切にしてくれ」と、現職の外務大臣と前大統領が、山や谷を分けてナイチンゲールを聴きにいつて、二十四時間ニュースからまったく消えたというんですね。『フォールドン・ペーパーズ』というのにグレイがその手記を書いています、とにかく二人の健脚はすごいものです。

佐伯 ルーズベルトの方は大統領になる前、西部へ行って西部冒険といった西部旅行の本なんかも書いています。「ラフ・ライダーズ」なんて部隊を作ったりしていますね。

外山 日本の政治家もゴルフぐらいはやるかも知れないが……。夜を徹し泥んこになって沢を歩き、鳥の声を聴く。それが、世界的な政治家の本当の純粋な楽しみだというのは感動しますね。最近では日本でも少しバードウォッチングの動きがありますが、われわれが読んだころは、

どう訳そうかと頭をひねりましたよ。声を聴くのになぜウォッチングとか……。とにかく彼等にとってバードウォッチングは、情熱的な一つの楽しみの方です。紳士たるものの時間の使い方としては最高級じゃないですか。

遊歩は観念の肉体化

佐伯 そういう点で英米には、まだまだ日本が学ぶべきことがあるという気がしますね。ずいぶん前にベストセラーになったんですが、リンダバーグ夫人のアン・リンダバーグが「海からの贈り物」という本を書いている。一家で無人島へ行つて暮らすんですが、そうすると、いかに普段は不要なものに取り巻かれて暮らしているか判つたとか、拾い上げた貝殻、虫、鳥とかの、新しい自然の発見をととてもきれいな文章で書いている。アメリカ人でも、電気もないまったくの無人島で一夏暮らすとかいうようなのを、べつに有名でない人たちがよくやってますよ。日本では場所を探すのが難しいところの問題はありますが、中世の隠者とか、有名な例では『方丈記』の鴨長明なんか、都からちょっと離れた場所に庵を結んでる。日本人は昔から生活の工夫で離れ場所を作り出すのがうまかったと思います。江戸の商人なんかも、若いうちから深川あたりに隠居して、結構隠棲気分を味わ

っている。

外山 明治になって、欧米からいろいろなものを学んできましたが、主として頭を通じたものですよ。生活の感覚みたいなものは、本には書き切れないし、読み切れない。物事を文字と言葉によって理解したというところに、われわれが無意識のうちに観念的になっていくということがあるのではなからうか。だから感覚としての生活、リズムとかテンポ、好みなどは、江戸時代よりも現在のほうが退歩していることがあり得ますね。たとえばスポーツをみても、われわれのやっているのはスポーツというよりは真剣勝負の変型じゃないか。たしかにスポーツの中で勝敗は重要な意味を持つが、あまり勝敗にこだわりすぎて、なにか闘争本能に片寄りすぎている。つまり外国からスポーツを輸入しても、それを本当の生活が豊かになる方向で使うのではなく、逆の方向に動いているんじゃないか。そういう頭から入った知識が、徐々にハートのほうに向かって根付く過程があるとするれば、それが遊歩でしょうね。哲学者たち、たとえば京都の西田幾多郎がよく散歩したのも、観念の世界を実感のあるものにするためには、こういった作業が必要であつたわけですよ。おそらく欧米の文化を生んだ人たちも、こういった形で生活から芽生えたものを昇華させていったんだと思う。われわれはどうも、

頭の中だけに止まってしまっている部分が多すぎます。

佐伯 江戸文人趣味など、いつもマイナスの意味で使われますが、考えてみると、中国と日本は生活条件、歴史的背景、風土とかが、違いすぎるほど違う。しかし、明治までのインテリ日本人にとって中国に学ぶのが大目標であったわけだ。文人趣味に流れたというのは、いま外山さんがおっしゃられたように、外国文化を肉体的に受け止める工夫の一つであったんでしょうね。彼らは、おそらく単に楽しむつもりで、中国風の詩の応酬やったり、文人画書いたりしてたんだらうけど、それで思考法から生活様式まで違う異文化を、ある程度理解し身につけたんだから、実践的な方法としてはなかなかうまかったと思います。われわれが西洋の学問をやって百年ちよつと。千年近くも中国の勉強をしていた先輩、先人に比べると、足元にも及ばないわけで……。

根づくか？ 西欧文明

外山 最近なんとなく、ヨーロッパのものが全体として魅力が減ってきたようです。理屈だけ、言葉だけでとらえたものは根付かないんですね。国際化が進んだといわれ、国境がないようにいわれますが、純粹に外国のものを理解するのはなかなか困難です。めいめいが必然的な

誤解をそこに入れて、いわば加工を加えてナシヨナライズする必要があります。

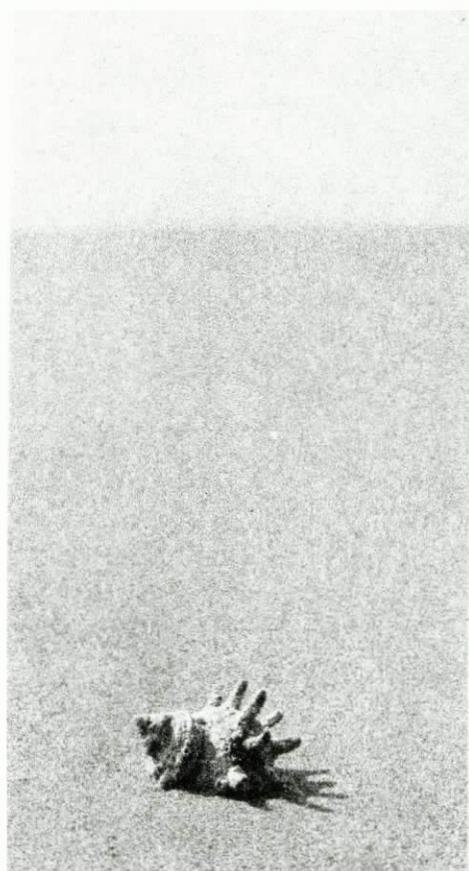
たしかに江戸時代の漢学は外国語の研究としては邪道ですが、やっている本人たちは非常に充実感を持ち、社会的にも数百年にわたって日本の教育の中心を占め得るだけの力を持っていました。今後、広い意味でのナシヨナリズムが起れば、欧米文化に対する評価が非常に変化する恐れがあります。その場合、漢学の示したような歴史的な展開というのは西洋文化については起り得ないかもしれない。それではこまりますから、やはり外国のことを勉強している人間が、もう少し、西洋文化を日本人の生活の中に溶け込ませることを真剣に考える必要があると思うんですね。

遊歩が創る自己空間

佐伯 現代というのは世界中がいろいろな意味でにかよってきている。テクノロジが進めば、この普遍化の傾向は強まる一方です。いわゆる普遍主義の強味が発揮されたのは二十世紀前半までで、今後二十一世紀にかけては、いやおうなしに世界化していく大勢の中で、どうやってローカルなものを生かしていくかになるんじゃないだろうか。だから強引にいえば、この遊歩というのも、パーソナルなものや、ローカルなものを、いかに大

きな動きの中に溶け込ませるかです。学問の世界でもジャンルの区別が曖昧になり、いわゆる実際的な学問がむしろ活力を帯びて中心になっている。いわば複数の学問の領域のあいだを遊歩する精神が、新しい学問の機動力となっているわけです。ですから、少し大きくいえば、遊歩精神というのは個の生活態度というか、ライフスタイルから始まって、新しい学問方法の模索にまで広がっていくんじゃないかと思えますし、少なくとも、そのように広がっていきたいと思います。

外山 現代は個人と社会の関係が非常に複雑なわけで、日常性から離脱して、社会の重圧を刺激としながら新しい積極的な自分を社会の中で再確認するには、自分自身の空間を創造する必要があります。方法としては、座禅組んでも、庵を結んでもいいわけですが、遊歩は、自由であることによってプライベート空間を生み出す。つまり、市民的自由の一番実行しやすい方法として、歩くことがあるんじゃないかということなんです。



「遊歩」の楽しみ

●そぞろ歩きあれこれの

思い出を語りあう――

北原秀雄

前駐仏大使・関西武百貨店顧問／大米佐武郎部会

坪内ミキ子

俳優／加藤芳郎部会

遊歩すると考えさせられることが多い

北原 わたくしは戦後三十数年間、焼跡の中野に小さなバラックを建てて住んでいたんです。ところが、漏電の可能性があるという。また、近所ではみんな家を新しく建て替えられたので、わたくしたちも建て直そうかということになりました。そうしましたら、家内が八卦かなんかで、西北の方角に引っ越さないといけないという。そこで、練馬に新しく建った三階建てのアパートの二階を借りて越したんです。練馬にいけますとね、やっぱり新開地で、中野の哲学堂の脇とは、

まるで違う。はじめてのアパート住いですし、3DKですか、とにかく頭はつかえますしね。前の家は、わたくしのからだに合わせてつくってあったけれど、規格ではダメなんですな(笑い)。

坪内 先生はとても背がお高いから(笑い)。

北原 そう。もうからだを横にしないととおれない。それで、家の中になると肩がコツちやいましてね。日曜日は午後になると、とにかく外へ出かけるんです。広さを求めて。

坪内 出てみて、いかがですか。

北原 練馬は新しいところで、道が四角になっているんです。そして、自動車道路の脇に歩道を無理してつくってある

んですな。ですから、歩道が狭くて、ここに植木なんか出ていると、ここでもからだを横にしないととおれない。しかし、安全ではあるわけですから、盛んに新しいところを歩くわけです。そうすると、

こんど見るものは、みんなはじめてのものばかりですね。大きな家があると、それは必ず、かつての武蔵野の地主さんなんです。練馬大根つくっていたのが、土地を売って、ものすごく立派な家を建てている。自動車は二、三台あるし、蔵もある。そして、横に必ずマンションを建てていますね。かと思うと、非常に小さな、いわゆるウサギ小屋もたくさんあるんです。また、いろいろな会社の寮もいろいろです。

坪内 練馬のどのあたりですか。

北原 中村の方です。それで考えてみますとね。どうも都心の霞が関から丸の内あたりだけを歩いていたのでは、少し一面すぎるのではないかと。練馬区を歩いただけでも、いろいろなアンバランスやひずみみたいなものを見られるし、考えさせられるわけです。たまたま、わたくしは練馬にいますのですけれども、もし、東南の方向へ引っ越せといわれて、江東区などに行っていたら、これまた、たいへんだらうと思うのですね。ですから、ブラブラ歩くということは、いろんなことを考えさせられるので、この遊歩というのは、非常にいいんじゃないかと思えますね。



仕事をしながらでも 遊歩はできる

坪内 遊歩という、目的のない歩きですわね。わたくしなど、普段は車に乗っている方が多いので語る資格はないんですけれど……。ただ、小さいころは、家が神楽坂なものですから、毘沙門天で縁日があったりしますと、よく両親に連れられてブラブラいったりした思い出はあるんです。いまは、歩くようには心がけているんですが、なかなか思うようにはできていません。

北原 わたくしも経験からいいますと、本当の意味での遊歩を楽しむような身分であったことはないんです。四十一年間も役人をやっていた、やめて民間人となつてからも僅か一年ですし、それからも外務省に頼まれて海外を歩いたりして、なかなか遊歩ができなかった。その意味で、これから大いに歩かないといかん。また、期待をもっているわけです。もう一つは、この間、歩きながら、ちょっと気分がよかったもんで、走ったんですな。普通の靴をはいて。ところが、コンクリートの上をそれで走ったんで、腰に響いちゃった。むかし陸上競技をやっていたので、すぐ駆けたくなる（笑）。それ以来、これからは散歩だということになつたんです。

坪内 それは、その方が……（笑い）。

北原 ただ、遊歩というのは、自分の仕事や普段の生活環境から離れたところに意味がある。つまり、もっと幅広い見地から、いろんな反省なり、思いつき、あるいは新しい発見をすることに意義があると思うんです。しかし、わたくしは遊歩というものを、もう少し広げて考えてもいいんじゃないかとも思うわけです。それは、自分のある目的をもった仕事を追求しながらでも、いろんなところへ旅行したり、いろんな人に会ったり、いろいろなことにつかる。国内でも国外でも、歩きながら森羅万象にいきあたるわけで、そういうときに、少し余裕をもった気持ちで、いろんなものを眺めることも、ひとつの遊歩のあり方ではないかと思えますね。

坪内 そうですわね。そういった意味で印象深かったことという、どんなことがおありでしたか。

北原 いま思い出しても、一番印象が強烈であり、また、一番楽しかったし、有意義だったのは、外務省でベトナム戦争の最中に二年間、ベトナムで過ごしたことですわね。そのベトナムで朝から晩まで、あらゆる悲惨や人類のもつとも醜い面に触れたこと。また、たまには人類のもつとも崇高な面に触れ合った。自分ではそのとき、暑いですし、ロケット弾は飛んでくるし、命は危ないという非常に

動乱に満ちた生活でしたが、その中でいろいろと見聞したことが、将来まで考えさせられる問題も非常に多いんです。ですから、遊歩という意味も、自分の気持ちのもち次第ではないか。暇をつくって、ゆつくりと歩くというだけではなしに、あらゆる自分の生活を営みながら、その中でいろいろなことに接する。そこに遊歩の気持ちをもつということではないでしょうか。仕事もおそらく、遊歩の気持ちをもつてやった方がうまくいく面もあるでしょうね。

坪内 実際はベトナムで遊歩どころではなかったと思いますが、なにか遊歩的なエピソードをお話しいただきませんか。

北原 生活は遊歩どころじゃありません。あれだけの爆弾が破裂し、飛んでいくと、その破片が農村の人たちのからだに入るわけです。それも頭の中に、脳に入っちゃう。これは非常に手術がむずかしい。当時のベトナムで脳外科手術をするベトナムの医者はいなかったですからね。そこで日本から技術協力事業団のお世話で、日大病院から脳外科専門の藤井先生がベトナムにこられたんです。その藤井先生がサイゴン病院で脳外科手術をされたが、一人の手術に三時間ぐらいかかる。朝から晩までやっても一日三人しかできない。たくさん患者が田舎からサイゴン病院にくるんです。そして、廊下に寝て順番を待っている。藤井先生が



をやっているときには、かえって遊歩するチャンスが多いんじゃないかと思えますね。

バカンスも、ゆとりもない日本人

坪内 パリにも長くご滞在でいらつしやいましたが、石畳の遊歩の方はいかがでしたか。

北原 役人としてあそこにはいますと、遊歩はできません。八月など、パリに残っている人はほとんどいません。よほどの変わり者だけです。飼い主のある犬は、みんな、田舎へいっちゃいます。残るのは、野良犬とわれわれ日本の大使館員ぐらい（笑い）。なぜかというと、政治家が夏、日本からパリにワーツとみえるからなんです。それで、いろいろと説明したりはしますが、パリの河岸を遊歩したことはございません。

坪内 あら、さぞかし、そういうご経験がありがたかったのに（笑い）。しかし、日本人は、なにか目的をもっていないと歩かないようですね。わたくしなどもそうですけれども、ただ、そうして歩くにしても、好奇心が強い方ですからキョロキョロして歩いてはいますけれども。

北原 たしかに日本人全般の気性は、

制裁だというわけです。

坪内 まあ、恐ろしい。

それはいへん立派な仕事をされた方で、わたくしのいる間だけでも、脳外科手術は二千を越していました。世界でも、これだけやった方はいないでしょう。わたくしも一回、手術を拝見させていただきましたが、そのとき、藤井先生が面白い話をされましたね、まさに遊歩なんです、これが。

坪内 なんですの。

北原 あるとき、弾じやなくて、五寸クギを頭蓋骨の中に突きさした人がきたわけ。いったい、どうしたのかといったら、ベトナムではご婦人がきついですよ。亭主が浮気すると、寝ている亭主の頭に五寸クギをぶち込むのだと。これが

北原 その亭主は女房にやられたんですな。だが、不思議なことに、頭の中に五寸クギが突きささっているだけで、手足のマヒなどもない。ただ、寝返りをうったりするには不自由で、抜いてくれというわけです。それで藤井先生は、あなたの奥さんはいへんな傑作をつくったんだ。こんなことは一度とできないから、記念にとっておいた方がよい（笑い）、と。いや、どうしても抜いてくれ、というのでとつたらしいが、そういう楽しい話もあるわけです。

坪内 なるほど。

北原 悲惨さの中にも、ユーモラスな

ことがある。しかし、ああいう戦争で、いろいろと考えさせられましたね。ベトナム戦争は、まったく違った考え方の二つの勢力がぶつかった非常にむずかしい戦争でありましたし、ベトナムも勝ち抜いたとはいえ、いまみたいな状況になっている。ホーチミン以下の当時のリーダーがとつた政策も、はたしてよかつたのかどうか。どちらにしても、ああいう戦争のしかたのみが国民のために、本当によかつたのかどうか考えさせられます。わたくしも、その間現地で、新聞記者やフリーの写真家などから、面白い話をたくさん聞きましたけれど、そういう意味では仕事をしながらも、ことに非常にむずかしい、大きなドラマ的といえる仕事

あまり遊歩に向いていないでしょうね。

それでも近ごろは、お堀端を朝、みなさんで歩くとか、ジョギングをするとか、歩け歩け運動みたいのがあるようになりましたね。歩け歩け運動は健康のためでしょうけれど、もう少し落ち着いて一人ですくようになるべきでしょうね。そこでこの間、遊歩ということを考えたときに、バカンスということに関連させてみたんです。フランスではいま、日本人は働き虫だ、俺たちのようにゆつくりと休め、働いて輸出競争ばかり強くて困る、といった感じです。彼らにいわせると、自由貿易というのは、同じような考え方で、同じ生活条件で、同じ仕事をしたい仲間であってはじめて、貿易は自由に行けるといふんです。ですから、日本人のようにガリガリ働いていたら、これは自由貿易は成り立たない。したがって、日本人は仲間ではなく、違う民族であるから、フランスは一方的に輸入制限をする権利があるといふんです。簡単に、そう決められては困るんだが、バカンスというものを、日本も本当に考えてみる必要があると思いますね。

坪内 そうですわね。

北原 たとえば、フランスの大学教授は、二カ月ないし三カ月のバカンスがある。それは、静かに勉強し、新しい勉強をする期間なのです。知人の教授は、外国文献を五〇冊もって田舎にいっくんで

すよ。そして、読みたい本をみんな読んで、それから自分が考える。夏休みがないと、本当の勉強はできないといふますね。この夏休みこそ、人生をプラスするものなんだと。そう考えれば、普通の人も一カ月間なり一カ月間半休めたなら、健康の回復と同時に、なにかひとつ、まとまったことをやろうという気分になると思うんです。それで先日、三日間、軽井沢にいつてきたんですけれど、これは仕事にかこつけてなんで、十五年ぶりについてみたら、まるで変わっている。軽井沢銀座なんか、たいへんなものです。

ああいうのも、ひとつのバカンスの姿でしょうけれど、本当のバカンスがあれば寂しい。もっと、自分の実力をつけたら、前進するための有意義なバカンスがあつてしかるべきじゃないですかね。

坪内 どこに根本的な違いがあるのでしょうか。

北原 ヨーロッパの場合は、みんな田舎があるんですね。普通の人でも、みんな自分の故郷に帰って、そこで生活して過ごしているわけです。ニースやカンヌにワーツといっているのは一部であつて、みんな田舎へいって、静かに一カ月間ほどいい空気をすい、田舎のものを食べ、大いに健康を改善している。日本は田舎といつても、そういういい場所をもっている人は非常に少ないですからね。

坪内 ちょっと情無くなりませわね。

とにかく、日本では夏休みといつても、せいぜい一週間ぐらい。それも、みんながワーツと同じところにいつてしまふ。

だいたい日本人というのは、自分のために時間を割くのは恥と思つてますでしょう。すごい働きバチで、家族とか自分のためになにかをするときは、かくれてしたりする。余裕がないんですね、すべてに。ジョギングがすくはやつていますけれども、あれは肉体のトレーニングで、なにかもう少し、精神的に余裕のある、あるいは求める、遊歩のようなものに移行していつてもいいんじゃないでしょうか。

遊歩では、人と触れ合う魅力も大きい

北原 そこで考えるのですが、やはり遊歩しながら興味のあることは、いろいろな人間に会うといふことですね。遊歩で、人と触れ合う、これは非常に大きな要素じゃないかと思ふんです。歩きながら、景色がよかった、空気がよいか悪いとか、社会問題を考えさせられるなど、いろいろなことがあるでしょうけれど、その中で、いろいろな人に会つて、出くわした人のこと、会話などがたいへんに重要なことでないかと思ふますね。

坪内 遊歩の中に、人と人との会話があつた方が楽しいでしょうね。しかし、日本人は知らない人同士では、ほとんど話しませんね。

北原 しませんな。ジュネーブにいたとき、スイスでノルディックスキーをやつてますと、山で会つたら必ず「神に光栄あれ」というわけですね。ドイツ・スイスでは「ボンジュール」とかいふ。これがイタリーに入ると、イタリー人は淋しいところですね。足を止めますな。

坪内 話好きだから。

北原 楽しみに歩いてる人は、日本人だろが頓着しない。止まって、青空を眺めながら、「調子はどうか」といつてきます。本当に喋る楽しみをもつてゐる。それにひきかえ、日本人は喋らなすぎますね。

坪内 ぶつかつても、「ごめんさい」ともいけませんものね。このごろ、歩道を自転車走つてますでしょう。やたら、ベルをリンリンやる。ちよつと、「ごめんさい」「すみません」といつてとおればいいと思ふんです。とくに若い人は、電車の中でもエレベーターの中でも、簡単なことを貝になつたと思ふほどいいませんね。まるで、口をきいたら損すると思つてゐるみたい。

北原 軽井沢にいつたときも、ホテルのエレベーターで、「おさきにどうぞ」といつても、ひとつもおしやらない。あれは、非常に悲しいですね。しかし、本当にそういう意味での対話をもつこと

が大切なんです。よく日本も国際的というが、わたくしは国際化とか、国際人ということばは嫌いなんです。よい日本人であれば、当然、国際的にも十分にとおるのが当たり前で、国際的にとおらない人は、日本人としてもおかしいんじゃないかというのが、わたくしの信念です。そういうことから、国内でみんなが少し、人との対話する機会と話し方を心がけなければいけませんね。なにも国際化をはかるんじゃないに、日本人の中でよき遊歩をして、よき話し合いをし、よきあいさつができれば、国際化は当然、解決すると思いますね。

坪内 本当に、そう思いますわね。ムダの必要性というか、ゆとりというか、日本人にはないんですね。ですから、夕方、ブラブラ歩くんだったら、野球の試合をテレビで見ている方がいいという感じですよ。これでは、いつまでたっても、よき遊歩はできませんわね。

遊歩する意味を自分で見出せ

北原 たしかに、いまの東京という都市は、遊歩をやるためにはあまり向いていないといえませんが、そういう中で遊歩をやるというのには、ある意味で、よほど自分で意義を見出し、心がけて、自分で考えてやらなければいけないでしょ

う。しかし、わたくしのいる練馬でも、外に出ると、むかしの武蔵野を思わせるような立派なケヤキの木がたまにあったり、いろんな家などを見ていると考えさせられるわけです。だから、遊歩というのは、ある程度、年齢のいった方に向いているのかもしれない。わたくしなど、そろそろ遊歩の環境に入ってきたんじゃないかと。

坪内 でも、ある程度、年齢をとった方は、なにも遊歩をなさなくても、いろいろと考えるぐらゐるものではありせんこと。散歩というと、なにかお年寄りくさいですけど、遊歩という新しいイメージですわね。ですから、イメージとか、イメージーションに欠けているのは若い人たちであって、そういう人たちにこそ遊歩は必要なんじゃないでしょうか。歩いていて、明かりがついていたら、あの家はこういうふうな暮らしているんだろかとか、そうしたことが、とても大切だし、必要だと思えます。パリでは、よく公園にお年寄りがベンチになにもしないで腰かけていますが、若い人たちはどうなんでしょう。公園などにはくるとどうでしょうか。

北原 それは国によって違うでしょうが、ヨーロッパでは公園の広さは相当に大きいんですね、ロンドンでもパリでも。それよりも日本と違うのは、アメリカでもそうですが、割り合いと自動車に乗っ

て都心から三〇分もすると、森に出ますわね。パリでも、ニューヨークでもそうです。日本ですと、二、三時間走っても同じようなものには出会わない。そうしたところが違うんですね。それに欧米では都心から高速自動車道に乗っても、全部料金はとられない。日本だけでしょう料金とっているのは、どうも遊歩する条件としては、いろいろと東京など楽ではありませんね。

坪内 日本だけとは知りませんでしたわ。

北原 そういう意味では、日本のGNPは戦後世界で二位になった。このGNPにしたがって、国連の加盟費とか援助とかはじかれていくわけです。GNPはたしかに日本は高い。しかし、GNPの中には高速道路の料金も入っているわけ、いくら日本人の月給が英国やフランスを超えたとはいっても、生活の実質内容から見ると、単に遊歩する場所がないだけではないに、GNPにずい分と払っているものが多いわけです。彼らは払っていないんですからね。ですから、GNPだけで得意になっていても意味がない。実質的な生活環境、生活内容については、日本人は非常に恵まれていないことを、また、相当に高い代償を払っていることを、もっと対外的に主張していいと思います。

坪内 遊歩するにも、ハンディキャック

遊歩は自分の世界を広げる

北原 そうです。ですから、遊歩という考え方を、もっと国民全般の中に広げていこうというなら、よほどなにか哲学的なものを打ち出さないと、ただ、環境のいいところを歩きたいといつても、なかなかむずかしいんじゃないかという気がしますね。

坪内 そうでしょうね。

北原 また、わたくしの話で恐縮ですけど、若いときで官補をしていたころ、フランス大使をしておられた三谷隆信という方がおられたんです。この方は、まさに遊歩の専門家でした。駐仏大使で終戦になって辞められ、そのあと、女子学習院の院長をされ、侍従長をずっと長くやっておられた。たいへん立派な方で、ああいう勉強家は、おそらく日本の外務省でもマレだったでしょうね。内村鑑三さんのお弟子さんです。バイブルクリスチャンだったから、毎朝起きて、バイブルを二時間ぐらいギリシア語、ラテン語で読まれる。そして、食事をされて役所に出られて働き、午後はいろいろな新刊書を読まれる。それは、わたくしたちに勉強に当たるものですが、三谷さんに

はレクリエーションなんです。それから夕方、散歩される。晩飯のあと、また本を読まれる、という一日です。わたくしはお仕えていて、秘書官をやっていたんですが、ときどき、夕方の散歩のお供をしたんです。そうすると、足の向くまま、なにも考えなくて、パツと歩き出される。そのうち、あっちへ行ってみよっか、こっちへ行ってみよっかということでした。

坪内 そういう歩きかたこそ、本当の遊歩ですわね。

北原 その間、勉強されたことを話してください。当時は古代の歴史をよく読んでられて、ギリシアやローマ時代の古い都市生活を細かく分と伺いました。とても、高級な立派な遊歩だったですね。しかし、よく歩かれましたね。当時まだ五十二、三歳で、この間も米寿のお祝いがありました。まだまだご健健です。やっぱり、遊歩は健康にもいい

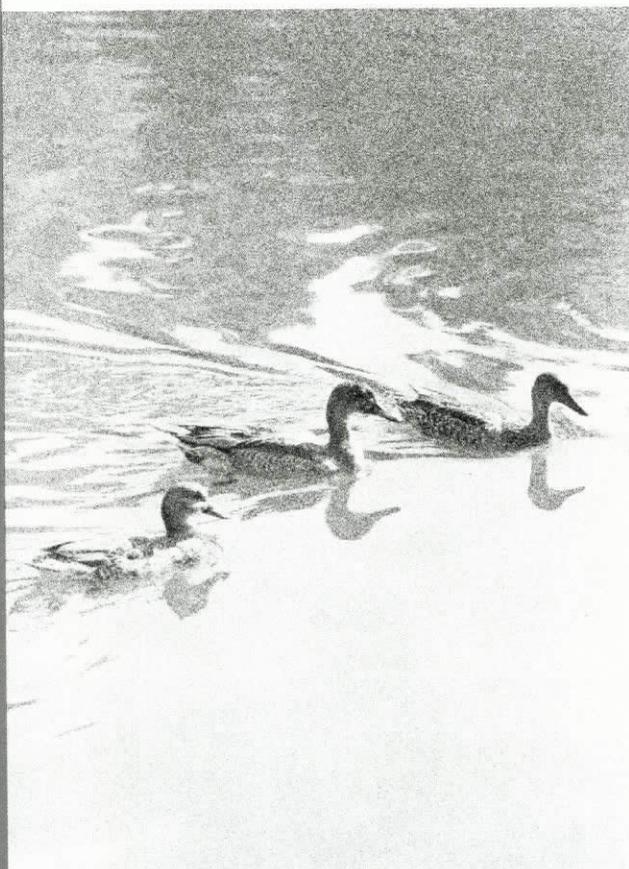
ですな。自動車だけに乗って、仕事だけで、また晩は宴会やっつてというのが一番よくない。

坪内 寿命を縮めているだけですね(笑)。いろいろとお話を伺わせていただきましたが、日本人の特性というのは、どうも遊歩をやりましようというところ、そんな歩くところは少ないか。公園も狭いじゃないか、少ないじゃないかと、みんな社会のせいにすると思うんです。そうじゃなくて、どこでもいいわけですから、どぶ川の辺だっていいと思いますし、建築現場だっていいでしょう。やはり、自分からもっと積極的にやるべきだと、わたくしを含めて努力すべきだと思います。

北原 そうですね。いま、坪内さんがおっしゃったとおりだと思います。わたくしも近ごろは、自動車で家を朝出るようになってしまいました。いまは必ず家から出て、少なくとも十分間は歩くこ

とにしているんです。やっぱり歩いてから乗ると、歩かないで乗るとではずい分と違いますね、あとの一日の能率からみても。これは、たしかに遊歩というのは、条件が整わなければ歩かないということでは絶対に遊歩はできない。むしろ、遊歩のために、自分で納得できるあらゆる環境を自分でつくっていく、自分で歩くということではないかと思

いますね。坪内さん、これからはお互いに、遊歩をするように努力しましょう。
坪内 本当に。努力しますわ。



原子力発電所の事故について

茅 誠司

茅誠司部会 / 東京大学名誉教授
日本学士院会員

スリーマイル・アイランド、本年の敦賀発電所の事故について、七月十七日NHKからの放送があり、又引続いて放射性廃棄物の件に就いて米週放送するとの事です。この放送は南極の日本基地のテレビ放送や、石油掘削の名放送をされた勝間アナウンサーでしたが、私は心からその苦心した放送内容に感心いたしました。このような放送を通じて原子力の

ことが正しく国民大衆に理解されること、問題解決の第一歩だと思います。その中心提案はこうでした。原子力発電所は通称千五百万位の多数の機器の集合であり、その全体に何の故障もないことが確認された上で運転されている。この故障がどこにもないという点を『思い込んで』という状態で行われて来たが、その思い込んでいる点が間違っ

いたのがこれ等大事故の原因だという推論の様です。従ってこの様な単なる思い込みでなく、システム全体の状態をもっとはつきりと確認できる制度に改める研究を行うことが最も大切だと思います。今一つ私の不断の願いは、ピコキュリーなどという放射能を神経衰弱的に恐れることのない様に中学、高校等の理科教育をもっと普遍的に実行することです。

と遊歩私

- ① ➔「遊歩」という言葉で何をとお考えになりますか
- ② ➔「遊歩」に関する思い出は
- ③ ➔現在、「遊歩」されている場合の具体的内容

①遊歩というと、やはり景色のよいところのそぞろ歩きと思うので、長く住んでいたパリの公園、南仏の海にそった道路など、といった事が思い出されます。日本にいと、いつもあくせくして遊歩といった気分：めつたに味わいませぬ。遊歩……ゆとり……自分で作る時間、優雅な感じがします。

②私の通った女学校は、都立第六高女（現三田高校）で運動の盛んな学校でした。春と秋には、十里、七里、四里、自分にあう距離をえらんで、多摩川べりを歩かせました。私は強歩などきらいなので、いつも四



石井好子さん
(国際交流研究会/歌手)

編集部では、本号の特集として「遊歩」をとり上げました。そこで、二十一世紀フォーラムの全メンバーのみなさんに、「遊歩」の狙いをご説明申し上げ、アンケートをさせていただきました。ご回答をいただきましたのは、以下の二十一名の方々です。

①遊歩というとき、やはり景色のよいところのそぞろ歩きと思うので、長く住んでいたパリの公園、南仏の海にそった道路など、といった事が思い出されます。日本にいと、いつもあくせくして遊歩といった気分：めつたに味わいませぬ。遊歩……ゆとり……自分で作る時間、優雅な感じがします。

②私の通った女学校は、都立第六高女（現三田高校）で運動の盛んな学校でした。春と秋には、十里、七里、四里、自分にあう距離をえらんで、多摩川べりを歩かせました。私は強歩などきらいなので、いつも四



大来佐武郎さん
(大来佐武郎部会/内外政策研究会会長)

その結果、編集部の提示した「遊歩」に対して、ある程度のイメージが浮かび上がったと思います。

③回答をいただいたメンバーの方に、誌上から厚くお礼申し上げます。(編集部)

④(五十音順に掲載)

里をえらびゆくり川べりの景色をみながら歩きました。十里、七里、目をつらあげて歩いた人達からみると、私は遊歩を楽しんでいたのかもしいと思います。

⑤葉山——は母の海の家があるのて家から浜辺迄よく歩きます。御殿場——山荘をもっているのてぶらぶら歩く事もあります。野の花をつんだり、生まれた豚の赤ちゃんを見にいったりします。

①突拍子もないことのようにですが、とつさに連想したのは、孫悟空の勅斗雲（きんとうん）です。地上の遊歩からしばらく離れて、大空を自在に遊行できたらさぞや楽しかろう、俗世のせせこましさをもしばらくは絶縁できるのではないか、そう思うのです。もちろんいくらか幼稚っぽい発想でしょうが。

②二十数年前、日本経済新聞の特派員として在独した当時、パリ出張して早朝の街路を一人で散策したときのこと、朝もやの静寂の中で、背の高い黒人が水道の水を流しながら



尾関通允さん
(茅誠司部会/著述業・自由学園講師)

るのが難しいのですが、運動のためと思つて、自宅の手前で車をおりて別に三十分程度歩いていきます。

②先日バンクーバーで、U・B・C（ブリティッシュ・コロンビア大学）のゲスト・ハウスに泊り、朝一時間ほどあてもなく歩きました。自然林と海岸でたいへんよい気持ちでした。

①ふたつのことを連想します。(1) 農山漁村に入って、村のなかをぶらつくこと。(2) 都心の商店街などを目的なしにさまようこと。とりわけ古書店街。

②若いころですが、岩手県内山村のあちこちを歩いてみたこと。畑のわきのハゼに、千大根がぶらさがっていた風景を思い出します。

③まったく不定。ただしひと月のうち、すくなくとも三日間は村ある



加藤秀俊さん
(加藤秀俊部会/学習院大学法学部教授)

ら黙々と道路を清掃している姿が印象的で、私には生きている絵のように映りました。

③毎年夏、榛名山麓の別宅へ行き雑木林の中の小径を、目的意識はなく歩き回ります。時間は決まっていません。東京の自宅にいたときは、たまに近くの自由学園のキャンパスの中を歩きます。この学園には武蔵野の面影がいまも残っていますので、ここでも時間は決まっていません。

きずることをみずからに課していきす。

加藤芳郎さん

（加藤芳郎部会／漫画家・漫画家協会理事）



①「散歩」に近いことばだが「散歩」より実行意志がともなうのが「遊歩」ではないか。

現代の都会生活では、やたらに人に出合うので空間の「遊歩」はやりにくい。（通り魔もこわいし、ビルの破片も落ちてくる昨今だし）。

②開腹手術三回、一年あまりの病院生活から退院後、毎夜二十分の強歩を実行することに決め、十一月の晩秋から十二月の冬、一月の大寒中も欠かさず実行した。長い間の病院のベッド生活を思うと、自分の脚で大地を……、それも医者への許可を貰う必要もなく、自分の意志で歩ける喜びであった。スタートの玄関出る時の氷のような寒風が、帰りつくときは春のソヨ風のようであった。

③人間には、歩くことは絶対に大切なことです。「遊歩」のかわりに「ゴ

ルフ」に精出すことにしています。

金森久雄さん

（茅誠司部会／（社）日本経済研究センター理事長）



②二十五年程前、オックスフォード大学に居た頃週末ごとに、町の周辺を流れるテムズ川の河岸を歩きまわった。ヨットが浮かび、白鳥がおよぎ、遠くには古い教会の尖塔が見えました。若い日の思い出です。

③一月か二月に一度、伊豆高原の別荘へ行き二、三時間家のまわりを散歩します。木や花が変化し、新しい家が建ったりするのを見ていろいろ批評をして、同行の妻にきかせてやります。

河合秀和さん

（小松左京部会／学習院大学法学部教授）

①無目的に歩くことを、遊歩と解します。例えば私は、自宅から最寄りの駅まで約八百メートル歩きますが、これは遊歩に入りません。タク



シーに乗れるのに、乗らないで歩いているという消極的な意味でのみ、遊歩といえるでしょう。

②高校生の時、学年末試験が終わったら、南の方へ向かって二十四時間歩くことにして、友人と二人で実行しましたが、検問のお巡りが「馬鹿なことをやっている」といったのが印象に残っている。

③現在、毎朝六時半から七時まで自宅の近くを走っています。これは「遊歩」ではありません。習慣的行事であって目的はありません。

北原秀雄さん

（大来佐武部会／前駐仏大使・（株）西武百貨店顧問）



①特に「遊歩」という気持で歩く余裕を持ったことはありませんが、人生を通じての人間の動きや思考は

考え方によっては遊歩という角度から眺めることが出来るのではないのでしょうか？ 真剣な努力の中にこそ真の遊歩の機会が秘められていると思います。

木田 宏さん

（大来佐武部会／国立教育研究所所長）



①遊歩という語を広辞苑でみると散歩・漫歩と同じように記してあります。しかしどうも言葉のニュアンスとしては、違いがあるよううて気にかかります。遊歩道という使い方が先立って限られた場所で行きつ戻りつしているような感じがします。散歩という語の方が親しみがあがり拡がりがあるように考えます。

③散歩は、朝六時半から三、四十分自宅の近くで行ないます。一周する道は車の通ることの少し小さな径を選んで、ほぼ一定しています。速度はかなり早い方です。運動と考えるといますが、雨がふればホッとするという心掛けの悪い有様。それでも同じ顔の通勤者と顔が合ったり、ジ

ヨギングや犬の相手をしている人と
いろいろ行き合うのは楽しいもので
す。犬を連れている人の顔が、どこ
となくその犬の顔と似通っているよ
うに思えて、犬が似るのか人が似る
のか不思議でなりません。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

木元教子さん

(茅誠司部会／放送キャスター)



①一定の帰属からの自由・開放。
目的のないそぞろ歩き。しかし遊歩
道と決められるともうそこは、遊歩
する場所ではなくなる。遊歩は、場
所も、時も選ばない。歩いた結果が
遊歩で、ある目的を持ってその歩く
場所や時を決められるともう遊歩は、
遊歩ではない。

②東京大空襲の翌日、親戚の家を
たずねて焼けあとを歩き回ったこと。

「遊歩」となると中国のモンゴルの
草原を仕事からも、時からも解放さ
れ、日が沈むまで自分の好きなテン
ポで歩いたこと。立ちどまり振り返
り、寝ころび、道もなく、視野をさ
えぎるものもなく、風のおい、草
草の葉の音、そして時の悠久の流れ

を、自然に真摯に受けとめていたこ
と。その中で小さな無限の自分がと
てもいとおしかったこと。

③特にここという時間も場所もな
い。気がついてみると、自宅近辺の
千鳥ヶ淵・皇居周辺が多い。ちよつ
と気分転換をしたい時、ふらりと出
かける。目的も特になく、単に束縛
からの解放のようなもの。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

佐々木信也さん

(国際交流研究部会／スポーツ・
キャスター)



①いまの私には、「遊歩」をする時
間的・精神的余裕が全くありません。
その時間がある時は、家でゴロゴロ
していたり、庭でゴルフのクラブを
振っていたりという状態です。

もう何年か、ガムシヤラに働いた
らその後は、「遊歩」をする余裕をつ
くりたいものです。

②中学・高校時代、家からわずか
五分の湘南海岸に行きよく歩いたも
のです。

滝田実さん

(大来佐武部部会／アジア社会問
題研究所理事長)



①遊歩だから気楽に歩くというこ
とでしよう。それは、精神的に解放
され、健康的にもよい、という程度
に理解しています。私はよく目的な
しに散歩することになっているが、静
かな場所もあれば、街の人ごみのな
かをぶらぶら歩くことも好きです。

遊歩はひとり歩きの方がよいと思っ
ています。神経を使わなくて自由だ
からです。身近な場所の遊歩もよし、
外国での遊歩もまた楽しいものだ
と思っています。いまでも外国へ行く
ことを「外遊」と言いますが、ぶら
ぶら歩くうちに何かを感じるからで
す。せかせかした世の中、遊歩は無
心でいて何かを会得する大きな効用
があると思っています。

②人間関係にいや気をもったこと
が幾度かあります。そうしたとき、
見晴らしのよい山へ散策したことが
あります。その小高い所から家々を
眺め、あの小さな世界で、みんな、

押し合い、へし合い、生きている。

しかし大自然のなかで見ると、小
さいなあと、自分に言いかけ、気
をとりに直したことが幾度もあります。

③遊歩は休日が多い。家の近くを
小一時間ぐら歩くこともあれば、
電車で十分、池袋あたりをふらつく
こともあります。夜、仕事の帰りに、
新橋周辺から銀座あたりに出て、画
廊をのぞくこともよくあります。気
が向けば、どこかで一杯やることも
あります。ひとり歩き、現金主義で
す。

庶民と人間の生き方が感じとれる
からです。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

坪内ミキ子さん

(加藤芳部部会／俳優)



①むかし四十歳代に歯そうのうろ
うで大いに苦しんだ。一本、一本と
歯が抜けてゆき、またその時々歯
痛に悩まされた。結局五十歳代の始
めに思いきって、総入れ歯をした。の
うろのいや味も歯痛の苦しみも免
れたし、おかげで胃が非常によくな
った。

それはともかく、その頃、歯のよ
い人をうらやましく感じた。人だけ
ではない。ある日、千葉県の田舎に
行って牧場を訪れた。そしたら馬が
さつまいもの乾蔓を、しかもその前
歯で見事にかみくだきながら、いか
にもうまそうに食っている。馬の歯
をうらやむこと切なるものがあった。

自分にはないものをうらやむのは人
間の常だ。今「遊歩」と聞くと、ぐ
っと迫るものを感じる。わたしはほ
ぼ六年前に急に椎間板ヘルニアを病
み、それ以来満六カ年間腰痛に悩み、

ど散策した夏の夜。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

東畑精一さん

(発起人／東京大学名誉教授・財
政策科学研究所顧問)



腰が重く、歩行が甚だ困難になって今日に至っている。生まれつきの不精も、あまり遊歩もせず、運動もせずであったが、歩くぐらいいは何でもなかった。現に東京爆撃中、田野の拙宅から本郷の大学まで歩いていったこともあったほどである。そのわたしが今日の有様。家居すれば切りこたつにしがみついで一日を終る。毎日こんなことでは、一日当たり二百メートルも歩かない。ますます弱る。そんな次第で、無理でも外に出るが、むろん自動車、しかしそれでも多少は歩くことになる。いつも二人の孫娘、高校二年と中学二年であるが、彼女らがどしどしと活歩している（家の中でもそうだ）のを見るとうらやましい限り、曾て馬をうらやんだのと同じだ。あー自分もあーいう風に歩きたいものだ。それも望むべくもないと思うと、いささか淋しいが致し方がない。そういうわたしに「遊歩」について何か書けというのは、いささか残酷だ。

車椅子など絶対に使いたくない。よちよちながら少しは歩く練習をすべきだと思うが、家の中でそんな練習をするようになっては、もう終わりだ。二十一世紀どころではない。二十世紀だけでも、まだ残りは二十年近くある。とてもその間はもたない。

こんど生まれ変わったら、幼少の

頃から歩くくせをつけておきたいと思う。「二十一世紀フォーラム」は、われわれのような老人でなしに、若い生々しいもののためにあってほしい。

富舘孝夫さん

茅誠司部会/財日本エネルギー経済研究所研究部長



①まず「思考の遊歩」ということが頭に浮びます。エネルギー問題の分析を仕事としている関係上、国際政治から国内の石油業界危機に至るまで、情報と問題の洪水の重圧に耐えかねています、それらを「遊歩」するがごとくゆつくりぶらぶら思いめぐらしたいという願望がわいてきました。

荷馬車と馬ふんのおい。オニヤンマのすいと飛ば下をチンチン電車の停留所までぶらついて、帰って来る。

②新橋から銀座通りを通過して神田へ出て、古本屋を一軒一軒のぞき、水道橋まで歩く。必ずしも本は買わない。中学・高校・大学時代を通じ、

何回も歩いた想い出が印象に残っている。

③外国へ行ったときは、一人で裏街をぶらつくことにしている。時間は不定。風景・民情について新しい体験をするため。

団地内の林、遊歩道の散歩。時間は不定(早朝が多い)。頭の疲れをとるため。

林雄二郎さん

(大来佐武部会/財未来工学研究所副理事長)



①こういう質問をされるような世の中になってしまったのかとガツカリする。世の中とはどうしてこうも馬鹿な奴ばかりいるのか？ 運動不足にならないようにゴルフをするという奴がやたらいる。何てバカな、しょっちゅう歩きやいいんですよ。ふだん歩かずクルマばかり乗って、それで運動不足になるからゴルフもないもんだ。

②毎日、遊歩をしない日はありません。歩くことに思い出があったら思い出が溢れてしまいます。

③要するにヒマさえあれば歩いていきますので、とてもいちいち書いたりいられませんや。

松原秀一さん

(国際交流研究部会/慶応義塾大学文学部教授)



①西欧の修道院には回廊があつて、歩くことが重視されていましたが、

日本では、歩くことを目指す散歩は西欧からの輸入であつたのではないのでしょうか。雪見、花見と散歩には差があるようです。「銀ブラ」も消滅し、「新宿ブラ」、「池袋ブラ」も生まれていないと思われる現在、人間性回復に「散歩」という発想も西欧型の発想なのではないか一考を要します。日本では座禅、茶道等のように静座が、自己観照の途となつていたのではありませんか。香をたき、茶をたて、あるいは墨をすって字を書く方向になるのではありませんか。

「散歩」にはCommunityとしての「都市」が必要なのかもしれません。公園、管理された自然が。

②一九六七年来日されたパリ大・

フラピエ(Trappe)教授と、日比谷から三番町ホテルまでお堀ばたを歩いたこと。フランス留学時代の散歩の味をまざまざと想い出し、他方、東京にもよい散歩道があり、クロード以来フランス人が好んで歩いたことを発見し、在日の長かったヌエット・ブルディエ氏等親日フランス人を想い出していました。

③神田の古書店街を歩き、店主と話しこんだりするのが、小生の「散歩」なのかもしれません。

宮本千晴さん

(加藤秀俊部会/近畿日本ツーリスト(株)日本文化研究所員)



①瀬戸内の島の高等学校(新制)

に通っていたころには、きまりきつた道とはいえ、通学の道そのものが遊歩道でした。時刻によって、季節によって、それはさまざまに様相を変え、あきることがなかつたように思います。陽の光や風のおい、海や植物たちの息吹、その変化を通して私の地表の環境についての、あるいはその中の時間の連続というよ

うなもの。人が生きつづけるトーン

といったものの基本的なイメージを与えられたようです。当時は画布に残したい印象がいたるところにありました。その印象が自然と結びつきすぎていたからでしょうか、卒業後上京してから、そんな情熱を感じることは稀有なことになりました。そしてたとえば夕方になると相も変わらずぬはすの浜辺をぶらつくことにはきなかつたようには「遊歩」したい意欲を失いました。やはり、人間にはある条件が必要なのだと思います。そして今は、このアンケートの主旨と同じことを、もう少し歩をのばした異境への目的のない旅といったものに期待しています。

②徹夜で山の手線を一周したときの辛さと、そのわざとらしさにうんざりしたこと。「遊歩」はどこでもできるものとは思いません。遊歩の環境は自然とは限りませんが、自然にしろ街にしろ、遊歩できるところとできないところははっきり分かれるように思います。

③現在は遊歩をしなくなり、かわりに散歩をしています。時刻は朝のうち、または夜。三十分ほどです。目的はやはりもともと基本的な肉体の感じ方や発想のしかたを再確認したいからです。

向坊 隆さん

（発起人／原子力委員会委員長代理・前東京大学総長）



①人気の余りない林道や野原をのんびりと歩くことです。都会での散歩は、遊歩という感じがしません。

②無数の思い出がありますが、最近では、家内と共に西ドイツに遊びタウヌスのお城に泊って、大木が繁り石楠花が満開の城の庭をのんびりと歩いて来た時のことでしょう。

③別にきまってはしておりません。

村田 浩さん

（茅誠司部会／日本原子力研究所 顧問）



①われわれ熟年層にとって、「遊歩」はたんに健康維持上に効果を期待しうるだけでなく、その地域の自然、社会生活に直接触れることから、心掛け次第で、常に新しい物や現象を感じることが出来る点でも大変有効だと思っています。「車」文明からのささやかな脱却とでもいうのでしょうか。

②古いことは別として、最近の体験でいえば、神戸の北野の異人館通りを雨の中、若い人達に混じって、ひとり三時間余り歩き回ったこと。テレビ放送以来、にわか異人館のことが有名になり、いまや神戸市の名所の一つになったようですが、なおそれなりに歴史のこまを感じさせるものがあり、山の手にかけての坂道は、われわれ年代にはきついが、登るにつれ周囲が変わる面白さがあるていよと思えました。

③現在、小石川（田竹早町）の自宅（マンション）からの遊歩コースとして次の四つがあります。（数多く歩く順序から）

- (1) 小石川 — 東窪町 — 大塚仲町 — 都大塚公園 — 大塚駅まで 片道約三十五分
- (2) 小石川 — 伝通院 — 小石川柳町（ここにやくえんま） — 春日通水道橋まで（片道約三十分）
- (3) 小石川 — 富坂 — 本郷三丁目 — 湯島天神 — 上野不忍池まで

片道約一時間十分

(4) 小石川東大植物園一周（ただし開園時間に制約あり）約四十五分

ロミ山田さん

（加藤芳郎部会／歌手・俳優）



①自然の美しい所を、目的なく優雅にブラブラ歩く事を考えます。お喋りを楽しみながら又は犬を散歩させながら、又あたりの景色を見ながら時間にはばられずに歩くことです。

昔はいくら歩いても疲れは知らなかったものですが、最近ではコンクリートが多いのと、景色の美しい所がなくなつたのと、自分が年をとったことていささか被れます。

②ニューヨークに留学中、セントラルパークの中を三時間歩きました。勿論所々で一休みしてです。美しくて広くて、変化に富んでいるのでいくら歩いてもあきることがありません。都会の真ん中なのに、森のようでリスが走りまわっていて、静かてロマンティックです。

③犬の散歩で、家のまわりを朝夕歩きます。時間は二十分位です。

遊歩／東京／夏／曇日



▲不忍池の広がる水上の空間は、村田さんの遊歩の頂点。ハスの花の咲く音は未だ聴いていないという。

伝通院は自宅から近い。マンションに住む村田さんには、自分の庭のうち。▼



村田浩さん

茅誠司部会

日本原子力研究所顧問

文京区小石川に暮らすようになって十二年、という村田さん。遊歩は、ここに移ってきてからはじめ出した。

きっかけは、「頭を使う仕事が多



◀すしは疲れるものです。



◀「こんなにやく間魔」なんて、変わったところもある。

とって、また格別のもの。

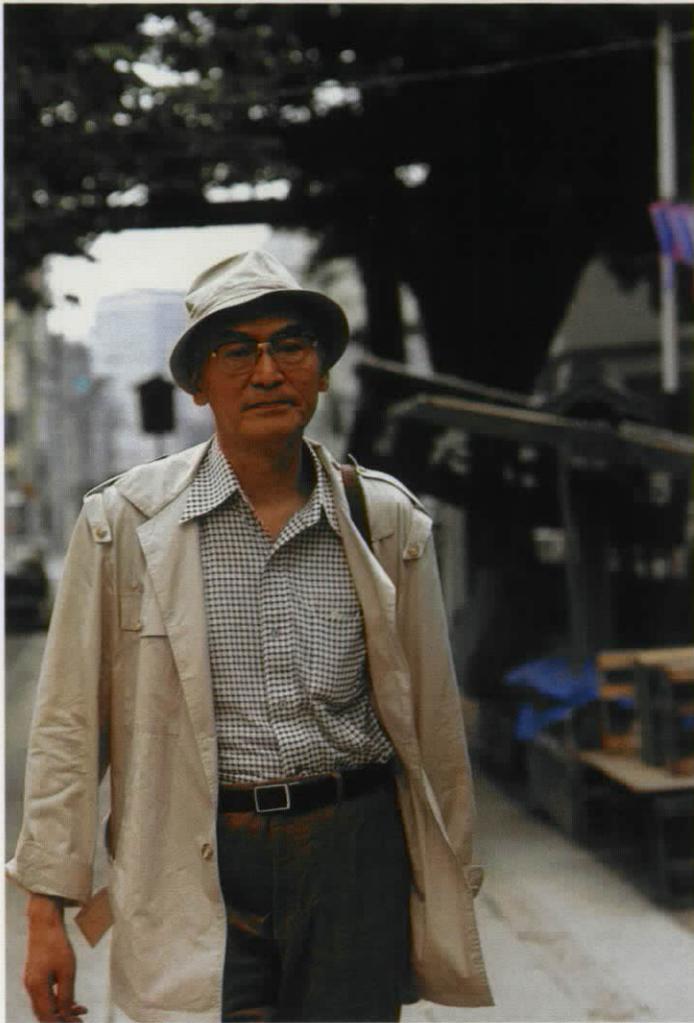


▲「たしかに葉はカンナだな」。東大植物園の“水カンナ(北米原産)”を手にして。

かったので、足を使おうと考えてね」というが、足を鍛えようという気持はサラサラなかった。そぞろ歩きに徹して、現在までつづいている。

「街の中の遊歩は、面白いよ」村田さんは、うれしそうに語る。

「変化があるからね。とくにこのあたりは、震災で焼け残った家もまだあるし、むかしながらの商店街が残っている。そこに、マンションがつつぎと現われ、道も区画整理で変わっていく。また、伝通院や湯島天神など、由緒あるものも多い。こうした渾然一体となったところ、その時代の流れによる変化など、遊歩で見て、感じるころから得るものは大きいね」身長一七八センチ、体重六七キログラムの村田さんは、そう身でいたっ



▲コーヒー屋に入るには未だ早い。もっと歩くぞ……。



◀お詣りしないと……。

▼湯島天神のみたらしの水の感触は、長い道のりを歩く村田さんに



て健康。軽装で遊歩する姿は、自然体ながら生き生きとしている。

平日は夕方五時ぐらいから、土日は、もう少し早い時間から遊歩するが、四つのコースをもっている。小石川の自宅を拠点として、大塚までの片道三十五分、水道橋までの片道三十分、上野・不忍池までの片道一時間十分、そして、近くの東大植物園を回る四十五分の各コース（詳細は、アンケート調査欄を参照）。

どのコースをとるかは、そのときの気分とからだの調子次第。歩き方も中味も、そのとき次第で、決して無理はしない。あくまでも遊歩だ。したがって、途中、遊園地で遊ぶこどもたちを眺めるかと思えば、こんなにやく閻魔（浄土宗源覚寺）でお参りし、街角でいま

▶絵馬札に書かれていることは、新聞の三面記事よりもイメージーションが湧く。



▶夏休みも終わりに近い。池畔で画く少年は、宿題の追い込みか。



▼そして、帰路につく……………。



や大手になったマンガ出版社の旧看板をみては、時代の移り変わりを感ぜとる。

自らを「都市型人間」という村田さん。街に暮らし、街を遊歩し、街の生息を肌でとらえ、そこに存在感と明日への胎動を感じとって糧としている。遊歩ぬきの生活は、いまや、村田さんにとって考えられない。

●「遊歩」フィールドとしての
都市——その過去・現在・未来

「遊歩」イン・ザ・シティ

岡 並木
朝日新聞編集委員
枝川公一
都市文化研究家

都市における
さすらいの旅

岡 遊歩性というか、歩行環境の改革は、これからの都市作りには欠かせない視点の一つだと思えます。枝川さんはニューヨークなど、だいぶお歩きになっているんですが、どうですか、マンハッタンを中心部などは、最近遊歩性ということでは、かなり良くなりつつあるようですか。

枝川 そう、ポケット・パークとか、公園式の抜け道など行政サイドの動きによる施設も増えているし、遊歩性を考えた

構えになっている。ニューヨークは歩いて楽しい街ですね。それに米国ではサンフランシスコもそうですよ。

岡 サンフランシスコは坂がいい。歩いていて風景がガラリと変わり、街の間からポコッと海が見えたりする。水が見えるというのは都市にとって良いことです。日本はその意味でかなり遅れています。最近面白い研究があるんですが、東京の街のリストレーション——修復をテーマに工学院大学の大学院の学生たちが行なったもので、この夏ワルシヤワで開かれた国際学生設計競技で入賞したんです。その着眼点が非常に面白い。かつての東京……江戸では、山の手は坂、下町は川や運河に架かった橋がランドマーク

といいますが、街のアクセントになっていた。それが今のように建て混んでできてきたんですね。だから東京を全面的に修復しなくても、それらのポイントの魅力を引き出すことによって、東京の街にも楽しさ、みずみずしさが戻ってくるんじゃないかという発想です。山の手では四谷の若葉町、下町のはうは門前仲町の近くの牡丹町をケーススタディして提案しているんです。

枝川 たしかに戦後の東京は、川や坂に背を向けて都市を発展させてきてますね。超高層ビルの高層エレベーターが代表するように、効率を求めてプロセスを楽しむ余裕がない。僕は遊歩というのは

都市の中における旅だと思えます。ご承知のように、旅というのはお伊勢詣りがそうであったように、本来的にはプロセスの楽しみであって、それが今日の都市ではむしろなくなってきた。じゃ、どうやって今日の都市を旅するのが問題になるんでしょうか、これは施設の面もあります。つまり、逆に少なくなった楽しめるプロセスを捜して歩くのも遊歩の一つのあり方なわけで、銀座などでは、そういう露地や横丁がまだ残ってますね。何処に抜けるんだらうかといった。永井荷風などがよく書いていた、玉の井の「抜けられます」風の。

岡 次に何が展開するかという期待、

迷路性の楽しみですね。欧州の街がそう

です。中世からの狭い曲りくねった道が今でも残っている。これまでは「あんなもの道じゃない」と不愉快そうに言う都市計画関係の人もいましたが、歩行環境という点から迷路性の良さが最近見直されている。枝川さんもお存知の米国のルーズベルト島などは、自動車を入れないことを前提にしているんですが、道が直線じゃなく、わざわざ曲げて付けられていますね。歩くことの楽しさを追求していくと、道路は必然的にカーブしてくる。あれは米国の欧州回帰の見本です。

街にはたくさん核がある

枝川 僕は欧州は全然知らないんですが、歩くという観点からすると、東京と向こうの都市との違いはどうなんでしょう。

岡 東京はちよつと特殊です。欧州では東京の皇居の範囲に町の中心が集中している。ですから歩くにしても非常にコンパクトなんです。幸か不幸か東京ではセンター地区のあるべき所に皇居がある。だから人の移動のパターンがすっかり違う。東京は歩いて用を足すには広すぎるんです。その反面、都心にあれだけ見事な風景のある都市は欧州には無いで

しょうね。

枝川 また皇居が中心にあったため、東京がその周囲に分散して、全体として面白い街が出来上がったという見方も出来る。以前にやったんですが、山の手線の駅を一つずつ降りて歩くんです。駅ごとに風景がそれぞれ違って面白いです。ニューヨーク、サンフランシスコなどは二週間もかければ歩ききった感じですけど……。それにしても東京の街を今歩いていて一番我慢のならないのは歩道に自転車道があることなんです。

岡 ほんと。歩道というのは歩行者が足を気にせずに歩くためのものなんです。そこから、そこを自転車を通るのはとてもおかしなことだ。日本だけです、こんなことしているのは。米国だって市街地では絶対認めていないし、法律でも禁止している。欧州でもやっていませんね。こんな話を向こうでしたら「なぜ自転車が歩道を走らせるのを許せるのか」と逆に質問されます(笑)。一説によると、パトロールの警官が車道を自転車で走ると危険だからとか……。警察関係のある研究所の人が聞いてましたね。

枝川 話は戻りますが、東京は皇居を中心に建てたたくさん核がある。それがかつては山の手線の駅伝いに広がっていったわけですが、最近では原宿、青山、あるいは自由ヶ丘と西の方へ移っている。つまり東京という街は層構造ではなくて、

核が表面を移動していくといった構造になっっているんじゃないか。その核の栄枯盛衰によって東京の都市としての命脈が保たれていると感じるわけです。その動きを追って歩くのも面白い。いま新しい核はどの辺にあるんだろうとかね。

岡 そうですね。核性というのが東京という広い街に変化を与える大切な要素なんでしょうね。そして核の栄枯盛衰――街の変動というのは、その街の住民と深く係っている。銀座、浅草といった相対的に核性の低下している街は都市としてどこかに問題がある。周辺の夜間人口が減っているんですね。夜中にゴーストタウン化する街では犯罪が増加する例が米国などの都市で多くみられるようだ。

二面性のある街は楽しい

枝川 僕は最近門前仲町の近くに引越したんですが、あのへんが気に入っています。大体飲み屋と食い物屋の多い街は安心しますね。そこであればなんとか生きて行けるんじゃないかという気がする(笑)。この街は昼と夜の顔が全然違う。夜になると酔っぱらいばかり歩いてたりしてガラリと変わる。こうした二面性のある街というのは楽しい街ですよ。西新宿とか、かつて住んでいたんですが高

島平などには、こうした多面性の顔が無いんじゃないか。

岡 かつて西新宿が十二社と言われていた頃にはそれが多分にあった。あれは副都心がいけないね。ホテル以外は夜間人口を完全に拒否しているでしょう。やっぱり愉快な街じゃあない。二十四時間なんらかの形でいろんな顔した人間がそこにいる。それが楽しい街になる一つの大事なステップです。街としての健康を保つためにも必要なんです。まだ着工されてませんが、ニューヨークのハドソンの埋立て地を利用するバッテリーパーク・プロジェクトも二十四時間人が住める都市を目指している。

枝川 岡さんは地下鉄の二十四時間運転について書かれてましたが、僕もあれ賛成ですね。地下鉄に限らず、山の手線も夜中に動いていたらいいのにも思う。新宿などで酒飲んで遅くなって帰るんじゃない、途中で降りて歩きたくなっても降りられない。山の手線が夜中に動いていれば、一駅間でも二駅間でも歩ける。そうしたら全く新しい真夜中の都市空間が東京に広がると思うんです。そうした未知の空間をタクシースターの窓から覗くだけというのは大変不幸なことじゃないかという気がするんです。地下鉄の終夜運転はどうなんですか。

岡 結局、日本の関係当局の責任者の頭の問題になる。たとえば、日曜日はド



みたいですね。門前仲町は銀座から歩いて四十五分くらいなので、真夜中に歩いて帰ることもあるんですよ。人っ子一人いない、真っ暗な佃大橋を渡るのなんか実に壮快ですね。

岡 ニューヨークじゃ治安が悪くてそれは出来ませんね。その点日本はしあわせだ。

街の息吹きを直かに感じることに意味が

枝川 ニューヨークでもあるんだぞう

ですよ。週一回セントラル・パークから真夜中に歩くというグループが。しかしグループで歩くという発想には僕はあまり賛成できない。遊歩の精神性からいえば、一人で歩けるかということも問題になる。一人で歩くというのには相当な抵抗があるわけですよ。みんなてブラブラするのと違って、荷風がパリに居るとき、会社帰りの女の子をつけて歩くという話がある。荷風はそれが楽しいわけですね。ですから女をつけるんでも男をつけるんでも、何を見るんでもいいから、自分自身でそういった楽しみを作ると都市での遊歩もより広がるんじゃないでしょうかね。

岡 対象が風景であれ人間であれ、そうした行為に楽しさを感じさせるには、歩行スペースにゆとりがなくちゃ駄目ですよ。だいたい東京は欧州の街に比べて抵抗なく歩ける距離が短いよね。ひとつにはやたらと信号があつて待たされる。それに歩道が狭いから人と人がぶつかり合うような混雑がしょっちゅう起こる。それに先程の自転車の問題など……。歩行者天国も随分盛んになってきたけれど、もうあれから脱却してもいいんじゃないでしょうか。つまり一時的な歩行者天国ではなく、完全な歩行者道路に変えてしまふんです。そこから得られるものは現在の歩行者天国より、はるかに豊かなものになるはずですよ。

枝川 銀座の歩行者天国では、歩行者天国以外の道を歩くと面白いですね。日曜日の銀座の裏街というのは誰も歩いていないし、お店も開いてない。ときどき家の中から日常の会話が聞えたりしてね。そして横町では詰将棋なんかもやっている。

岡 それが街なんです。本当にそう思う。シンガポールに三、四年前までカーパークという所があった。メインストリートに面した屋根の無い五十台ほどの駐車場でしたね。それが五時になると車は全部出なくてはいけません。六時からそこに百台ぐらいの屋台が入って飲食街になる。夜通し電気煌々とつけて、脂をジージーやって楽しいの。そんな空間があったんですよ。それが去年行ったらきれ

ライブ自粛、ガソリンスタンド閉鎖とか、パーキングメーターは夕方七時までで、あとは駐車違反にするとといった、あくまでも仕事に価値を置いた発想から抜け出せない。夜中に動くのは遊び人だけというわけですよ(笑)。動くことだけが尊くて、残りの人生は社会が面倒をみるべき筋合のものじゃない。そんなことは税金のムダ遣いだといった観念が牢固としてある。かつてある政治家が地下鉄の終夜運転を言ったんですが、営団は保守が出来ないと反対した。とんでもないことで、ニュー YORK の地下鉄もフライデルフイアの郊外電車も終夜運転をしている。後

者の場合は単線運転で保守をしますね。それにワシントンの終夜バスなんか、早朝に働く勤労者で夜中の二時、三時に満員です。利用しているのは遊び人だけじゃない(笑)。かりに遊び人であってもいいと思うんです。ルーズベルト島のケーブルカーは、週末は運転を午前三時半まで伸ばしていますね。

枝川 日本じゃ「ハレ」のときだけ……。岡 そう、お上のお許しが出て、神社仏閣にお詣りするときにしか終夜運転しない。

枝川 やっぱ「ケ」のときにも動かしてもらって、夜の都市空間を遊歩して

いな公園になっちゃってる。屋台はというと、近くに出きた立体駐車場のワンフロアに押し込められている。空は無いし、風は来ないし、ヤシ油の匂いが鼻につくし、全然楽しくない。きたないものを隠してシンガポール政府は満足でしょうが、あれはちよつと行き過ぎだと思えますよ。やっぱり人間が街の中にざわめいているのが楽しい、街の基本的なことです。

枝川 人間というのは都市の風景の重要な要素なんです。それぞれの時間や場所によって、違った顔、違った服装、違った歩き方を見せている。それが面白いんですよ。この人間を風景として見得るかどうかが、都市の中の遊歩の条件になると思う。話は変わりますが、下町に引越してから新しく川筋を歩く楽しさを発見しました。橋を渡って川沿いに歩き、また橋を渡るという。あの風景の変化は面白いですね。ちよつと今まで知らなかったことです。

岡 この七月に高田馬場、新宿とかに珍しく大洪水がありましたね。以前の江東地区は大雨が降ると必ず洪水になった。それが昭和四十年代のなか頃からびたりとなくなった。いいことですよ。しかし、われわれは同時に失ったものもある。それは都市における人と水とのつながりです。浜離宮なども僕が学生の頃は芝生に寝そべって沖行く船を眺めたりしたのですが、高い堤防が出来てしまった。

東京に海があるという唯一のアイデンティフィケーションの場であったのに……。

あれで、東京は完全に海を失ってしまった。緑も大切だが、都市の中の水も大切なんだ。それも自然の水。つまり触ったり中に入って遊んだり出来る水です。それを都会風にアレンジして持ち込むことは可能なんです。ところが日本の道路関係者は、まだ水は邪魔物だと思っている。横浜の伊勢佐木町に伊勢佐木モールという割合良いモールがあるんですが、法律でいえば、あれはあくまでも車の通る道路なんです。だから水を出しちや駄目、大きなベンチを歩道相当の部分に置いちゃいかん。木を植えて見通しがきかない道を作ってはいけなとか、いろいろうるさい。つまり、人間が楽しく歩きたいという観点からは、日本ではまだ道路が作りにくいんです。この点欧州に比べて三十年、米国と比べて十五年は遅れている。ですから、この特集が日本の道路行政を少しでも進めるために役立てばと思っています。

遊歩のためのソフトウエア

枝川 歩き易い道、というハードウエアの面ともうひとつ、歩き方の工夫というソフトウエアの面があると思うんです。

たとえば明治通りといったすごく長い大通りを延々と歩いてみる。すると、周囲の風景がドンドン変化する。それにつられて、つい歩いてしまします。先程述べた川の橋ごととにコの字に歩いたり……。

最近気がついたんだけど、橋の上にクルマを止めてなかで寝ているドライバーがよくいるんですね。夏の午後でもあそこは涼しい。それを知っているのはタクシーと小型トラックの運転手。窓を開けて寝たり、飯食ったりしている。陽が暮れると、おばあさんが椅子を持ち出して涼んでいたりもする。かなり限られた知っている人だけが利用している空間を発見する面白さもあります。それに地図の上で計画立てて、その通りに歩いてみるのもいい。

岡 たしかに歩くといろいろ見付かりますね。歩くことによって自動車や自転車で走るより街がキメ細かく見えてくる。最初に紹介した工學院の学生さんの研究ですが、坂道を楽しむために、出来たら坂の途中に公園を作るとか、ベンチを置くとかして、安らぎの空間を配置するわけですね。そうすれば、つらい坂道が優しい坂道に変わるんじゃないかと……。そういったことを考えているようですよ。江戸幕府の都市計画者たちはすでにやっていますね。たとえば愛宕山に男坂があるでしょう。あれは全然踊り場がなくて本当に恐い。ところが三百年ほど前

に婦人が神社仏閣に参拝する習慣が生まれたとき、登る苦勞を少しでも軽くするために、ゆるやかな女坂をつけたんですよ。昔はそういった配慮がずいぶんあったんじゃないかと思うんです。僕がよく例に引くのは、沖繩の今帰仁という坂ですが、九十四段もあって下から見るとすごい登りなんです。それを百歳近い老人が喘息も起こさずに登っている。僕も登ったんですが、登り始めるといつのまにか頂上についている。不思議な階段だと思って、あとで気になって調べに行ったら、すぐに判ったのは三段、五段、七段、また三段、五段、七段とリズムがついていて、それぞれの都度踊り場があるわけですね。次の踊り場が常に目に入ってくる。しかも周囲の風景が変化に富んでいて、無意識のうちに見回している。心理的に騙されて登っているんですね。沖繩にはこのように踊り場の多い階段が沢山ある。郷土史家に聞いたんですが理由は判らない。文献にも残っていないんです。年取った石工を捜し回って聞いたんですが、彼も気が付いてなかった。ただ徒弟奉公のころ親方に登りやすい階段を作れよと言われた。それだけを一生懸命考えてやっていると……。暑くて歩きにくい沖繩の気象と内地よりは五、六百年古い石積み文化が、こうしたノウハウを伝承させているんでしょね。そのような意味で、われわれの祖先が残した知恵の中に、現



在の街をもう少し楽しくさせるヒントがあるんじゃないだろうか。それを皆でもっと捜したらどうだろうかと思うんですよ。

枝川 昔は、ほうぼうに門前町というのがあって、それは遊郭とか芸者町と表裏一体となって成り立ってきましたよね。お詣りが目的なのか精進落しが目的なのか判らないほどに一体となっていた。岡さんが言われるように坂についても、下から上までいくつかの要素が配置され、そこへ行く人間の興味を持続させる構造があったと思う。そうした表裏、上下が一体となった街の状況というものも失わ

れてきている。ところで歩くという行為には、かなり幼児性の問題がありますよね。先程の水の問題でもありましたけど、子供は水の中に手を入れたりするのがすごく好きなわけです。あの気分ですね。遊歩には幼児性がかなり濃厚にあるんじゃないですか。街を歩いていて角を曲るとなにかあるんじゃないか、煙草屋さんは何メートルぐらいの距離であるんだろうか、街角にはどんなお店が多いんだろうか……など、役にも何にも立たないんですが、それぞれが楽しい。やっぱり幼児性ですね。

岡 それはつくづく感じます。ドイツ

でもフランスでも、触ることの出来る水の施設は沢山ある。冬いっても夏いっても、子供たちは一生懸命これに触っている。袖が濡れるからと母親が止めるのを振り切ってますよ。いや子供だけじゃなく大人も触ってますね。僕も何度も触った。やっぱり幼児性はありますね。日本では、都市計画者がそれを忘れているから、こっちで楽しみ方を見付けざるを得ない。ただ、自分で見付けるといいうのは優れた才能の一つであって、すべての人にそういった才能を求めるのは無理だと思ってる。だから、もうちょっと皆が楽しさを感じるような街、住み良い街にしようとするなら、都市計画者たちはもっと工夫しなければいけないんじゃないですか。現在西ドイツでは、人間の徘徊できる街作りの動きが起ってますね。

せめて街の中では人と自動車が五〇%ずつの権利を分かち合おうという考え方が元来道路というものは、そこに住んでいる人たちにとっては居住空間の延長であったわけです。それが自動車の増加により、狭い家が家に閉じ込められてしまった。道路に居住空間としての機能を取り戻し、遊歩性のある道を作る。それが人間が二十四時間いるという健康な街を作る一つの方向だと思えますね。

自分で歩く楽しみ 方を工夫せよ

枝川 深夜営業のコンビニエンス・ストアが面白いですね。そこへ歩いて行くプロセスもまた楽しい。あれは歩くための装置としては非常に有効ですよ。行けば行ったで、なんか違った人たちにも会えるし……。酒飲んだ人しか乗っていない最終電車と同じような面白さがある。通勤電車の利用法もあるんですよ。じっくり窓外を観察していると、あの看板の裏はどうなっているんだろう。あの煙突は何の煙突だろうかといった興味が湧いてくる。会社勤めをしていた頃には、実際に途中下車して煙突を捜して歩いたこともあるんです。電車の窓から見えるのは町のほんの一部分というか表側だけであって、そのうしろにはたいへん豊富なものがあるんですよ。ただ郊外からの通勤者は、背広着て皮靴はいて長い距離を歩くのは苦痛ですね。ですから歩く場合の服装や履き物の問題、バッグの問題などもありますよ。

岡 普段着で街が歩けるためには、その街の近くに住居が無いと……。あまり職住接近だと息苦しくなるんだろうが、近くでも遠くでも好みに応じて選択できる状況が望ましい。履き物についてい

■ お金で買えない 栄養の不足 ■

木田 宏

大来佐武郎部会／国立教育研究所所長

病気に、インフルエンザのような流行性のものと、日頃の健康管理の偏りから来る体質的なものがあるように、青少年の非行についても、その時の流行から来るものと、発育の偏りから来るより根源的なものがあると考える。昨今の青少年非行の増加には、後者の要因がより多く働いているのではないだろうか。

心身の基礎ができ上がるとされる十歳頃ま

で、肉体的な栄養ではなく、精神的な栄養に欠けるものがある。家庭や社会の対人関係、正しい言葉遣い、自然や生き物との関係など、要するに自らの身を処して行くための諸関係を、正しく把握し伸ばしていきける基礎的な能力の養成に偏りが生じ、その修復ができない間に、非行へ進むというのであろう。

それ故、言い古されたことではあるが、幼

少時に、精神的な栄養を親が偏りなく与えることである。これはお金で片の付くことではない。お金で買えない栄養を親は子に与えてやらなければならない。豊かになって、親が栄養や教育をお金で考えすぎたことが、今日、戒めを受けているのではないであろうか。

ば、日本の車道の舗装技術は世界の最先端をいつている。しかし歩道に関してはまだ入口に達した程度ですよ。僕はときどき着物きて草履はいて歩いてみるんですが、これで舗装の良し悪しがいつべんて判る。一番良いのが銀座通りの御影石の舗道、あの摩擦がちょうどいい。一番悪いのは数寄屋橋ジョッピングセンターのアーケード。ツルツル滑ってウインドジョッピングなど出来やしない。伊勢佐木モールの舗装も素晴らしいですね。草履でも滑らないし、高いハイヒールをはいて歩いていても気持が好いそうですね。

枝川 僕もつばらジョギングシューズで歩いている。これはゴム底で滑らないですね。滑る靴じゃ、一歩歩いた途端に、もう歩く気がしなくなりますね。

——そこで、都市における遊歩なんてすが、僕は状況としてはかなり遊歩にとつ

て困難な状況になりつつあるし、現在なっているんじゃないかと思うんです。だから、やっぱりそれは歩こうとするための頭の問題が大きいんじゃないだろうかと思うんですね。歩くことって自分はどうな風な楽しみを見付けることが出来るのか、歩くということがどんなに楽しい遊びであるのかということ、自分に納得させるというのが、たいへん必要じゃないだろうかと思うんです。それはたとえば、いま町名変更で町名が単純になっていくけれども、昔の地図なんか見ると、町名が、その町名でなければならぬような町名がいくつもついているわけですね。たとえばそういう風な昔の地図を持っていけば、そこにいまは無くなってしまったけれども、かつてはあったものを、探して歩く。それは自分の頭の中で理解することかもし

れませんが、自分で自分なりに思い込むことも出来る。ここまでするか町であったということを考えながら歩くのも一つの楽しみだろうと思うんですね。それから、たとえば歩く時のパターンを決めて、どういうふうな道を歩くことにしようかというふうなことを決めて歩けば、そこに何か発見できるだろうし、そういう楽しみ方を自分で考えて、自分に納得させながら歩くという、これは本当はいへん悲惨な状況なんだろうと思うんですね。そうでもしないと、今はなかなか歩けないんじゃないかと思うんですね。それが僕には必要なんじゃないだろうかという、そんな気がしますね。

岡 僕もそのことが一番問題だろうと思うんだけど、結局そういう風にして、

枝川さんのように自分で歩く楽しさを見付けて歩いてくれる人。これはたいへん

有難い。そうでない人は、歩く楽しさがない街は、自動車に乗りたくなくなるんですよ。これが問題をいよいよ深刻にしていると思うのね。だからやはり、自動車は、バスも含めてですけど、少しでもそういう乗物に頼らないで、五〇%以上の人が歩く気持を起こすような街を、少しずつ作っていったらどうだろうか。そうしてその一方で、出来るだけ自分で歩く楽しさを見付けるといふことも、またこれは大事なことから、個人としてはそういう風になるべく工夫すること、同時にやはり都市計画をする人たちには、一歩でも余計に歩けるような、歩きたくなるような街に変えていく工夫が必要なんじゃないかな。

「遊歩」の 視界

「遊歩」が自我を確立し、確立・固

着した自我を「遊歩」が突き崩す

小松左京

作家 / 小松左京部会

上山春平

京都大学教授

歩行と思考

小松 上山さんもそうですが、和辻さん、西田さん、京都の哲学者はよう歩きますな。梅原猛さんもあちこち行くし……。何か関係があるんですかね。考えることと歩き回ることとは。

上山 歩いていると、「犬も歩けば……」で何かに出くわす。哲学というジャンルを開いたといわれるソクラテスも、よく人の集まる所に出かけて行って雑談したりしている。ルソーもよう散歩してますね。

小松 僕の場合は旅行するんですが、たしかにそうですね。数学的にデータだ

け見ていると、抽象に抽象が重なるみたくて手詰まりになるし、少し人間的なふくらみもやせてくる。数学者は歩かなくてもいいのかな、抽象論やから。

上山 数学は精神科学ですから頭の中だけでいろいろやれるかもしれない。哲学にもその面はあるが、いわゆる実践哲学というのは書齋だけではいかん。

小松 上山さんは一時古代史なんかすごく情熱燃やしたときがあるでしょう。あれは絶対歩く、本だけでは駄目だ。

上山 歴史自体が一種の歩きですね。過去に向かって歩く。

小松 時間旅行ですね。また逆に、ある程度の歴史知識がないと、歩いっても面白くないでしょう。シルクロードな

んで、これがシルクロードだという認識がないと、汚い、ほりだらけの道が延々と続いているだけです。また一度、書物なんかで入ってストックされた知識が、現物との対応で刺激うけて、非常にリアクティブトしてくる。

上山 歩いていると、今までの書物に書いてくれない、予想もしない問題も出てきますね。

小松 それから、知っているんだけれど生きてないという知識が、ああ、こんなことかと、突然いきいきとしてくる。ちよいちよいぶつかりますな。

上山 僕はテレビでしか見ていないけど、玄奘が走ったという玉門なんか出てくると感動するな。シルクロードといっ

ても、もともと取引の道であった。目標があるからこそ、ああいう所を歩くわけですね。

小松 向こうに目的の地があるから行けるわけで、ぶらぶら歩いたって、どうしようもない所です。

上山 玄奘の目的なんかは単純明快。『瑜伽師地論』に代表される唯識思想のテキストを求めるのが主眼。ただ、途中でいろんなことにぶつかる。現代ではいろいろと旅行も可能だけど、途中の障害が少ない。つまり、歩かないですむ度合いが多すぎるため、そういった歩く無駄から起る、新しい問題の発展などは減ってきているんじゃないんですか。

小松 しかし、現場へ行くということ

も大変刺激を与えてくれる。飛鳥板蓋宮の発掘を始めるときに行ったんですが、かなりの宮殿でも柱の跡だけでは、ずいぶん小さく感じるんですね。それを見ながら、この辺に蘇我入鹿がふんぞり返っていて、この辺に下つ端が小さくなっていてとか……。記録の中で抽象化され、モデファイされている人間が、結局、われわれと同じ人間やったんやという感じですね。

上山 そう蘇我入鹿の場面でも漢文で書いてあるから、すごい広大な宮殿みたいに見えるけれどもね。

道のこのち

小松 関西というのは、歴史が古くから記録に残っていて、しかも、それはここやと場所が指定されている所がずいぶんあるでしょう。考証屋さんはこのこと違うということもあるけれど、それは本当に面白い。すごく古い大和朝から始まって、古代、中世、近世と。この間から富田村の大阪芸大に勤めるようになって初めて判ったんですが、八幡太郎義家は南河内で生まれてるんです。これは大阪の人もほとんど知らへん。その後、みんな石川満仲の子孫ですが、彼の孫が河内の石川で石川源氏になっている。

上山 多田源氏というのは摂津でしたかね。摂津の多田から摂丹街道を通って、

老ノ坂から京都に出る道がありますが、義経が一ノ谷に行くとき、老ノ坂から篠山のほう回って、川沿いに南に降りている。以前からあのコースを回りたいと思ってるんだが、まだやってない。

小松 最近、郷土史家たちの手によって、古道の考証がだいぶ進んでいますね。

上山 しかし古道の研究はまだ不十分です。道そのものを狙って発掘するという技術は、まだ開発されていません。道そのものを狙って発掘するではないですか。道の発掘というのは少ないんじゃないかな。

小松 僕もそう思う。今度、ようやく大和の南北の古道図が出ましたね。

上山 郷土史家だけの古道研究じゃ不完全なので、もっとシステマティックにやる必要があります。たとえば専門の農

家の人たちは、まだ、いろんな道をよく

知っているわけですが、尾根道なんかは山仕事に行かないから、忘れかけています。プロパンガスが発達して、もう柴刈りに行かないんですね。いまのうちに記録しとくと、もう五十年も経ったら小さな道は完全に忘れられてしまう。現在使われてはいませんが、戦国時代の三尺道という往環などは、すっかり踏み固められていて、まだ残っている。これを

今のうちに、二万五千分の一の地形図などに書きこみながら、記録として聞き取っておく。ま、いくつも説は出るだろうが、それをどこかが文献学的もしくは考古学的に考証してほしい。

僕は近頃、古城趾を歩いているんです。有難いことに、この古城趾が古道の

ツボをきつちりと押さえてるんですね。先ほど述べた摂丹街道でもずっと城趾がある。先日も笑路城という摂丹の真ん中を押さえていた城が、関西電力の鉄塔を建てるというので発掘されました。こうした多面作戦でいけば、かなり完全な古道図ができるはずですよ。

小松 中世の初めぐらい、鎌倉期の要衝というのは、きちんとやつとかと、ぐしゃぐしゃになりますね。

上山 「鎌倉道」というのも、石なんかを敷いた立派なやつが残ってるでしょう。あれもどんどん、ずたずたに切られている。いまのうちにしっかりと図面上に記録しとかないと消えてしまう。それと現在全国的に水田の区画整理が行なわれているでしょう。これで、五年か十年のうちに条里の跡も大部分消える。これは日本の歴史始まって以来のことですよ。日本の歴史学者は、遺跡保存については敏感なはずですが、現在まで残っている畦や池、道などはあまり気に掛けない。

小松 日本は中国のようにべたっとした沖積平野があまり無いから、平野部の古いものは残りにくい。でも六月、田に水を張った頃に生駒山に登ると条里の遺構が見えるんですね。スモッグがあるとかえっていいんだが、西日が落ちて行くときに田の水を反射して、そのときだけ条理が見える。普段は建物などで判ら



● 上山春平

ないんですが、まだ残っている。

上山 条里は、こんど大和一国分だけ
権原研究所がやりましたね。すごく濃厚
いのを吉川弘文館から出した。これは消
える寸前の記録です。大阪や京都のもの
も、あの真似して出してくれないかなと
思うんだけど。

小松 大阪は南河内から和泉にかけて、
だぶ残ってますな。

上山 条里というのは、ただそれだけ
ではなく、中世の堀など、付随したいろ
んな歴史が残っている。弥生から七、八
世紀にかけて、きつちりと土地に刻印し
て、今日まで連綿として続いてきたもの
を、農業機械に合わせて組み直している。
日本の歴史始まって以来のことですよ。

小松 弥生時代にも、きちつとした農
業土木、水利土木がありますね。登呂遺
跡なんか、ものすごい小さな傾斜を十
分に使い切っている。だいたい、谷間、
扇状地を切るように上手に利用していて。
条里制という一種の思想が入ってますま
すね。

上山 律令的な思想がね。条里制はイ
デオロギーの威力だ。平城京もそうだけ
ど、日本人は案外にイデオロギー好きの
所がある。しかし、ええもんじゃないか
なと思ってるやつも、あとでぐじゃぐじ
やにしてしまう。それはさておいて、お
そらく条里制が入って、道もだぶ殺風
景になったと思う。たとえば逢坂関なん



●小松左京

か、あんな所にデーンと構えているが、
律令制が崩れてくると、また、ふにやふ
にやとした山の道がいっぱい増える。

遊行の系譜

小松 平安末の関東なんて、どないし
てたのかなあ。上州あたりは、さすが関
東が一番早く開けただけあって、それら
しい痕跡があることはあるが、上総、下

総、武蔵なんか判らない。相模も、箱根、
小田原あたりは、かなり昔から文献もあ
るが、あまり判らない。……実際の話、
タイムトラベルなんかする気があるのな
ら、歴史の本でもちよいと読んで、いて
それから歩くと面白さがずいぶん違う。

上山 相当手間はかかりますが、歩か

んといかんですね。八十八ヶ所巡りみた
いなものです。漠然とした目標があって、
あとは出たとこ勝負で何にぶつかるか判
らない。今西錦司さんが、三角点を目標
にしてやった千山登頂も同じだ。非常に
抽象的な目標というのは、歩くときにが
むしやりに歩ける。途中はぐしやぐしや
な道だから、いろんなものに会えると思
うな。玄奘が仏典を取りに行く……、こ
れももともと抽象的なことですね。

小松 僕は最近車が多くなって、自
分の足ではあまり歩かんけれども、それ
でもバスや鉄道よりはいい。例の「エリ
アを行く」とか、何やかんやり始めた
のは、国内で車の旅行が出来るようにな
ってからです。細い道でも入って行け
るようになった。

上山 車で行って、降りてチョイと歩
けばいい。それで、さっき言った鎌倉街
道なんかを、郷土史家でない人たちが出
来るようになったと思うんです。その現
場を教えてもらって、あとはこっちに
っぱい持っているものでスキヤニング
すればいい。

小松 それに歩いていて、ここは人が
住んでいてもよさそうだなあと思った所
に、昔は実際に村があったりする。こう
いった感覚は、まず考える前に感じるも
のです。この感覚をつかんでないと、書
齋に入って抽象作業を積み上げならん
きに、フィードバックがきかない。

上山 結局、活字になったものは、人
間の製品の枠の中から出にくいでしょう。
ところが五感となると、むかしむかし当
方がまだ爬虫類であった時代よりもずつ
と前から持っているものだから、五感を
はたらかして世界に接するといろんな潜
在的なものがドツと出てきよるんです。

小松 それから、これは経験論だとい
われてもしょうがないけれど、逆に書い
たものを読んで、この人はよう判つとる
なというのと、この人はアクロバットや
ってるということが判るようになる。文
献に対するスクリーニングが自ずと出来
てきますね。

上山 柳田さんのものなんか、歩いた
だけのことはありますね。

小松 宮本常一さんという、すごい人

もあって。

上山 五感だけでやっている、すかたんもやります。しかし、野球でも三割打てば好打者ですよ。学問の世界でも、ときどきヒットを打てばいいんじゃないかと思う。ヨーロッパでは自然科学者でも、たとえばダーウインなんかでも、相当すかたんをいうわけです。日本では、これまで出来上がったものを取り入れたり、人に知らせたりすることに傾いていたので、間違いに対してひどく点が厳しいわけです。一、二割の失敗でも大失敗にされてしまう。欧米ではロスをたくさんやっている。これからは日本の学問するやつも、すかたんに馴れないといかんですよ。半分ぐらいは当然と思うね。

小松 しかし、哲学者が体重八十キロを超したというんで、昔、梅原さんと上山さんが話題になったけど、上山さんはようウロウロ歩き回る。(笑い)。

上山 やることが詰まってくると、歩く以外にないんです。僕は転換期はとくにそうだと思う。室町から江戸初期にかけて、よく歩くでしょう。あのときに公家だけの世界から庶民とか武家に開けてきますね。非常に面白い時代です。遊行人上人なんか、文字通り遊行ですわ。

小松 一遍、空也、行基もよう歩いてますね。弘法大師も歩いているし。

上山 親鸞も歩いている。空海の場合、歩くことから始まっています。都の大

学にいた後、十八歳から唐に行くまでの行方不明の間に、ずいぶん山を歩いてますね。四国の石槌とか室戸など。三教指帰。みたらはつきり書いておる。彼にも今西さんの千山みたいな単純な目標があるんです。虚空蔵菩薩の陀羅尼を百万遍唱えることなんだが、それを早朝、人気の無い場所でやらねばならない。結局それが、空海が密教をつかむきっかけになっている。『三教指帰』は、彼が二十四歳のときに書いたものですが、内容は素晴らしい。だから二十歳ぐらいで、かなりの線を行っているわけ。下手に、当時のインテリ風に固定してしまつたら、彼の伯父がそうであつたように、せいぜい皇太子の家庭教師どまりのはずです。それが歩き出して遂に唐にまで行った。歩くことから密教をつかんだんですね。彼があとで突破口を開かなかつたら、日本仏教というのは永久に、おもしろい物で終わつたかもしれない。

文明もついで

小松 僕は海外旅行が簡単に出来るようになってからは、変な所ばかり行くんだけど、その理由は実に単純で、要するに一種の職業的な負目ですね。SFやっているから、どうせ地球や何や書くわけです。ま、日本のかわいいは知っていますが、砂漠はどうだろう、南極はどう

いうものか見とかんといかんと思うわけ。しかし、行ってみて感心するのは、本当に地球というのは、どんな厳しい所にも生きものはいるし、人間は住んでいるし、日本人もどこにもいる。変な所やなと思う。そして実際に行ってみると、どんな国でも抽象論では片付けられなくなる。

上山 国というのは、ひどくアティフイシャルでしょう。

小松 そう、日本なんか自然国界があるようなものですが、線一本引いて国境やというところがある。あれは不思議な話やな。日本は、山でうまいこと六十四州に分かれているけど、ヨーロッパに行くくと、ラインとかエルベとか、セースとか、境界が何とはなしに河筋ですね。河向こうのやつはこうこうだ。一べんに押し寄せて来たら、ここまで来よるとか、そういう感じですよ。それでヨーロッパ歩いてて思ったんですが、中国で天下を四国、九州に分ける思想……、四国はバビロンあたりの方術が入って東西南北に分けたんだらうが、九州というのは、天下に十大河川があつて、その間の土地が州であつて、少しずつ異なつた地域と考えたんじゃなからうか。こうした妄想は歩いてると何ぼでも出てくるけど、コンファームするのに手間がかかってしょうがない。日本の四国は最初から四面でいいんですけれども、九州は無理に筑前、筑後と分けて九つにしますね。

上山 万事お隣りによる。南北朝もそうだし、何もかもモデルはあちらにある。明治までは中国モデル、最近はヨーロッパ・モデルでやってきたけれど、これからはモデル無しですな。

小松 できないとめたらいいかよう判らん。しかし、島国ですから、逆にあまりよく孤立する気なら、いくらでも孤立できる。

上山 日本という国は、どちらかという世界の文明国の系譜じゃないですね。野蛮国、周辺民族の系譜です。その周辺のやつが、近頃意外に周辺のじゃなくなってきた。だから非常にパラドキシカルな存在だ。ヨーロッパのブルターニュとかフィン、バスク、ロシアのシベリア原住民諸族、それから中国周辺の満州族や南方諸民族など、そういう連中ともともと似ている。それが島という城塞にこもって、あちらの中央族の病気がうつって、むしろ周囲に迷惑を掛けるような、変な存在になった。

小松 マイクロシヴィライゼーションみたいなになって。これは文明もどきじゃないですか、大文明ではないだろう。

上山 終始もどきです。だからもどきを徹底して、周辺民族の問題をもっと考えなければ……。南北問題というところえかたは、ちよつと単純すぎますよ。あれは熱帯のやつを温帯のやつが植民地にしたという、ヨーロッパ的なイメージ

でしょう。そうじゃない。文明のセンターが周囲を押さえているんです。そこで現在問題が起こっている。シベリアあたりにも潜在的な要素はいくらでもあるし、アメリカにはインデアン問題がある。同じような問題は、ヨーロッパにも、中国にも、インドにもあるはずだ。

小松 アメリカは各州がかなり強い権限を持っている。あれは不思議なアイデアですね。たとえば最初、東部が栄えて、その押し付けが駄目になると、南部、西部がゴチャゴチャするとか。その代わり、大統領がエンペラーみたいな強力な権限を持っている。選挙でエンペラーというのも不思議な存在だと思うけど、国が大きいのはあんなものかという感じで。

つまり南北問題というのは、ある時期の世界のいくつかの大センターの息が続かなくなってきた。それで世界がバラバラになって、いろんな国がいっぱい出来たんだ。これが、それぞれ独自に勝手なことをやっても、トータルとしてうまくいけばいいような気がするけど。

上山 アメリカ、ソ連は元来周辺国家ですね。そのゴリ押しが強くなってきた。日本という国には、それを巧みに肩すかしする能力があると思うんですよ。米ソみたいなのに、いじましく、どこかブン取って、そこで強くするんじゃない、もっと地球スケールでいろんな問題を素直にやれる条件はあるように思うんですよ。

がね。

小松 アメリカもソ連も、ああいう形の国家は産業革命のおかげで成立していますから、シベリア鉄道とかユニオン・パシフィックがなかったらつぶれている。いまだつたら航空機かな。

上山 日本も同じだけど、日本が急のしあがってきたのは、情報網、新聞やテレビとか、教育にかなり強く傾斜しているからでしょう。これをずっと展開していくと、産業革命以来のエネルギーの理論とは、また違ったロジックが見つかるのではないか。これは軍備問題にもかわりますよね。ソ連風、アメリカ風の軍事科学を学習するよりも、もっとうまく手が。

小松 それはあると思います。ソ連、アメリカの真似をいまからしようたってむちゃくちゃだ。いまは、むしろそのパワーが双方とも重荷になってるんですから。

上山 爬虫類のてっかくなりすぎたのと同じだ。あるとき哺乳類の先祖はすごくしけた爬虫類で、歴史の主流じゃなかったですね。それが案外、次の新たな局面では発展していく。

小松 人間の制度としてのシステム論と、生身の人間の生き方とは、ある時か

巣立ちと遊歩

ら離れてるんですよ。梅棹忠夫さんは、

文明はシステムで一度方向づけしたら、後は自動的に行くものだが、文化は一人一人の生身の人間が入っているという。彼のいう文明とは、たとえば道を作ったきっちり維持するとか、維持するための制度などです。しかし、その道を歩き回

りながら、ものの哀れを感じたりするのが文明だというわけです。ところでアメリカで行なわれているテンペア（歩き回り）というのはなんですかね。これはサルにもある。群れから放れザルが出て、しばらくウロウロしてから別の群れに入る。考えてみたら日本でも昔、旧制高校の生徒たちが無銭旅行やってた。

上山 伊勢詣りもありますね。

小松 近い動物も含めて、人間の形成のためには放浪になんか意味があるんでしょうね。乳離れとか自我の確立とかいうこと。世界の発見と自我の確立というのは、だいたい、パラに出てくるわけですね。また面白いことに、伝統社会ですと、テンペアをやるのは若衆宿の時代だけなんです。これが文明が進んでくると、老人でもテンペアをやる。つまり、成長段階のすべてを、いつでも、どこでも、好きなときに採用出来るんですよ。

上山 違う世界に入っていくと警戒されますね。怪しまれることによって、一度自分にゆさぶりをかけるんですよ。情報を理解するということは、ある出来

上がった秩序の中に、その情報がはめ絵みたいにはまることです。その秩序の枠をがたがたにすると、次にそれが安定したときには、枠が一段と大きくなる。生きている間はそれの繰り返すんですよ。

小松 さっきのように、日本は情報に傾斜が激しい。結構なことですが、またそれは、人間がどのくらいの量の情報に耐え得るかの問題でもありますね。僕は大学に入ったとき、講座数と図書館の本の数の多さに、一種の情報パニックを起こして、登校拒否症になりましたよ。そのため最後の一年間は留年した。

上山 僕は高校の二年のときに同じような症状をおこして留年した(笑)。

小松 あるとき、こうウロチョロしてもしかたがない。一生掛けてもいいからひと山登ろうと思って、自分でコツコツやって小さな知識の山を登ってみた。山に登ると、ほかの高い山というのがぼっかり見えてくるでしょう。達成感もあるし、単に登らないで累積し重ねてきたのと違って、こんどは洞察がきいてくるんですよ。

上山 上に登ると下が小さく見えてくるから数も減ってくるし……。デカルトの場合は、中世のスコラが溜め込んだ、動きが取れないほどの大量の情報を捨てよった。例のコギト・エルゴ・スムからはじめて、着実に整理していったわけですね。

秋のひびき

服部克久

国際交流研究部会／作・編曲家

「秋の日のヴィオロンの音、ひたぶるに、うらがなし……」等と、詩にもうたわれている様に、どうやら秋と音楽は深い関係があるらしい。

ものみな、あわれをおぼえる季節ともなれば、普段、音楽と無関係な人もふと歌など口ずさみたくなるのだろうか。

実際、音楽を演奏する側にとっても、秋はかんげいすべきシーズンで、温度・湿度その他が、身体に良い影響を与えるのもさる事ながら、楽器にも非常に良い結果をもたらす。弦楽器、特にヴァイオリンにとって、湿気はなによりも禁物で、ジメジメした梅雨時は、板をはりつけている、にかわが溶けて来て、はがれる事すらある。

名器、ストラディバリや、ガルネリ等のオーナーは、保管に、細心の注意を払う訳だが、何とんでもあのヨーロッパの乾燥した空気の元で育ったヴァイオリンにとって、どうも日本の気候は苦手らしく、普段あまりパツとしない演奏家が、むこうへ行つて、コンサートを開いたら、とても自分の楽器とは、思えない程すばらしい音がした等という話を良くきくが、これもみなすべて、湿度との関係にあると思われる。

同じ弦楽器の三味線や、ことも、湿気の少ない秋には、良い音がすると思われるが、つづみや大川等、和打楽器は、演奏をする前に、電熱器で、皮の部分を三十分程あたためているのを良く見かけるが、それもみな、湿気を取

り除いて、より澄んだ音を出そうとしているのであろう。

まあ、良い音楽を聞いたり、おいしい物を食べるのは、秋の楽しみの一つであるが、我々、作家にとっては、なんともうらめしい秋で、コンサートや、ディナー・ショウが、目白押し、10月から、暮までは、ほとんど、ぬるひまもないという有様である。

そういえば、ここ何年か、栗拾いとか、紅葉狩りとか、行ったこともないな。

ああいった大掃除がときどき必要ですね。哲学には本来、そういう役割があるはずなんだ。

小松 ただ、再整理された、上澄みばかり教えていたらあかんやろな。煩しいことだが、哲学がその人間の精神にとつて一回一回のことだけに、やはり、山の周辺を道に迷いながら歩いてもらわんと。そうすると先哲のやったことが、どんなに役立つことかとよく判ると思うんです。

上山 日本では哲学という学問になじみがなかったでしょう。ヨーロッパでは子供のときからラテン語とかギリシヤ語暗記していて、それに哲学者がたくさん

出てくる。日本は江戸時代まで無かったのを、明治から百年ほどやって、やっと現在あるやり方、ノウハウをつかんだ。

手本だけは何か入っていたと思うんですが、それが本当に使われていたかどうか判らない。実際に機能するには、やはり情報過剰の意識が高まって、切実な必要性が出てこないとダメなのではないか。

小松 それをやってみて、自分でひと山登ってみたら、そのときに、山々を整理してきてくれた先人がどんなに有難いかというか、偉い人だったということがよく判る。

上山 ヨーロッパの先人たちはものす

ごい雑学してるわ。カントの『人間学』なんかを見ると実にすごい。ヘーゲルでも哲学史のあのデータ……。中国、インドからあれだけのデータを集めて、それを実に単純な秩序におさめて、整理してみせている。ところがノウハウだけやると、その人のやったものは読むが、その人がやったことはやらない。やはり現代の秩序の中で自分が実際に振り回されないと、単純化の要求は出てこない。現代は、生きもの全体の歴史でみても、ものすごい新しい場面につかっているわけでしょう。

小松 そういう意味では、知識の間の

散歩も、逆に生のほうの散歩、遊歩です。これも必要ということでしょうね。とくにこうした情報氾濫の時代には、いろいろなノウハウや情報収集のテクノロジーについてのガイダンスはいっぱいあるけれど、この大量の情報、一人一人の人間にとって、実存にとって、どういう意味なんやということ、まさに一種のテンペアによって、つかんでいるわけですね。

でですね。

最近の石油事情

日本エネルギー経済研究所研究部長／茅誠司部会

富舘孝夫

●「石油ダブツキ」——ほんと、うそ、どうして

ナオコ◆石油がだぶついちゃって、石油危機に大騒ぎしたのがウソみたい。新聞を読むとOPECのほう石油が売れなくてあわてている。そうなってみると、ちよっぴりOPECがかわいそうな気がするわネー。

しんご◆消費国にとってはメルヘンだナ—といたいところだが、ほんとうはダブツキがあるなぞウソですぞ。

ナオコ◆エッ、どうということ、それ。

しんご◆先生の調べたところによれば、だ、ただいま現在の石油の需給関係は、ダブツキどころか、供給不足になっている。むずかしくなるけどよきけよ。まず、需要のほうは共産圏を除く世界全体で一億四千万バレル、四千五百五十万バレル。これに対して供給のほうはOPECの原油生産が約二千万、非OPECの生産が二千五十万、共産圏からの輸入が百万、合計で、約四千三百五十万バレル。ということは差引き百五十—二百万バレルの不足になる。

ナオコ◆へー、ほんとなの。一日二百万バレル以上のダブツキがあるという話とはまるで逆じゃない。そういえば、五月の定期総会でOPECが減産を申し合わせたときいたけど、その効果があらわれたというわけね。

しんご◆うんうん。でもちよっぴちが

うね。五月のときは、OPEC十三カ国

のうち、サウジアラビアと、戦争で極端に生産の落ちているイラン・イラクを除いた十カ国が最低一〇%の減産をしてダブツキを少なくするということがあった。しかし、実際は、値段を高く上げすぎたアフリカ産油国を中心に二五%も減産し

●「余分な在庫」——冷蔵庫も店の倉庫も一杯

しんご◆さえてますネー、今日は。いいとこついでくる。去年までは第二次石油ショックやらイラン・イラク戦争やらの、石油会社も消費者も石油をうんと貯め込んだのね。ところが、原油価格があまり高くなりすぎたので、消費量がどんどん落ちてしまった。今年に入ると、原油の貯蔵タンクは満杯、タンカーをのろのろ走らせて洋上備蓄までするようなダブダブの状態になったんだ。それに、当面、原油価格も落ち着いて、急には上がりそうもない。

ナオコ◆消費者も余分に貯め込んだ油を少しずつ使いだした。石油会社はその分だけ売り上げが下がるっていうわけね。

しんご◆そうなんです、のってますネー。そこで石油会社は高い原油を買うのをやめ、余分な在庫を放出しはじめた。

ている。というのは、減産したくてそこまでやっているのではなくて、売れないので追い込まれたんだ。

ナオコ◆それでOPECがあわてだした。

しんご◆真つ青になってナイジェリアのように値段を下げた国もある。

ナオコ◆でも、先生のいうように生産が不足しているなら、どうして安売りなんかするのかしら。

今年の三月は、世界の石油会社のもつていた余分な在庫は史上最高の六億バレルもあつたんだ。それが六月には五億バレルを下回るまで減ってきた。九月末には一億バレル強になったと推定される。ふつうは春から夏にかけては在庫の増殖し期なのに今年逆だった。なにしろ余分な在庫をかかえるのは金がかかるからね。とくに金利の高いアメリカではきついわけさ。

ナオコ◆つまり、余分な在庫があつて、それを処分しているかぎり、産油国は原油が売れないし、石油ダブツキが続くんでしょ。メーカーが生産を少なくしても、スーパーの倉庫や、家庭の冷蔵庫に食品が余分につまってるのと同じってことよネー。

しんご◆驚きました、その通りです。



提供共同

ナオコ◆ところで先生。九月からサウジアラビアが一日百万バレルの減産をやったでしょう。あれ、どういうことですか。

しんご◆それはね、八月の臨時石油相会議で価格統一に失敗したのは知ってますね。高値派が値下げし、サウジが少し値上げして統一しようとしたんだが、結局まとまらなかった。その結果、安売りして生産の回復をはかる仲間も出てきた。このままだと、乱売合戦になって、サウ

ジの原油も売れ残ってしまう心配がある。そんな状態になるより、高値強硬派の要求をある程度入れて減産をして、念願の価格統一というのをきかせようというのがサウジのねらいだと思うよ。

ナオコ◆でも、サウジが減産したら、ほんとうの石油不足にならないの。しんご◆急には心配ないといえますよ。なぜなら、ほかの産油国が減産から回復できるからね。なにしろ、今年はじめの半分しか生産していない国がいくつもある

んだ。しかし、これから冬に向かって季節的な需要期へ入るので、百万バレル以上も消費が増加する。もし高値派の多くが値下げしないで売れなくてもガンバルと、少し面倒になるけど、そのときはサウジもまた増産にもどるだろうね。結局、ダブツキは少しづつ引き締る方へ変わっていつ、年末には余分な在庫はなくなる公算が大きいと思うよ。

ナオコ◆すると来年はまた……。しんご◆そう。来年は世界景気も回復に向かうというし、石油需給もバランス



●「省石油・脱石油」——当分はスピード落ちる

しんご◆もちろん、そうだけれども、これがなかなかむずかしい問題なんだ。たしかに、去年は省石油、脱石油が先進工業国では進んだといえる。しかし、発展途上国では石油消費は相変わらず五%近くも伸びている。先進工業国の場合も、石油消費は八%近く減ったけれども、石炭や原子力など代替エネルギーへの転換は四割程度で、残り六割は景気の低滞や高価格の効果が大部分を占めているとみていいんだ。

ナオコ◆石油節約の四割が代替エネルギーへの転換なら、すごいスピードね。

しんご◆そうだよ。だがね、たいていは簡単に転換できるところでものすごくあったんだ。たとえば日本の鉄鋼やセメント産業ね。もうほとんど全部石炭へ転換

して、原油価格はまたゆるやかに上昇し始める時期になるだろうね。できるだけ低い水準で価格を統一して、そこそこの需給バランスを保ちながら、市場の動きに合わせて無理のない値上げをして行く、というのがサウジアラビアの主張する長期戦略だ。それが採用される条件ができれば、消費国で脱石油をもっとやれば、そんなうまいぐあいにいいんじゃないかしら。

しんご◆来年からはあまりできるところがない。石炭発電所など時間がかかるわけだね。そのほかの代替エネルギーは、世界的に計画がむしろ遅れがち。

ナオコ◆省エネはどうなの。

しんご◆かなり進んだけど、第一段階が一段落というところ。これからは、技術革新や大規模な投資が必要で、これもやはり時間がかかりそう。それに、今年来年と原油価格が落ちていて、実質価値は下がっている。省石油・脱石油のテンポはこれからしばらくスピードダウンしそうだよ。

ナオコ◆石油、エネルギー情勢はまだまだきびしいのね。中東もあちこちキナ臭いし。日本人は楽観しすぎていて、ことかしら。

政策の方向

日本の原子力

特別対談

●最終的には太陽エネルギーの活用

笠井 本日は、向坊先生が原子力委員

会の委員長代理というわが国原子力政策の最高責任の地位につかれましたので、今後の政策について、どのようにお考えになっておられるかを伺いたいと思います。

向坊 委員長代理となっていますが、これは原子力政策の責任者ではありません。ご承知のように、委員会は合議制です。すめられるもので、その結果、一致したものを委員会として打ち出しますから、委員長代理はそのまとめ役だということ、を、まず申し上げておきます。それに、委員長代理という辞令もないので、第一回会合のときに委員長である大臣から私が指名されたということです。

笠井 そういうお立場であることは十分に承知しておりますが、原子力政策について、どのようにお考えになっていま

すか。

向坊 自分なりに考えていることをいいますと、人類は非常に長期でとらえる、結局は太陽エネルギーに頼るようになると思います。いま、人類が使っているエネルギーをすべて合わせても、地球に注いでいる太陽エネルギーの一万分の一にすぎません。この太陽エネルギーを少しでも多く使う工夫ができれば、他のエネルギーはなくても人類は困らない。しかし、理論上はそうなのですが、実際に太陽エネルギーを大量に、しかも経済的に使うようにすることは非常にむずかしいわけですね。そういう時代は、まだ、いつとはいえないほど遠いことなのです。

笠井 超長期のことですね。

向坊 ですから、はるかに遠い時期に、人類が太陽エネルギーを使うようになるまでの間をどうするかが、われわれの課

向坊 隆

21世紀フォーラム発起人
原子力委員会委員長代理
前東京大学総長

笠井章弘

21世紀フォーラム事務局長
政策科学研究所理事

題です。その間は、考えられるあらゆるエネルギーを、努力して使っていかなければならない。その中で原子力というのは、一つの大きな役割を担わざるをえない性格のものだととらえています。そして原子力はいま、既に日本の電力使用の一二パーセントを担うようになってきた。それでも日本全体の消費エネルギーから見ると、原子力はまだまだ小さいとはいえませんが、無視できない規模になってきているということです。

笠井 その電力使用ですが、先進国ではほとんど伸びてきていますね。

向坊 そうですね。いまから六、七年前の国連総会で、二〇〇〇年のエネルギー見通しが出されました。その中でエネルギーでは、電力の使用率がもっとも伸びていく。二〇〇〇年には、全エネルギーの半分ぐらいが電気の形で使われ、電気のうちの五〇パーセントは原子力が担うことになるだろうと報告されました。皮肉なことに、この報告のあと石油シヨ



ツクがあったり、原子力の抱えている多くの問題が出てきたりして、エネルギー消費の伸びも鈍り、各国の原子力開発の計画も小さくなってきています。いままでは、二〇〇〇年に原子力が電気の半分を担うと考えている国はほとんどない。

向坊 ソ連もそうかもしれないが、特定の国を除くと、そこまではないかと考えるようになっていきます。したがって、二〇〇〇年に原子力がどのくらいの役割を担うかは、簡単にはいえない。

笠井 フランスぐらいでしょう、ある

笠井 それはどうということでしょうか。

●国民がえらぶ原子力政策の方向

向坊 私は、それを決めるのは国民の選択だと思っています。選択という意味は、

すべての国民が原子力を完全に理解し、正確にどのくらい担うべきかを決めること

いうことはできませんし、そういう意味ではない。これからもエネルギーをどんどん使っていくのか、それとも、エネルギーをできるだけ使わないで済むようにしていくか、この二つの大きな選択があるということですよ。

笠井 エネルギーを使わないでも、幸福な生活をしていくというような選択ですね。

向坊 そこなのです。これまでのように、エネルギーをどんどん使っていくような選択を国民がするならば、原子力の担うパーセントは非常に大きくなります。しかし、国民がこれまでを反省し、今後はエネルギーや資源をできるだけ使わないような生活の中で、より幸福な生活を求めるという選択をするならば、原子力の担わねばならぬ割合はずっと少なくなるわけです。そこに、国民の重大な選択があるのであって、これからはエネルギーはどんどん使う、そのエネルギーの供給をどうするかは知らない、では

●太陽エネルギーまでつなぐ有力手段

笠井 さきほど、最終的には太陽エネルギーに頼るということでしたが、同じようなことで先進国では、核融合炉ができるまでの間をなにかでつなげようとしていますね。そこで石油の代替エネルギー開発を、エネルギー政策の最大目標としています。これは国の資源保存量によって違いますが、日本は資源があまり

まなくなりますね。

笠井 これは非常に重要な指摘です。一方、産業が使うエネルギーも相当な割合を占めています。日本は資源を輸入して加工し、それを輸出して成り立つという貿易立国なわけですが、そのような産業構造もふまえて、どのようにお考えですか。

向坊 日本は工業国の中でも特殊で、日本ほどエネルギー消費の中で産業の割合合いが大きい国はありません。六五パーセントぐらいを占めています。そうしたことがいつまでつづけられるかということでしょう。民生の方は、節約といってもむずかしい。むしろ、使用量は伸びている。いままでの省エネでは成果を上げた産業側も、次第にエネルギーの節約はむずかしくなっています。節約には限界があるわけで、そうすると、いままでの延長線上で、ものごとを考えていくということでは、できなくなると思いますが。

んから、私は以前に野球にたとえて、代替エネルギー開発の必要性を提示しました。それは、石炭から石油への転換は、主戦投手からリリーフ投手へ一対一で代わった。こんどの代替エネルギーは、石油に代わる本格的なリリーフ投手のいない状況である。つまり、十人ぐらいのリリーフ投手を並べてやろうというような



もので、その一番手が高校野球クラスのリリース投手で原子力。ついて中学野球クラスが石炭で、LNGは少年野球クラスといういい方をしました。原子力は、過渡期の本命としたわけです。その原子力の中でも、高速増殖炉と核融合炉を先進国ではターゲットとしています。これはどうお考えですか。

向坊 太陽エネルギーまでをつなぐ間、量的に大きな可能性のあるのは石炭と原子力でしょう。石炭は資源の量からいえば、グローバルにうまく使うとつなぐ

る可能性がります。原子力も、高速増殖炉の実用化に成功すれば可能性はあります。しかし、どちらもこれで大丈夫というところまではまだいっていません。核融合はポテンシャルは大きいですが、まだ誰れも、具体的なことはいえないでしょう。

笠井 政策目標にはならないが、研究目標にはなるということですか。
向坊 長期の問題としては、ともになりえます。原子力でも二十数年前までは軍事利用だけに使われていたものを、平

和利用に使いだしたのですが、大きなポテンシャルが期待されてきました。ところが、現実化し、発電がどんどん行なわれるようになる、いろいろとむずかしい課題が分かってきました。核融合も、

● グローバルな見地が不可欠のとき

笠井 そこで八〇年代から二〇〇〇年にかけて、エネルギー政策ではどのようなことが問題になってくるとお考えですか。

向坊 今世紀中に、相当にむずかしい事態が起こるだろうと思います。それは二つあって、一つは、人間の欲望はどんどん大きくなりますから、いまの方向をつづけていくと、エネルギー使用はますます大きくなり、この需要を抑えるなどの方向が出てこない、供給する側から非常にむずかしい事態を迎えるだろうということ。もう一つは、世界でエネルギーをたくさん使っている国は、日本も含めてほんのひと握りの国です。人口でいえば、世界の四分の三ほどの人たちは、エネルギーをごく僅かしか使っています。そうした国がこれから、生活レベルを向上しようと努力し、先進国もこれを援助していく中で生活レベルが上がっていくと、エネルギーの需要は増えていくわけです。この速さ次第では、原子力や石炭などで努力しても、量的に間に合わない。そこを、どのように考えていくかということですね。

いまは桃色の雲に包まれています。実際に近づいてくると、いろいろと新しい問題が出てくるでしょう。しかしまだまだ、実用的なエネルギー源といえる段階ではありませんね。

笠井 それは重大な点です。こうした問題意識はこれまで出てきませんでしたね。

向坊 しかも、発展途上国に、世界的にエネルギー需給で困ったことになるから、発展のスピードを抑えてほしいとはいえない。それを、どう考えるか。私は太陽エネルギーの利用に期待したいと思うのです。発展途上国は太陽が非常に強く、砂漠の国もあるわけで、その太陽エネルギーを活用していく速さというもの、発展途上国の発展の速さと関係してくるのではないかと思います。私のいう太陽エネルギーは、直接に太陽エネルギーを使うことから、たとえば、ブラジルなどで植物を育て、アルコールをとって、化学工業の原料にもするし、エネルギーの原料ともするというような幅広い考え方です。そうした可能性があって、量的にも大きな希望がもてるわけです。

笠井 ポテンシャルがありますね。

向坊 このように発展途上国まで含めた世界のエネルギー政策を考えるとき、太陽エネルギーは超長期の問題ではなくて、相当に早くやれると思いますね。

笠井 いまからスタートしても遅すぎるくらいでしょう。

向坊 先進国は自らのためにも、グロ

●もつと発展途上国に役立つ方向を

笠井 そこで心配なことが一つあるんです。石油ショック以降、先進国のエネルギー政策をみていると、自国のエネルギー問題を解決するのに汲々としていて、グローバルなポリシーに対してはスローダウンしてきているからです。アメリカは二ヶタのインフレで高金利ですし、失業者も多い。イギリス、フランスも苦しい。西ドイツさえ、赤字を出しました。先進国では日本を除くと、経済的にみ余裕がない。つまり、グローバル・ポリシーを推進しにくい事態になっていることなのです。

向坊 たしかにそうですが、やらねばいかんです。国連で再生可能なエネルギーについての国際会議が、ナイロビで開かれていますね。日本からは大来さんが代表でいっていますが、あそこで出てくる議論が取り上げられるかどうかという事です。つまり、そこでは発展途上国の意見が強い。それを先進国が取り上げるわけにはいかないという態度になるか、グローバルな見地から取り上げるか、大きな問題です。

笠井 踏み絵かもしれませんね。

向坊 なかなか取り上げる方向にはいかないでしょうが、私は取り上げるべき

ーバルな見地からも、発展途上国に対して大きな努力を傾注すべきです。

笠井 もう一つの問題は、発展途上国だと思っています。それは、発展途上国のためだけではなくて、何年かの中には先進国にハネ返ってくることもなからです。日本としても、石油の将来を見越し、石油対策に力を注ぐことは当然だが、長い目でみれば発展途上国の意見を取り上げていかなないと困ることになります。

向坊 原子力がいいですよ、これをやりたいとする発展途上国がいくつもある

●説得力ある代案を示すこと

笠井 もう一つの問題は、発展途上国だと思っています。それは、発展途上国のためだけではなくて、何年かの中には先進国にハネ返ってくることもなからです。日本としても、石油の将来を見越し、石油対策に力を注ぐことは当然だが、長い目でみれば発展途上国の意見を取り上げていかなないと困ることになります。

向坊 原子力がいいですよ、これをやりたいとする発展途上国がいくつもある

笠井 まさに、そのとおりです。逆にいえば、日本は核不拡散にも部分核実験停止にも賛成していますし、原子力も平和利用だけをしている国ですからイニシアティブをとるべきですね。ただ、むずかしいのは、発展途上国からみれば核不拡散も部分核実験停止も、あれは技術的植民地主義ではないか、といっていることですね。また、核不拡散条約には、中国やフランスが参加していないではないか。参加しているても条約を破っている国があるんじゃないか。部分核実験停止も、叩き台をつくったアメリカ、ソ連、イギリスが平気で実験をしているんじゃないかといっています。イスラエルの原子炉施設攻撃に象徴されるように、条約はあっても有名無実化してきている。国際情勢が

このように変わってくると、日本としても平和利用の条件も変わってきているのではないかという気がします。そこには、新しい国際的な核秩序の変動の中で、日本のように平和利用の国だけがいえるやり方があるという、原子力の新しい平和利用のあり方をイニシアティブをとってつくっていくべきだと思えます。

向坊 たしかにそうですが、やらねばいかんです。国連で再生可能なエネルギーについての国際会議が、ナイロビで開かれていますね。日本からは大来さんが代表でいっていますが、あそこで出てくる議論が取り上げられるかどうかという事です。つまり、そこでは発展途上国の意見が強い。それを先進国が取り上げるわけにはいかないという態度になるか、グローバルな見地から取り上げるか、大きな問題です。

向坊 しかし、発展途上国にはまだ力がないんです。グローバルな長期的戦略をたてる力もないし、たてても実行する力がない。それをやるのは先進国だと思います。日本としても、進んでいる科学技術を日本自身のエネルギー問題のた

めに動員することは絶対に必要ですが、それだけではすまない。日本の科学技術力をグローバルな見地から、発展途上国のことも考えて、将来のために動員するのではないといけません。

向坊 それでも、核不拡散防止を強く主張すると同時に、それに代わるものを示すことです。まず、核兵器保有国が核兵器をやめる方向に動くことなしに、核不拡散だけを主張するのは説得力がない。また、エネルギー供給に関して、核不拡散に協力してもらおう代わりに、あなたの国のエネルギー問題についてこのように協力できますというものが提示されない

と説得力がない。

笠井 たしかに、それは重要です。

向坊 何年か前に国連の環境会議がありました。私は国連の発展途上国援助の常任諮問委員をしていました、これは昨年十二月に十年間務めましたので辞めましたけれど、その委員会が環境会議に対して発展途上国の立場から報告書を出したんです。ところが、これは先進国の気に入らないものだったので無視され、日本の新聞でも、どこも取り上げませんでした。

笠井 どのような内容ののですか。

向坊 日本では想像できないような議論を、発展途上国が中心になってやっています。それは、発展途上国にとって環境をよくするということは、貧乏を克服することにほかならない。あらゆる環境を悪化する条件は、貧乏からきているということが基本になっていました。これを先進国が理解しないことには、発展途上国の環境問題はわかりません。

笠井 具体的にいうと、どういうことですか。

向坊 たとえば、先進国はDDTを発売しましたね。このDDTで虫を殺し、環境をよくした。そうしておいて、DDTは害があるから使ってはいけないことになったわけです。これは発展途上国にとって、たいへんなことなのです。DDTが手に入らず、DDTを使わないために害虫が増えて、人間が害を受けます。それはDDTが人間に与える害よりも、は

るかに大きい。ですから、先進国がDDTを使うなというなら、それよりも安全で殺虫効果のある安いクスリを提示してほしい。それなら納得する。こうした議論でした。これと似たことが、原子力の利用と核不拡散についても思いま

す。原子力の平和利用に徹している日本は、勿論、核不拡散には賛成なばかりでなく、実際にそのための協力もしており、他国に核不拡散を説く資格がある。ところが、その日本の原子力平和利用に対して、核不拡散の立場から制限を加えようとする強い圧力がかかっているのですから、国際関係というのは難しいものです。

笠井 なるほど。私も第一回の国際環境会議があったとき、日本政府の報告書は一つも採択されませんでした。私たちがつくった世界エネルギー会議の報告書は採択されました。これは環境問題を起こしたエネルギー産業が、自らを反省した最初の報告書であったからです。つまり、電力、ガスなどを民営でやっている国はもちろん、国営でやっている国もすべて、国のエネルギー政策がこのようにやってきたから問題が起きている。それを、このように改善すべきだと現実のことを土台としてつくりましたから説得力があり、採択されたのです。先生のお話のように、発展途上国の問題は、先進国が相手の立場で考えないといけませんね。それを先進国は絶対にいわないところに、問題の本質を逃げているといえます。

●先進国は生活レベルを抑える時代

笠井 さきほども出しましたが、ここで問題となるのはアメリカの態度です。ソ連の脅威ということから自由主義諸国の団結を呼びかけ、防衛問題を中核としながら、リンケイジ・ポリシーいろいろなことをレーガン政権がいい出しています。アメリカが、こうしたリーダーシップを発揮しようとしているとき、果たしてグローバルな立場でやっていくでしょうか。オタワ・サミットでも、レーガンは、南北サミットの開催にはじめは消極的でした。それを日本とヨーロッパが協力して、メキシコでやるようには認めさせました。アメリカの発展途上国政策をどうやらにようになりますか。

向坊 レーガンさんがなにを考えているかはよくわかりませんが、アメリカが強くなるのが世界のために大事だという発想に立って、アメリカを強くすることと頭がいっぱいなんだろうと思います。しかし、それだけですむかという疑問だといわざるをえませんね。

笠井 私もそこを心配しているのです。西ドイツの雑誌で「シュピーゲル」が世論調査をしていまして、それによると、発展途上国援助を切るべきだという意見が六八パーセントでした。フランスのミッテラン政府も社会主義政権なのに、発展途上国に対してきびしい態度をみせています。アメリカ以外の先進国でも、経

済的に困っているからで、いま発展途上国に対して新しいグローバル・ポリシーをつくらないといけない時期に、経済的にみると非常にやりにくいし、政治的にも選択しにくい状況にあるわけです。そのへの国際的な混乱が、中東問題を含めてつづいていきそうな悪い予感もあります。私は南北サミットが、やっととはじまることを機会に、これは最初は成功しないでしょうけれど、つづけていく努力の中でグローバルな立場からの意見が出てくるのではないかと。出てくるかどうかにかかっていると思っておりますが、いかがですか。

向坊 発展途上国の問題は非常にむずかしいんです。おそらく、先進国の根本的な考え方には、発展途上国で人口が増えていくことが、世界での困った問題ということでしょう。ところが、発展途上国の方からいうと、生活レベルを上げると人口の増加率は下がるのだから、生活レベルを上げるのが先だという考え方が。これは先進国ではなかなか受け入れられません。そこに、むずかしい問題があるわけで、発展途上国が生活レベルを上げていく過程で人口増加の方が速くなる、世界中が困る時代となるか。逆に、うまくいってバランスのとれた状態となるかということです。

笠井 そこに時間が入ってくるわけで

すね。どのくらいの時間で、どの段階までいくかというのですが、やはり、先進国の援助がポイントになってくるでしょう。それが、むずかしくなってきたり。

向坊 ですから、いまお話ししたようなこれからの世界のバランスのとれた発展ということを考えると、先進国は、生活水準を下げなければならない事態がくるかも知れませんね。

笠井 先生がはじめにおっしゃったように、エネルギーをこれまでのように使わなくても、幸福になるような道を本気で考えないといけなくなるということですね。

向坊 そうです。かつては、国が生活水準を下げなくてはならない事態がくると、戦争するといわれてました。これからは、生活水準を下げなければならなくなったときのことについても、考え方を変えないといけません。

笠井 GNPやエネルギーの使用量などが、生活水準を示す指標だけではなくて、幸福の指摘みたいのが入ってこない……。

向坊 まず、ものの考え方を変えないと、そこまではないんですね。これは非常にむずかしい先進国の課題であり、人類の課題だと思います。ただ、発展途上国でも最近反省が出てきました。これまででは発展途上国のために、先進国が援助すべきだという意見ばかりでしたが、援助を求めるだけではないですね。自分た

ちも自立を考えるべきだ。自立のための援助をもらう方向をとらないといけないという反省です。もう一つは、発展とはなにかということですね。それはアメリカに近づくことか。それでよいのか。もう少し違う方向の発展があるのではないかとこの二つの重大な反省が出てきています。

笠井 それは私も「二十一世紀の日本」で書いたんですが、早く書きすぎたかも知れません。そこでは、社会主義国ではソ連ないしは中国をモデルとして発展しようとした国が、中国になりたくない、ソ連になりたくないという国が出てきている。チェコもかつてはそうでしたし、こんどのポーランドなど、まさにそうです。社会主義国でも、あるレベルに達すると、中国もソ連もモデルでなくなってくるって書いてたんです。いま、発展途上国でもアメリカがモデルでなくなっているということですが、発展ということのコンセプトを再検討しようという時代になってきたと思いますね。

向坊 残念なことは、そうした反省が発展途上国で出てきているのに、国連などでは発展途上国の代表がそうした議論をするかといえば、しないわけですね。それは発展途上国の問題と同時に、先進国の問題であると考えているのですがね。

●原子力政策は社会のコンセンサスで

笠井 ところで時間もなくなりましたので、話を日本の原子力に戻したいのですが、八〇年代から九〇年代にかけて、まず、やらなければいけないことはなにかと考えておられますか。さきにいわせていただきますと、核燃料サイクルと軽水炉技術の成熟度を上げることだと考えるのです。軽水炉では、安全性の問題、保安体制のソフトシステム、行政体制まで含めてのことです。そして、社会に原子力発電所を定着させるための努力と、いまある原子力発電所の技術的な成熟度を高めることではないでしょうか。

向坊 別のいい方をすると、軽水炉を定着させるということですね。これは国でも民間でも、実際に相当な努力が行なわれていきますし、現実に進んでいる方向です。核燃料サイクルについては、一〇〇パーセントとはいわないまでも、日本がある程度の自立的な体制を整えることは重要だと思えます。原子炉に限らず科学技術なり産業がある規模に達すると、社会や環境に対する影響が大きくなりますから、科学技術だけの問題でなくなりません。科学技術以外の問題を考えないと解決しなくなるんで、原子力もそうした時代に入ってきたと思います。したがって、反対する人がいることは事実です。その場合、反対を説得する努力も必要ですが、もっと肝腎なのは、なぜ反対して

いるか、それをよく考えることです。その原因を除かないと、反対はなくなるらない。もっとも、いろいろな反対がありますから簡単にはいきませんけれどもね。

笠井 いろんなファクターがありますからね。とくに原子力は、新幹線や高速道路などの反対と違って、反対する人が目で見ることができませんから、さらにむずかしい。いまの総論賛成、各論反対という風潮の中で、巨大科学を社会がアクセプトする場合に大きく出てくる問題です。原子力はその象徴でしょう。ですから、巨大科学が社会に定着するまでの間の問題は、現代社会の発展から出てくる問題と、どこでどのようにコンセンサスを確立していくか。これをやらないと、原子力の問題はうまくいきませんね。

向坊 しかし、答えなければいけない課題があるわけで、それに答える努力はしなければならぬ。それも、理屈だけではなしに、問題の対象が、物だけでなく人間の集団であるということをおまえて解決していかないと行けませんね。

笠井 そのとおりです。ぜひ、先生にこれからご努力をお願いします。期待させていたいただきたいと思えます。ありがとうございました。

エネルギーモデル

問題点と今後の方向

相変わらず流動的なエネルギー情勢の中でエネルギーモデルの重要性はますます増しているように思われる。ここではそうしたエネルギーモデルの作成目的とは何か、どんな種類があるのか、またその問題点はどこにあるのか、今後の発展方向等について紹介したい。

モデルの作成目的

現在種々のエネルギーモデルが作られているが、エネルギーモデルの作成目的と言っても一般的なモデルの作成目的とそう違うものではない。故にまずモデル一般の作成目的から述べてみたい。

一般にモデルの作成目的は現象のよりよい理解のためである。それではモデル以外のアプローチとモデルによるアプローチの差はどこにあるのかというのが当然の疑問となるが、モデルによるアプローチの特徴はその斉合性と明晰性にある。一般に錯綜した現象を考察する場合、各要因間の斉合性を保つことは大変難しいが、モデルではその性格上、論理的斉合性を保持しつづけることができる。また、各要因を論理的に位置づけることにより、現象の全体像を容易に提示することができようになる。

一方明晰性と言うのはモデル作成により暗黙の前提条件を明示的なものにし、また諸概念の規定を行なうことである。モデルを作成する場合、そのモデルの対象範囲を限定し、その対象を包みこむ環境と区別するが、このことによりモデル

に与件とされているものが明らかとなる。またモデルにおいては一つの概念は何らかの操作対象となるからその操作の対象物として明確な概念規定が与えられる。往々にしてモデル以外のアプローチではこうした暗黙の了解事項、概念の明晰さが文学的表現の中に埋没してしまうが、モデルではこれが避けられるわけである。

モデルによるアプローチがこうした長所を持つているにもかかわらず、一般にモデルによるアプローチがさほど行われていないのは、現存モデルがあまりにも手法オリエンテッドになっているためであらう。モデルと言うと何か大型計算機を駆使し難しい数学を使うものという固定観念が強いが、モデルは必ずしも定量化される必要もなく、理論モデルを作るだけでも大きなメリットを持っている。

上述のモデルに関する一般論は当然エネルギーモデルにおいてもあてはまっている。エネルギー問題はあまりにもその流動性が高く、時々トビツクに追われるが、それゆえにこそ現象の枠組みを明確にして現象内部にひそむ論理をモデルを用いて、より一貫的に理解していく必要性が高いとも言えるわけである。

モデルの種類

こうしたモデルに対する考え方からすると、現象を理解するためのフレームワークとしてどのような種類のモデルを考慮してもよいと言うことになるが、それで

も過去につくられたエネルギーモデルを参考にして大まかな分類は行なえよう。

まずエネルギーモデルは大きく分けて技術的なモデルと経済的なモデルに分けられる。技術的なモデルとは電力ネットワークのモデルとか、原子炉内反応モデルとか言った純技術的なモデルであり、経済的モデルとは、エネルギー需要モデルとか原油価格モデルとか言ったエネルギーと経済との相互関係を扱うモデルである。以下では経済的なモデルに話題を限定することにしよう。

このエネルギー経済モデルはさらにタイムホライズン（短期、中期、長期、超長期）、作成目的（政策効果の分析、予測、その他）、手法（エコノメトリックス、線型計画法、その他）等によって分類できるが、ここではモデルの対象を基準にして、どういったエネルギー問題がモデルによって扱われているかを紹介したい。

まず多くのモデルが扱っている対象としては、エネルギー需要があげられる。この需要モデルはさらにマクロなエネルギー需要を扱うものとミクロなエネルギー需要を扱うものに分かれ、その各々がエネルギー源をカバーするものと、ある特定エネルギー源をカバーするものとに分かれる。この需要モデルは主としてエコノメトリックスにより作成されている。

(Hudson-Jorgenson モデル等)

一方エネルギーの供給を扱うモデルも多い。この中にはエネルギーの生産量を予測するタイプとエネルギーの供給パタ

ーン乃至輸送パターンを考察するためのモデル (MARKAL等) があげられる。

とくに生産量を予測するモデルは原油が主流であるが、この場合ほとんどのケースで原油価格を同時に予測する形となっている。(Gately model等)

上述の各モデルにおいては経済からエネルギーへのインパクトが主体的に扱われているが、上記以外のモデルタイプとして、エネルギーから経済へのインパクトを主体に考えるタイプのモデルも存在している。例えば石油供給の途絶が経済に与える影響を測定しようというモデル (H.Rowenのモデル等) や、エネルギー価格の上昇が省エネルギー投資に影響して経済成長を規定するタイプのモデル等が存在している。

これら諸モデルはモデルの大きさもまちまちであり、ほんの二三本の式から成るモデルからDRIのモデルのように膨大なモデルまで多様である。ここでは紙数の関係で各モデルの詳細に立ちいることができないが、エネルギー問題にかむ広範な分野 (政治的問題を除く) で

エネルギーモデルは作られていると言える。

問題点と今後の方向

次に、このように多様なエネルギーモデルがかかえている問題点と、今後の発展方向について触れておく。

まずモデルの問題点について述べると第一はデータの整備が十分でないことがあげられる。エネルギー関係の統計とくにエネルギー消費に関する統計は未だその緒についたばかりであり十分な情報となっていない。言うまでもなくデータさえあればどんなモデルでも作成可能であり、我々はデータの制約下でしかモデルを作成することができないが、現在のデータの整備状況では、モデルのヴァリディティチェックが難しいことは否めない。

第二の問題点はモデルが往々にして誤使用され、あるいはモデルの結果が誤読されていることである。逆に言えばモデルバダーのモデル作成の際の目的設定が不十分であったり、モデルバイビアの吟味が不十分であったりするというこ

とになる。

この二つの問題点はモデルそのものに内在する問題点ではないが、今後ともある程度モデルの使用を制約せざるを得ないと思われる。

最後に今後の発展方向についてまとめておく。現在までに様々なモデルが開発されてきており、手法的に画期的なモデルは今後あまり期待できない。一方モデルに対する需要は最近ますます高度なものになっている。

こうしたことから最近経済と技術を組み合わせたモデル (技術経済モデル) が盛んに作られ始めている。この技術経済モデルは、かなり細かい技術情報をモデル化し、この技術モデルをフレームとして経済行動、例えば投資の意思決定をモデル化していくものであり、甚だミクロなアプローチとなっている。

このアプローチはマクロとの適合性などいくつかの難点をかかえてはいるが、エネルギーから経済へのインパクトを考慮するためのモデルとならんで、今後の主要な発展方向を与えていると言える。

IPSレポート

近年のエレクトロニクス技術の著しい発展を背景として、複数のコンピュータを通信網で結合して情報処理に利用するケースが増大している。他方通信の領域においても、大量の質の高い情報送受のプロセスにコンピュータ技術を取り入れた情報処理が必須のものとなっている。

このようにコンピュータ技術とコミュニケーション技術はお互いに結合されることよって、よりよく社会のニーズに添えらるとともに、社会に新しい発展機会をもたらそうとしている。この結合が「コンピュータコミュニケーション」と呼ばれる。コンピュータの進展は一九八

〇年代以降の新しい産業社会体制を支え、発展させる情報インフラストラクチャの形成そのものであると認識されている。わが国が質がよく安価で、しかも強靱な情報インフラストラクチャを持つことができるかどうかは、将来のわが国の国際競争力や国際指導力を左右する問題で

コ	ニ	ヨ	ヘ
ン	ケ	ン	の
ピ	ー	社	備
ユ	シ	会	準

コンピュータとコミュニケーション
両技術の結合

社会的ニーズ

コンピュータは米欧日など複数の先進国に異なった色彩を帯びて登場してきた。

米国における先駆的なニーズは国防と企業経営との両分野に発生した。第二次大戦以降、国防上の意思決定と対応はますますデータの広汎な収集・解析と、それを遅滞なく安定して伝送する通信とに依存するようになってきた。連邦政府は多数の大規模なナショナルプロジェクトを推進してコンピュータシヨンの需要を産みだすとともに、それを支える技術革新を推進した。また、米国の企業群は広大な国土に大量生産・大量消費の産業社会を築きあげ、さらに多国籍化していく過程で経営上の意思決定や消費者の掌握のために、迅速な情報収集・解析・通信連絡を必要とした。歴史的な経緯は省略するが、現在、米国では連邦通信委員会の競争導入政策のもとで通信業界の雄AT&Tと情報処理業界の雄IBMとを核として激しい競争と挑戦が展開され、SBS、ACSなどという数々のコンピュータシオン・システムが産みだされつつある。

欧州諸国は、情報処理部門でのIBMの強大な勢力に強い反発をもっており、これを原動力にコンピュータシオンに関する施策を行なっている。特にフランスは国家主権の確保と安全保障のために、

独自の情報インフラストラクチュアを持つことに精力を集中している。

わが国のコンピュータシオン・ニーズは産業の事務部門に急速に高まりをみせているが、さらに、家庭部門や社会部門にも広いニーズの裾野を持っている。

米国のニーズとの性格的な違いは、高い知的水準をもち好奇心の旺盛な幅広い中間層・中間階級が潜在需要主体となっていることであろう。わが国では、通信回線は電電公社とKDDとによってほぼ独占されている状態であるが、より自由な回線利用を求めて産業界などから強い開放要請がだされている。

技術的可能性

コンピュータの論理回路素子や記憶素子の性能が十年で二桁も向上するというような驚異的なスピードで進歩をとげ、手軽に入手できるマイコンでかなりのことができるようになるなど、情報処理のためのハードウェアのコスト・パフォーマンスは近年急速に向上している。そのため、コストも労力もかかるソフトウェア開発や入力情報の収集・創出を効率化する必要性が極めて大きくなっている。

他方通信の分野では、デジタル交換やパケット交換など情報処理技術をとりこんだ高速・大容量通信技術が実用化され（DDX網など）、また光通信技術や衛星通信技術などの革新が行なわれたために、情報伝送のコスト・パフォーマンスは著しく向上できる見通しがたつた。

コンピュータシオンの進展にとつて残されている研究開発課題の多くは情報入出力端末部分のハードウェアとソフトウェアであるといわれる。今後、一般の人々が直接的にコンピュータシオンの恩恵に与かれるようになるためには人間と機器システムとの応答が楽になる必要がある。人間の精神活動に近い画像・音声・文書などを直接入出力できる端末の開発が重要になってくる。そのためには音声認識・パターン認識・推論などの機能をもつインテリジェント端末の出現も望まれている。

高性能・安価な、情報の処理・伝送・入出力が技術的に可能になってきつつあるため、各種のコンピュータシオン・システムが試験されたり、提案されたりしている。わが国で試験中のものを例示すれば、キャプテン・システム、文字多重放送システム、画像応答システム（VRS）、双方向映像情報システム（HIVIS）などがある。

現在、マスコミを賑わせているオフィス・オートメーションは電子機器システムによって事務所機能の効率化を図ろうとするものである。会議・電話・メール・ファイル・複写・印刷・文書作成・管理支援などの事務所機能が電子機器によって支援されるようになると、距離や時間の制約が一部克服されたり、人々が書類の山から解放されたり、その他様々なメリットが生じると宣伝されている。

ムという構想も提案されている。これは、ホームコンピュータ、コントロール、センサ、端末機器等を通信回線で外部の情報センターや事務所などと結びつけることによって、各種の案内情報の入手、文書・会話の交換、教育・趣味・娯楽活動・家計処理・注文・決済、保健・レクリエーション活動、水道・光熱の制御、防犯・防災、地域活動、ホーム・ビジネスなどが可能になるというものである。

波及効果と影響

情報は一定の意図をもって収集され加工処理されると付加価値を産み出すという意味で資源の一種であるが、使用によつてなくならず多重利用可能であるという点で普通の資源とは異なっている。

コンピュータシヨンの普及によつて、多数のシステムが相互に接続されるようになると、多様な意図をもつ主体が各所から多数のシステムにアクセスできるようになり、いくつかのデータベースの結合やソフトウェアの結合なども行ないうるようになる。そして特定の智慧と意図をもつ利用者に、個々のシステムの当初の設計では考慮外であったような、新規の高い付加価値を生み出す機会が生じる。しかし逆に、属人的情報が情報主体の望まない目的に使われて被害が及ぶといった、プライバシー問題も生じる危険性がある。しかし設計目的外の利用による負の影響を排除しようとして、許容度の低い硬いシステムを作ると、生物体の神経

ネットワークにおけるように、中枢部分が末端部分を支配し、末端部分は中枢部分に依存・寄与する形態でしかシステムに関与できなくなつたりする。

技術的に可能であり、経済的に成立するからというだけで、コンピュータシヨンのシステムを構成できない難しさがこのあたりに潜んでいる。

普及のための問題点

コンピュータシヨンの普及にあつて国際的に熱心な議論が交わされている論点を整理してみると次のとおりである。

- ① 国家主権の確保と情報安全保障
- ② 付加価値の越境フローへの対処
- ③ 情報格差の是正
- ④ 社会機構の脆弱性と安全保障
- ⑤ プライバシーの保護

①は外交や国防などという国家の運命を決する意思決定が確実・迅速に行なえらんと共に、他国に情報が漏洩したり他国から妨害されたりしないようにするにはどうしたらよいかという問題である。油断よりも、他国のデータベースやソフトウェア・プログラム・ストックがいざというときに使えなくなる「情断」の方が恐ろしいと考えられている。

②は多国籍企業や資本グループなどが独自の通信網で情報を国境を越えて流せることによつて、一国の生産が無課税のまま他国に持ち去られる危険性にどう対処するかという問題である。

③は、情報を有効に活用できる立場の

人とそうでない人との間に著しい経済・社会的な格差が生じうる危険性をいかに緩和していくかという問題で、国家間でも「情報南北格差」は将来の紛争の原因になりうると思われている。

④は天災や人災によつてコンピュータシヨンのシステムが破壊された場合、それへの社会の依存度が高ければ高いほど混乱が大きくなるので、どのように代替システムなどを準備しておくかという問題である。コンピュータシヨンの犯罪と社会との対決はエスカレートせざるを得ないであろう。

⑤に関しては欧米各国で保護法の制定が相ついでである。OECDからも「プライバシー保護と個人データの越境流通についてのガイドラインに関する勧告」がだされており、これに従わないと他国のデータ網へのアクセス権を失うことありうる。

このように、コンピュータシヨンを社会を形成していくためには、社会的な合意形成や制度の確立などの面で突破すべき点が多く、またそのような社会的準備の方が技術的準備よりも一層面倒で時間がかかるものであると考えられている。

(増川重彦)



尾関通允さん

!!!!!!!

先進国病の共 同研究に着手

|||||

国際交流基金の監事という公職がある
ので週一回程度は紀尾井町の方へ顔を出
し文化交流の仕事に携っている。そのほ
かの日は大抵私が主宰する西新橋のアジ
ア社会問題研究所へ通勤している。そこ
では私のライフ・ワークである労働問題
中心の勉強をつづけている。そして頼ま
れば月に幾度かは講演に出かけたりし
ている。

政府関係の審議会やNHKの番組審議
会、そのほか各種の会合などに出たりし
ていると結構日程は埋まってくる。

休日にはもともと安あがりな練馬区の
テニス・コート借りて同好の人たちと
汗を流し、ときには自宅で絵筆をとるこ

ともある。結構、余裕はある。

ただ、そうした生活をしながら思うこ
とは、日本の将来にとって、教育と労働
問題がもつとも重要なという認識が強ま
っていることである。とくに、工業先進
国の現状を見ると、失業とインフレと
労使関係がどのような関連をもつかにつ
いて考えざるをえないと思っている。

そこで最近、アジア社研を足場に、仮
題「先進国病と日本」の共同研究をはじ
めた。

というのは、世界の優等生といわれた
西ドイツと日本であるが、西ドイツがに
やかに情勢が変化し悪くなってきた、そ
の原因は一体何なのか、病状の報道はあ
るが病気の原因は解明されていないので、
その病根を掘り下げ、日本と対比しよう
とするものである。

いまのところ、四人の研究者が中心に
なり共同研究の形で討議を重ねている。

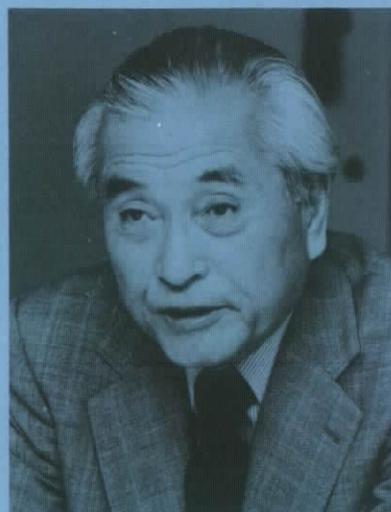
!!!!!!!

著述と講師で 半浪人の生活

|||||

鉄幹氏とは違って「石落々水を引き
池には躍る魚の影」とまではまいるま
さんが「しばし疾いをやしないで 都に近
き仮住居 ここも浮世をのがれねば な
おも苦しむ午(ひる)の熱」という心境

滝田 実さん



たとえば、教育制度と労働組合の関連、
勤労観、労使関係と共同決定法、技術革
新と生産性などが課題にあがっている。
それぞれ専門分野の方々の協力と奉仕で
取り組んでいる。どの程度のものがま
まるか、やり甲斐のある仕事だと思っ
ている。この共同研究の結果はいずれ発表
できると楽しみにしている。

(大来佐武郎部会 アジア社会問題研究
所理事長)

がよくわかるこのごろです。この一月末
で日本経済新聞社を依願退社しましたが、
その直後に一過性脳虚血発作という脳血
栓(けっせん)のごく初期の症状を起こ
しまして、以後四月半ばまで入院を繰
り返し、その後は小康を得て、仕事の方
も少しずつ、というところですよ。

とは申しましたが、目下のところは半
浪人の身の上、そう忙しいわけはなく、
無理もききませないので、一日置きに自宅

私の近況



山田ロミさん

!!!!!!! 子供たちと共に 楽しい毎日 !!!!!!!

去年にくらべて、今年はすべてに精神的ゆとりがあって、なんか心楽しい毎日である。というのも去年一年は我が息子の中学受験で、塾と勉強にあけくれ、仕事を待つ母親としては、よそ様のように、

と代々木の仕事部屋との間を往復し、雑文を半ば楽しみながら書いております。昨今は、定期出稿が長短とりまぜて月に七本でするので、もう少し書かせていただけるところがあれば、と思っております。テーマは財政・金融・為替・証券・貿易などで、他に、新聞紙面からいい加減な記事を拾い上げてはコメントをつけてまとめることをやっています。もともと、この方はまだ買手がついていません。

どなたか、よさそうな出版社を御紹介下されば、大変にありがたいのですが。半浪人と書きました。これは、新聞社を辞めたあとも、もう一つの勤め先である自由学園へは引き続き行っているからですが、この方は臨時講師ですから、したがって半浪人という次第です。学園では、時事と文章作法を各二コマずつ計四コマを受け持っています。

というわけで、持て余すほどはあり

受験の年はすべて子供中心にとまていかず、すべてに満足のいく毎日とはいえなかった。

そんなハンデイーにもめげず、息子はよく彼なりにがんばり、希望の森村学園に無事合格した。世にいう、勉強のみの受験校とちがって、家族的で先生方の愛情溢れる森村は、個性をのばしたいと念願する私たち夫婦を十分満足させてくれる素晴らしい学校で、息子は実に楽しみにピカピカ中学一年生を楽しんでいる。

私もある程度子供のことから解放されて、(といっても精神的なものだけで、物理的には部活動のバスケットボールの朝の練習のため毎日五時起きのお弁当作りとなって、前より忙しくなったけど)仕事にも打ちこめるようになった。

去年は塾の夏期講習のため、夏休みはほとんど何処へも行けず、わずか五日間軽井沢の別荘でのんびりしただけであっ

ませんが自由時間はたっぷりあり、その間いろいろなことを考えます。最近、例えば太陽熱利用や原子力など国産ないし準国産のエネルギー開発促進が、いま問題の貿易摩擦を避ける前提にもなるのだな、ということに考えたりしました。以上、近況の一端です。

(茅誠司部会 著述業・自由学園講師)

た。

今年は、七月に三日間九十九里浜に行き、大波に大喜びしてどんどん遠くへ行ってしまふ息子に、声をかざりに呼び心配し、その後、軽井沢に来てからは優雅な毎日である。

私は、レコーディングのための新曲に取り組み、練習と原稿かきとワイワイ集まっている子供たちのリーダーシップをとり、毎日忙しい。

二十日からは、息子のバスケットボールの部活動が始まり、私も仕事が始まる。秋は歌手にとって忙しい時なのである。

ステージの仕事が多く、ジーンズとトレーナーで、軽井沢の林の中を子供たちと飛びまわっている生活から、きれいな化粧して、キラキラのイヴニングをまとい、色っぽく歌う毎日も間近である。

八月十四日、軽井沢にて。

(加藤芳郎部会 歌手・俳優)

私の近況

一九三六年十月、神奈川県横浜市生れ。

東京教育大学文学部日本史教室、同大学院を終了後、同大学文学部助手、東京大学芸学助教授を経て、筑波大学歴史人類学系助教授並びに国立民族学博物館、新設の国立歴史民俗博物館客員部門助教授

を兼ねる。

専攻は日本民俗学、民間信仰史。故和歌森太郎、桜井徳太郎氏らに師事。卒業論文は、木曾御嶽山の中に入り、木曾谷の行者たちの生活行動を歴史のかつ民俗学的に調査しまとめた。これをきっかけに全国の山岳信仰の研究に着手したが、とりわけ富士山の信仰が、日本人の世界観

とどのような関わり合いをもつのか、各地の農村地帯の宗教生活を調べ上げてまとめたものを学位論文として提出した。これはのちに『ミロク信仰の研究』（未来社／昭和四十五年）として公刊され、日本宗教学会賞を受けた。

学生時代から、日本の民間信仰のあり方を通して日本人のものの考え方について考慮することに専念してきた。したがって各地の村や町をフィールドにしているが、ムラ人が、神社や寺・庵その他の小祠、石仏をどのように祀り上げてきたのかを調べている。

21世紀フォーラムへの参加は、加藤秀俊氏からのおすすりによるものだが、私

自身、亡くなられた宮本常一先生のファンの一人であった。宮本先生の民俗学は、経世済民の志しの高さが先生のお人柄と合って魅力的なものであり、柳田国男や、折口信夫の開いた民俗学とは又違った味わいをもっている。この宮本先生の欠員をうめることは、とうてい叶わなけれども、民俗学的な見方をもって日本のムラを考える立場は、何とか確保しなくてはと、心細いながら参加させていただくこととなった。

道ばたに何気なく転がっている石仏や小祠にこめられたムラ人の心意を通して、今後のムラ社会の展望に役立つ発言ができればと、ひそかに思う次第である。

新メンバー紹介

宮田 登さん

加藤秀俊部会
筑波大学歴史人類学系助教授



宮本千晴さん

加藤秀俊部会
近畿日本ツーリスト 懶日本文化研究所所員



子供を持つようになると、人は誰でも

実感として人間が過去から未来へつながる存在であり、個人を超えた種という流れのなかの一滴の水のようなものにはすぎないことに気づくのではないのでしょうか。そして、ある時ふと自分が次の世代に期待していることにも気づきます。次の世代というのは、必ずしも自分の子供ではなくて、その先につづく生命のつながり

でもあり、また同類たちの次の世代全部でもあります。

期待といっても、大したことを期待するのではありません。自分のやれなかったこと、自分たちの解決できなかったことを、次の世代がそう簡単に解決できるはずがありません。ただ生きながらえ、つづいていくれば良いのです。そのうち種という確率のしくみが、チャンスをつかむから——そういう期待です。

しかし、正直なところ、少し視点を遠くけて考えれば、この百年の間にも、人類は必ず人口を激減させるような事態を招くでしょうし、その経験は一度や二度では卒業できないように思います。これほど人間がそろって肉体的感覚的なレベルを超える観念的な価値に振りまわされた時代はなかったでしょうし、文明という文化のありようは、その傾向にますます拍車をかけているからです。

こんなとき、とりあえず頭を冷して、ここまでは確かという地点に戻って発想し直すことが良いと思っています。たとえば個々人の世界観、価値観の体系の骨格を、極力個々人の直接の経験と思考で形づくるようにすることです。親から子へ、身をもって生きる術と世の中のこと

を伝えることで世代の続いた時代から、一揆に不連続な都市的世界となった今ほど、若い世代にそういう場を与える工夫の必要な時はなかったと思います。そして、もう一つはその何歩か先、たとえば日本のように大きな争いの少なかった社会を見直してみることかと思えます。

私は特に経歴というほどのものではなく、学生時代は山登りに夢中になり、その後「はちよつと、探検熱」にかかり、さる旅行会社の中に、亡父を手伝って梁山泊をうんとけちにしたような研究所を作ることにこれまで過ごしてきました。若くてあまりとりえのない、どこか世の中に適応しきれないような連中をステイミュレイトするのが趣味といえます。

(昭和十二年生)

部会報告

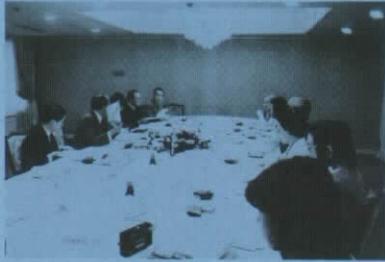
第13回 茅誠司拡大部会

昭和56年6月25日

テーマⅡ原子力発電所の事故はなぜ起きるのか—敦賀原子力発電所スピーチⅡ高橋宏（資源エネルギー庁長官官房審議官）

出席者Ⅱ茅誠司、尾関通九、木元教子、三枝佐枝子、中村真、松根宗一、村田浩、木田宏、松山幸雄
部会では、講師の高橋宏氏が、日本原子力発電（株）敦賀発電所における事故について講演した。

氏は、同所における放射性物質洩れその他の原因は、廃棄物処理建屋の設計・施工の管理上の問題に、運転管理面の人為的ミスが加わったことによると説明。そして、今回の事故調査の結果、浦底湾と敦賀湾で採取した海水および食用魚介類からは、



放射性物質は検出されなかったこと。一方、発電所近くで採取した貝からは微量の放射能が検出されたが、法令許容線量以下であり、人体への影

響はまったくないこと。また、作業員に対する放射線も法令許容量にも満たないことなどを説明。さらには、原子力開発と利用が、将来にわたって国民生活の安定と向上をはかるために必要不可欠なことを強調した。その後、講師と出席者との活発なディスカッションが行なわれ、盛況のうちに閉会した。

加藤秀俊部会

昭和56年7月5日

テーマⅡ青ヶ島の話
スピーチⅡ小林亥一（氷川中学校講師）

出席者Ⅱ加藤秀俊、川喜田二郎、宮田登、宮本千晴、米山俊直
昭和五十三年一月十一日、伊豆諸島が、静岡県から東京都に移管されて百年を迎えたが、これを記念して青ヶ島では、島の歴史を記録した『青ヶ島島史』を作成した。今回は、この本を作成した小林亥一氏が、青ヶ島について報告した。

小林氏は、青ヶ島は伊豆諸島の中でも最も最南に位置し、黒潮荒れ狂う絶海の真つただなかに浮かぶ狭小な火山島であり、江戸中期に大噴火が起こって生活・文化・産業等が破壊された歴史。それから約一世紀半、

江戸後期・明治・大正・昭和といろいろに曲折変転しつつ、島の歴史は流れたと説明。最近では、抜本的に後進性を脱し、青ヶ島ユートピアを

建設しようと島民全員が一生懸命になっていること。特に青年達が島にもどってきて頑張っていることなどを語った。

なお今回は、出席者全員が、事前に『青ヶ島島史』を読んでいたため、討論会も詳細にわたって行なわれた。

大来佐武郎部会

昭和56年7月20日

テーマⅡ国際化時代における英語教育のあり方
スピーチⅡ木田宏（国立教育研究所所長）

出席者Ⅱ大来佐武郎、河合三良、中村真、松山幸雄、ロベール・J・パロン
特別出席者Ⅱ中島章夫（初等中等教育局高等学校教育課長）

最近の日本の中学校は英語の授業



が週三時間になったが、これをどう考えるか。三時間で何を教えるか。今回は、英語教育のあり方を、木田宏氏が講演した。

明治・大正・昭和と時代ごとの英語授業の時間数・授業法・教科の存廃論・社会的背景等を説明。それによると、明治以来、英語授業の時間数は減ってきた。そして昭和三十三年を境に英語授業の時間数は、選択時間プラス三時間になったこと。基本的には、週三時間というのは変わっていないと説明。さらには、英語教育本来の目的は、英語で考える力を養う、英語国民の風俗・生活を学ぶことであること。しかし、受験科目に英語があるから勉強するという状況では、本来の目的は無理だと指摘。毎日英語で何事かを考えるような生活環境の中で育てていくしか方法は無い、と強調した。

討議では、本当に勉強しようと思つたら、どのようにしても勉強はできるのが、今の日本であるとの意見にまとまった。（斎藤みな・記）

21世紀フォーラム 第一〇号

発行 一九八一年九月三十日
発行人 笠井章弘
発行所

21世紀フォーラム事務局
東京都千代田区永田町二の二〇
の二秀和永田町TBR六〇一
（株）二十一世紀企画内
電話〇三五〇八一・二六三五

編集

21世紀フォーラム事務局
印刷

（株）東京印書館

21世紀フォーラム / 部会メンバー

発起人

内田 忠夫 東京大学教養学部教授

加藤 秀俊 学習院大学法学部教授

加藤 芳郎 漫画家 漫画家協会理事

茅 誠司 東京大学名誉教授 日本学士院会員

小松 左京 作家

東畑 精一 東京大学名誉教授(財) 政策科学研究所顧問

中山伊知郎 (故人)

松本 重治 (財)国際文化会館理事長

向坊 隆 原子力委員会委員長 代理 前東京大学総長

川野 一宇 NHKアナウンサー

小島 功 漫画家

砂川 啓介 俳優

鈴木 義司 漫画家 漫画家集団所属

田崎 潤 俳優

檀 ふみ 俳優

坪内ミキ子 俳優

富田 純孝 NHKディレクター

中田 喜子 俳優

蕃目 良 俳優

水沢 アキ 俳優

三橋 達也 俳優

ロミ 山田 歌手 俳優

渡辺 文雄 俳優

高原須美子 評論家

富舘 孝夫 (財)日本エネルギー経済研究所研究部長

中村 貢 朝日イブニングニューズ社代表取締役社長

永井陽之助 東京大学教授

橋口 収 公正取引委員会委員長

深海 博明 慶応義塾大学経済学部教授

伏見 康治 名古屋大学・大阪大学名誉教授 日本学術会議会長

松根 宗一 大同特殊鋼相談役 (社)経済団体連合会常任理事

村田 浩 日本原子力研究所顧問

小松左京部会 テーマ 大正文化研究

小松 左京 作家

河合 秀和 学習院大学法学部教授

中村 隆英 東京大学教養学部教授

大来佐武部会 テーマ 世界の中の日本

大来佐武郎 内外政策研究会会長 (社)日本経済研究センター理事・顧問

江藤 淳 評論家 東京工業大学工学部教授

河合 三良 (財)国際開発センター理事長

北原 秀雄 前駐仏大使 (株)西武百貨店顧問

木田 宏 国立教育研究所所長

小林陽太郎 富士ゼロックス(株)社長

篠原三代平 成蹊大学経済学部教授

滝田 実 アジア社会問題研究所理事長

堤 清二 (株)西武百貨店会長 (株)西友ストアー社長

中根 千枝 東京大学東洋文化研究所所長 国際人類学民族学会副会長

中村 貢 朝日イブニングニューズ社代表取締役社長

林 雄二郎 (財)未来工学研究所副理事長

松山 幸雄 朝日新聞社論説委員

ロベール・J・パロン 上智大学比較文化学科教授

松本重治部会 テーマ 二十一世紀における日本人の生き方

松本 重治 (財)国際文化会館理事長

川喜田二郎 筑波大学教授

永井 道雄 朝日新聞社委員論説委員

中村 元 東方学院院長 東方大学名誉教授

本間 長世 東京大学教養学部教授

横 文彦 東京大学工学部教授

武者小路公秀 国連大学プログラム担当副学長

村上 兵衛 (財)日本文化研究所専務理事

柳瀬 睦男 上智大学学長

国際交流研究部会

遠山 一 タークタックス 歌手

喜早 哲 タークタックス 歌手

佐々木 行 タークタックス 歌手

高見沢 宏 タークタックス 歌手

石井 好子 歌手

小林 道夫 チェンパロ奏者

佐賀 和光 建築家

佐々木信也 スポーツ・キャスター

千一 宗室 裏千家家元

堤 清二 (株)西武百貨店会長 (株)西友ストアー社長

富田 勲 シンセサイザー作曲・演奏家

服部 克久 作・編曲家

松原 秀一 慶応義塾大学文学部教授

三村 忠良 日本国有鉄道職員局労働課長

ミルトン・L・ラドミルビッチ アメリカ公立アメリカンスクールビジネスマネージャー

村上 兵衛 (財)日本文化研究所専務理事

山城 祥二 芸能山城組組頭 筑波大学講師

吉川 光 NHK整理部担当部長

事務局

笠井 章弘 (財)政策科学研究所理事

生田 豊朗 (財)日本エネルギー経済研究所所長

依田 直 東京電力(株)取締役企画部長

山田 嗣 (財)政策科学研究所主任研究員

斎藤 みな (株)二十一世紀企画

村野 京一 (株)二十一世紀企画

(各部会とも五十音順)

加藤秀俊部会 テーマ 日本の村の将来

加藤 秀俊 学習院大学法学部教授

川喜田二郎 筑波大学教授

宮田 登 筑波大学助教授

宮本 千晴 近畿日本ツーリス(株) 日本文化研究所所員

米山 俊直 京都大学教養学部教授

加藤芳郎部会 テーマ 日本のサイバイバル

加藤 芳郎 漫画家 漫画家協会理事

青空うれし テレビタレント

青空はるお テレビタレント

天地 綾子 歌手 タレント

大山のぶ代 俳優

大和田 獏 俳優

岡江久美子 俳優

加治 章 NHKアナウンサー

茅 誠司部会 テーマ 明日のエネルギー

茅 誠司 東京大学名誉教授 日本学士院会員

有澤 廣巳 東京大学名誉教授 (社)日本原子力産業協会 会長 日本原子力院院長

生田 豊朗 (財)日本エネルギー経済研究所所長

稲葉 秀三 (財)産業研究所理事長

内田 忠夫 東京大学教養学部教授

大島 恵一 (財)工業開発研究所所長

岡村 和夫 NHK解説委員

尾関 通允 著述業 自由学園講師

金森 久雄 (社)日本経済研究センター 理事

木元 教子 放送キャスター

五代利矢子 評論家

斎藤 志郎 日本経済新聞社アジア 総局長

三枝佐枝子 評論家 商品科学研究 所所長

小松左京部会 テーマ 大正文化研究

小松 左京 作家

河合 秀和 学習院大学法学部教授

中村 隆英 東京大学教養学部教授

大来佐武部会 テーマ 世界の中の日本

大来佐武郎 内外政策研究会会長 (社)日本経済研究センター理事・顧問

江藤 淳 評論家 東京工業大学工学部教授

河合 三良 (財)国際開発センター理事長

北原 秀雄 前駐仏大使 (株)西武百貨店顧問

木田 宏 国立教育研究所所長

小林陽太郎 富士ゼロックス(株)社長

篠原三代平 成蹊大学経済学部教授

滝田 実 アジア社会問題研究所理事長

松本重治部会 テーマ 二十一世紀における日本人の生き方

松本 重治 (財)国際文化会館理事長

川喜田二郎 筑波大学教授

永井 道雄 朝日新聞社委員論説委員

中村 元 東方学院院長 東方大学名誉教授

本間 長世 東京大学教養学部教授

横 文彦 東京大学工学部教授

武者小路公秀 国連大学プログラム担当副学長

村上 兵衛 (財)日本文化研究所専務理事

柳瀬 睦男 上智大学学長

国際交流研究部会

遠山 一 タークタックス 歌手

喜早 哲 タークタックス 歌手

佐々木 行 タークタックス 歌手

高見沢 宏 タークタックス 歌手

石井 好子 歌手

小林 道夫 チェンパロ奏者

佐賀 和光 建築家

